

明治国際医療大学 看護学部

看護学科

講義概要

〔2017〕

講義科目名称：大学の教育と研究

授業コード：3K101

英文科目名称：ダイガクノキョウイクトケンキュウ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山下 八重子 他数名			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	本学の建学の精神・教学の理念を学び、本学の看護学部が目指す社会に貢献できる看護師となるために、本学の教育について理解する。さらに、他学部の教育について学び付属病院の役割について学び、本学の学生としての自学と心構えをもち、自己の将来の目標に向かってしっかり学びを進める力を身につける。本学部特有の「西洋医学に加えて東洋医学を学ぶ」ことの意味も考えて現代医療を考えるきっかけをつくる。
授業計画	<p>第1回 本学の建学の精神・教学の理念、沿革と教育の特徴を理解する。(山下)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 和の精神・教学の理念 2. 発展の歴史 3. 看護学部のカリキュラムの特徴 <p>第2回 東洋医学の考え方と看護の関連性(佐藤教授)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラムの特徴である東洋医学の特徴 2. 東西両医学を有機的に関連づけるとは <p>第3回 医療人の心構え(山下)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職の特殊性を知る 2. 倫理性の高い職業であることを認識し、倫理について知る <p>第4回 保健医療学科の教育(岡本教授)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育概要と目指す医療人像 <p>第5回 救急救命学科の教育(樋口教授)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育概要と目指す医療人像 <p>第6回 付属病院の役割(苗村病院長)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代医療における部お院の役割 2. チーム医療・統合医療・看護師に期待されること <p>第7回 鍼灸学部の教育(角谷教授)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育概要と目指す医療人像 <p>第8回 医療人と生涯教育(山下)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理観 2. 専門職としての研究の必要性 3. キャリア形成
授業時間外の学習(準備学習等)について	学生便覧に目を通しておく
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席は厳密に取ります。 感想文の提出は講義終了後1週間目の12時まで。
担当教員の基本情報	山下八重子(看護学部) 佐藤裕見子(看護学部) 樋口敏宏(保健医療学部・救急救命学科) 角谷英治(鍼灸学部) 岡本武昌(保健医療学部・柔道整復学科) 苗村健慈(付属病院病院長)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
小川 将司			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	「心」は実に曖昧なものでありながらも、我々にとっては非常に身近なものでもある。本講義では「心」を対象として、学問としての心理学を切り口に、心の認知・記憶・知能・感情・性格といった諸側面は、どのような構造を持ち、どのように発達するのか、心はどのように動くのか、などを理解する。 こうした心理学の基礎とともに、カウンセリングや精神疾患をはじめとする臨床心理学的援助についての基本的な考え方を学ぶ。適切な医療的ケアを施すために、患者の心の動きにどう寄り添うかについて、基本的な考え方を身につけることを目標とする。
授業計画	1回目 インTRODクシヨN、知覚と学習 [到達目標] 心理学の歴史および概要を踏まえ、人間の基本的な知覚・学習のメカニズムを学ぶ。 2回目 社会と集団 [到達目標] 社会的存在としての人間の心理や人間同士の相互作用、単体／集団で異なる人間の心理過程を学ぶ。 3回目 成長と発達 [到達目標] 年齢とともにある心身の変化、生涯において成長していく人間の在り方について学ぶ。 4回目 性格とアセスメント [到達目標] 個人を特徴づけるものを科学的に捉える試みについて学ぶ。 5回目 心の悩みと臨床 [到達目標] 何らかの心理的／行動的問題の援助・査定・予防・研究に焦点を当てる臨床心理学の概論を学ぶ。 6回目 心理療法の理論 [到達目標] 不適応から回復するための心理的な援助の手法について、基本的なものを学ぶ。 7回目 精神疾患 [到達目標] 心の正常なはたらきが一時的に失われる、心の病気について基本的なものを学ぶ。 8回目 まとめ
授業時間外の学習 (準備学習等)について	心理学的事象は日常生活においても数多く見られる。 講義内で学習したことを思い出しながら身近な出来事へと照らし合わせることで体験的理解へと深めること。
教科書	特になし。適宜資料を配布する。
参考書	特になし。
成績評価	毎回の出席状況・授業態度40%、期末試験60%として、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小川 将司 研究室 : (非常勤講師) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	

講義科目名称：現代国語読解

授業コード：3K104

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
下川 篤			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	日本語を読み、理解し、書く能力は学習を進めるアカデミックスキルとして不可欠であり、また社会人、医療人としても必須の能力です。 この講義では、日本語の表記や文章の構成等について学び、小論文を実際に書くことを通して、日本語のリテラシーを身につけ、日本語を正しく使うための基礎的知識を学ぶことを目標とします。		
授業計画	1回目	国語力の確認テスト [到達目標] 自らの国語力を確認する	
	2回目	当初テストの解説、日本語の表記について [到達目標]	
	3回目	文章構成の基本1 [到達目標]	
	4回目	文章構成の基本2 [到達目標]	
	5回目	小論文の書き方。小論文作成1 [到達目標]	
	6回目	小論文1について。小論文作成2 [到達目標]	
	7回目	小論文2について。小論文作成3 [到達目標]	
	8回目	まとめ（評価含む） [到達目標]	
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業で適宜案内します。		
教科書	授業で配布するプリントを使って、日本語の表記や文章の書き方等について学びます。また、読む側が正確に理解できる文章の書き方について練習します。		
参考書	国語辞典（高校時代のものでよい。電子辞書も可。）		
成績評価	出席や提出物、試験、の三項目を総合的に評価します。 出席20%、提出物20%、試験60%で評価します。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：下川 篤（非常勤講師）	
	研究室	：6号館1階非常勤講師室	
	メールアドレス	：	
	オフィスアワー	：授業終了後	
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	看護をこれから学ぼうとする学生にとって、学修を深めるために必要な9つの能力「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」を身につけるための基礎教育として本授業を位置づける。そして、これから学ぶ様々な学問を理解し、看護実践に生かすことができる能力を育てる。		
授業計画	第1回	導入 スタディ・スキルズとは 大学で学ぶとはどういうことかを理解する。	
	第2回	聴く・読む 1) ノートのとり方が分る 2) テキストの種類に応じた読み方ができる	
	第3回	要約する・自分の意見を持つ 1) 要約の作成 2) 読書を通じて自分の考えを持つ	
	第4回	調べる・資料を集める 1) 情報収集の概念と必要性を学ぶ 2) 大学図書館の利用方法を知る	
	第5回	インターネットによる情報収集 1) インターネットでの文献検索を体験 2) 情報の整理 エクセルを起動させてみる	
	第6回	アカデミック・ライティングの基本 1) レポートと感想文の違いを学ぶ 2) 論文構成を学ぶ	
	第7回	効果的なアカデミック・ライティングの基本 1) わかりやすい文を書くためのポイントをつかむ 2) 視覚的にわかりやすい表現方法のポイント	
	第8回	プレゼンテーションの基本的スキル 効果的な伝え方	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教育の基礎で学習した内容を教科書添付の「CD-Rom」を視聴しておく		
教科書	「大学生からのスタディ・スキルズ、知へのステップ」学習技術研究会編		
参考書	特にありません		
成績評価	①GW参加状況・積極性を担当教員が評価する 80点 ②ワードを使って本講義で学んだことを1000文字程度にまとめて提出する		
担当教員の基本情報	佐藤裕見子10号館8階 メールアドレス:y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 小倉之子10号館7階 メールアドレス:y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 河原照子10号館8階 メールアドレス:t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 梶川拓馬10号館7階 メールアドレス:t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時		
備考			

講義科目名称：京都の文化と健康

授業コード：3K110

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山下 八重子 他数名			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	京都は日本の長い歴史の中で政治や文化の中心として重要な役割を担ってきた年であり、伝統的な特有の文化を発展させてきている。特色ある職業や生活様式などに精通した講師から、様々な文化を学び、異文化を理解することで人間について考える。また、様々な視点から京都の文化を紐解き、看護の視点で健康を考えることができる。
授業計画	<p>第1回 京都の陶芸の歴史をに触れよう 焼き物の時代背景に応じた変遷を学び、文化と健康について考えてみよう。</p> <p>第2回 京野菜と健康 南丹から丹波地域で栽培されている黒豆の農家さんより講義うを受ける。野菜と健康について考えてみよう。 試食もあり。</p> <p>第3回 座禅体験 お寺の歴史を学び、座禅体験を通して座禅の真髄に触れてみよう。</p> <p>第4回 京都の楽しみ方① 地域の高校の京都文化コースで行っている先生の講義です。</p> <p>第5回 京都の楽しみ方② 地域の高校の京都文化コースで行っている先生の講義です。</p> <p>第6回 南丹市を知ろう 大学が立地する南丹市について知ろう。地域振興局の方の講義です。</p> <p>第7回 南丹市で遊ぼう 地元の良い所を知って、でかけてみよう。</p> <p>第8回 まとめ これまで学んだ様々な方のお話と自分で調べた京都の文化を織り交ぜて、京都の文化と健康についてグループでディスカッションする。 締め切りまでにレポートを提出する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	各自京都について興味のある事項についてインターネット等を通じて調べておく。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席点と講義レポートで評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp
備考	講義は様々な職業に従事する講師が担当するオムニバス形式の講義です。 陶芸家・僧侶・農家・高校教員・南丹市職員等の方々から様々な講義が聞けます。 選択科目ですが、大学の教育と研究という必須科目とランダムに講義日程を組んでいます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	人体の仕組みを理解する上で必要となる物理、及び数学の基礎知識を習得し、人体の動きに代表される自然界の様々な現象を、物理量によって表現できることを到達目標とする。 骨、筋肉、神経など人体の構造と役割を理解する上で必要となる、力学や電磁気学など物理学的な考え方を習得し、呼吸や血液の働きと密接な関わりのある、液体と気体の性質について学習する。
授業計画	<p>第1回 力のつりあいとモーメント 到達目標：力学の基礎である力のつりあいとモーメントについて理解できる。</p> <p>第2回 摩擦と運動方程式 到達目標：力学の基礎である運動方程式が理解できる。</p> <p>第3回 等加速度運動 到達目標：等加速度運動とはどのようなものであるか理解できる。</p> <p>第4回 放物運動 到達目標：放物運動とはどのようなものであるか数式から理解できる。</p> <p>第5回 慣性力と運動方程式 到達目標：慣性力とはどのようなものであるか、どのようなときに考慮すべき力なのか理解できる。</p> <p>第6回 2つの保存則 到達目標：エネルギー保存則と運動量保存則について理解できる。</p> <p>第7回 中間試験 到達目標：第1回～第6回までの力学の内容を理解できる。</p> <p>第8回 円運動 到達目標：円運動について理解できる。</p> <p>第9回 万有引力 到達目標：万有引力の法則について理解できる。</p> <p>第10回 単振動 到達目標：単振動と等速円運動との関係を理解できる。</p> <p>第11回 電磁気 到達目標：電気の性質を理解し、電気抵抗、電流、電圧の計算ができる。</p> <p>第12回 波動 到達目標：波の動くイメージを理解することができる。</p> <p>第13回 熱力学 到達目標：気体の状態方程式を理解できる。</p> <p>第14回 原子 到達目標：原子の基礎的な物理特性について理解できる。</p> <p>第15回 試験及び総括 到達目標：講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し理解することができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	必ず復習すること。(30分)
教科書	特に指定しない。
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録―新課程 数研出版株式会社(著) ISBN-10: 4410265121
成績評価	試験80%、課題20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 〇赤澤 淳 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	生物体のなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織へと順に学ぶ。生物の遺伝の原理と発生のしくみを理解し、人間が受精卵というたった1個の細胞からどのようにして発生し、この世に生まれてくるかを知ること、一人一人の人間が生活している不思議さと尊厳さを再認識する。人は、この地球上の多種多様な動物・植物、微生物種やウイルスが存在する広い生物界にいる。人は、この生物界の生存をかけた食物連鎖の中におり、食物をどのようにして食べ、その栄養分をどのように利用してカラダの構成成分を作るかなどを学習し、医療人の一人として人間の存在意義について理解し考察できることを目指す。
授業計画	<p>1回目 序論：ヒトを含む高等哺乳動物の共通性と特性 [到達目標] この地球上に生息する生物種の分類について説明できる。 [備考] 毎回、講義に必要な部分のプリントを配布。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！ヒトは生まれてから死ぬまで、いったい何をしているのだろうか？（数字でみる人体の不思議）</p> <p>2回目 生体物質 [到達目標] 体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。タンパク質、糖質と脂質について説明できる。 [備考] タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル、水など</p> <p>3回目 生命の実体、細胞と細胞小器官 [到達目標] 細胞とその働きを理解する。組織、器官と器官系の成り立ちについて説明できる。 [備考] 生命の最小単位である細胞。細胞の仕組みと働き。組織、器官、器官系の成り立ち。</p> <p>4回目 生物のカラダの維持と生命活動に必要なエネルギー [到達目標] 呼吸をする、食べる（栄養素の供給）を通してエネルギーの生産および体成分の変化を説明ができる。さまざまな代謝系（代謝経路マップ）の説明ができる。 [備考] 生命維持と活動に必要なエネルギーはどこからくるのか？</p> <p>5回目 動物の体の成り立ち。ホメオスタシス（恒常性） [到達目標] ヒトとは異なる体の生き物も同じような器官・組織系からできていることを理解し説明できる。 [実習と演習] 大学内に棲む生物を探索し観察して見よう！京丹波の生き物を通して生物の多様性を理解する。 [備考] 多種多様な生物の理解。外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節（生体の化学成分はほぼ一定）。代謝。カラダを守る（免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など）</p> <p>6回目 遺伝子の働き（1） [到達目標] 染色体と遺伝子について説明できる。 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう。 [備考] 生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳</p> <p>7回目 遺伝子の働き（2） [到達目標] 遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。 【実習と演習】 遺伝子DNAを見てみよう！ [備考] 生命体の設計図であるDNAを簡単な実験で見てみよう！（DNAはどれだけ集めれば肉眼で見えるのか？）</p> <p>8回目 細胞分裂とガン [到達目標] 複製と細胞分裂、ガンがおこる仕組みを説明できる。 [備考] 複製、体細胞分裂、細胞周期</p> <p>9回目 遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病 [到達目標] 遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。 [備考] メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など</p> <p>10回目 命の誕生（生殖と発生）性の決まるしくみ [到達目標]</p>

	<p>生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。 [備考] 途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞（精子、卵子、受精）減数分裂、染色体ヒトの発生 [到達目標] ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。 [備考] 発生（受精卵の分化、胎児の発育・出生）</p> <p>11回目</p> <p>12回目</p> <p>13回目</p> <p>14回目</p> <p>15回目</p> <p>発育と老化（寿命） [到達目標] 老化、寿命、死、そして生命をはぐくむ自然環境、有機体元素の循環や食物連鎖について理解できる。 [備考] 生命、老化、寿命、死、食物連鎖</p> <p>生物の起源 [到達目標] 生物の多様性と進化のしくみ。 進化論について理解する。 [備考] 生物起源の仮説：進化論、創造説</p> <p>生命科学・バイオテクノロジー [到達目標] 現代生物学の発展について理解し、生物学がもたらす未来について考えることができる。 [備考] 生命科学の発展と未来について</p> <p>講義のまとめと試験 1-14回を範囲として筆記試験 [備考] 講義の総括。1-14回の講義を範囲として筆記試験を行う。 [備考] テストを行い、試験結果を評価する（80%）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>講義は、生物学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努め、わからない場合は調べ、質問して解決に努めること。また、毎回ではないが、講義内容の確認のために講義中に演習プリントを行い、どの程度自分自身が理解できているのか確認する（講義後提出）。</p> <p>遅刻、欠席は授業の妨げになるので、必ず出席すること！</p>
教科書	<p>特になし（講義時間ごとにプリントを配布）</p>
参考書	<p>『視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録』鈴木孝仁 監修（数件出版） 『高校の生物が根本からわかる本』藤井 恒 著（中経出版） 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学』D・サダヴァ（著）、石崎 泰樹他（翻訳）（ブルーバックス 講談社） 『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳（丸善）</p>
成績評価	<p>講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：出席と演習20%、試験80%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
橋本 貴美子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	医療関係に携わる者にとって、英語は、単に社会人の教養として必要であるだけでなく、専門知識の獲得、情報収集・提供、また、コミュニケーションの手段として重要な役割を果たします。「英語 I」では、英文法の基本をおさえつつ、読む・聞く・話す・書くの4技能のバランスのとれた活動を行うことにより、英語の基礎知識の定着を図ることを目標とし、「医療人のための英語」へとつなげます。		
授業計画	第1講	<p>科目のオリエンテーション、Pre-Unit 基本語順、Unit 1 動詞の現在形 Welcome to Japan</p> <p>【到達目標】 動詞の基本語順を理解し、主語に即して動詞の活用ができ、否定文や疑問文などでも正しい活用ができる。 また、動詞の現在形を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第2講	<p>Unit 2 代名詞 That Sounds Like Fun</p> <p>【到達目標】 代名詞の働きや格変化が理解できる。また、代名詞を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第3講	<p>Unit 3 時を表す前置詞 We leave on Friday Morning</p> <p>【到達目標】 前置詞の働きと時を表す前置詞の種類が理解できる。また、前置詞を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第4講	<p>Unit 4 基本文型 You Know a Lot About Trains</p> <p>【到達目標】 英語の基本的な語順のパターンが理解できる。また、基本文型を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第5講	<p>Unit 5 動詞の過去形 I Didn't Want to Leave</p> <p>【到達目標】 動詞の過去形とその変化が理解でき、否定文や疑問文でも正しい活用ができる。また、動詞の過去形を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第6講	<p>Unit 6 進行形 You're Working Late Unit 7 未来形 I'm Sure He'll Understand</p> <p>【到達目標】 進行形と未来形の働きと基本語順が理解でき、否定文や疑問文でも正しい活用ができる。また、進行形と未来形を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第7講	<p>Unit 8 助動詞 I'll Remember That</p> <p>【到達目標】 助動詞の基本語順と種類が理解できる。また、助動詞を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第8講	<p>Unit 9 to不定詞・動名詞 Hiro Forgot</p> <p>【到達目標】 to不定詞と動名詞の働きと基本語順が理解できる。また、to不定詞や動名詞を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第9講	<p>Unit 10 現在完了 How Have you been?</p> <p>【到達目標】 現在完了の意味と基本語順が理解できる。また、現在完了を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。</p>	
	第10講	<p>Unit 11 接続詞 While They're Here</p> <p>【到達目標】 接続詞の働きと種類が理解できる。また、接続詞を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p>	

	<p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。 Unit 12 比較 How Was Tennis?</p> <p>【到達目標】 比較級・最上級の作り方と基本語順が理解できる。また、比較級・最上級を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。 Unit 13 受動態 What Do You Mean?</p> <p>【到達目標】 受動態の働きと基本語順が理解できる。また、受動態を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。 Unit 14 分詞 Well, What Are You Waiting For?</p> <p>【到達目標】 現在分詞・過去分詞の意味と働きが理解できる。また、分詞を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 Grammar Pointsを覚え、書けるようにする。次回小テストを実施する。 Unit 15 関係代名詞・関係副詞 The Last Supper、復習</p> <p>【到達目標】 関係詞の働き、活用や種類が理解できる。また、関係詞を含む文章を聞き、読んで理解し、さらに英語で表現することができる。これまでの既習のGrammar Pointsについて基本的に理解できている。</p> <p>【備考】 今回は既習事項のまとめとして確認テストを行う。 まとめ（評価含む）</p> <p>【到達目標】 既習事項が基本的に理解できている。また、文法や構文に注意して英文の内容が理解でき、さらに、英語で表現することができる。</p> <p>【備考】 まとめとしての確認テストを行い、評価する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1 授業は予習を前提として進めます。予習と復習を励行してください。 ①英文を正確に理解するためには、語彙力と構文力が問われます。辞書を引くのを厭わずに何度でも引いてください。 ②語学の定着には反復練習が不可欠です。まずは音読し、さらには書きながら音読するのを繰り返してください。</p> <p>2 授業以外にも英語に触れる機会は多くあります。積極的にそして主体的に取り組むことにより、平易で基本的なものの楽しさを感じてください。</p>
教科書	「English First Basic」 （大学英語の総合的アプローチ：基礎編） Robert Hickling・臼倉美里 著 （金星堂）
参考書	授業時に紹介します。
成績評価	授業への積極性、授業での発表、小テスト、提出物、定期試験の結果などにより総合的に評価します。授業参加ー25%、発表・小テスト・提出物ー25%、定期試験50%を目安とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 橋本 貴美子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
浅野 敏朗			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>この科目では、4技能を統合的に活用しながら英語の基礎力充実を目指します。具体的には、語彙学習や会話のリスニング、文法学習やリーディング、さらにはライティングから英語によるプレゼンテーションにいたるまでの多様な学習活動を通して、実用的な英語力を身に付けることを目標とします。</p> <p>テキストに扱われているそれぞれのテーマについて、まず重要な語彙を確認してから会話の聞き取り練習をして内容をしっかり把握します。次に、そのテーマに関する短い英文を読んで内容をよく理解します。これらの会話文や英文は、構文や意味を理解しながら正しく音読することができるようになるまで十分に習熟しましょう。また、各ユニットには英語の文法事項が割り当てられています。その文法事項の知識について不十分な個所はしっかり補充し理解を完全にすることに努めましょう。さらに最終的には、各ユニットのテーマに関して、自己表現ができるようになることを目指しましょう。</p>		
授業計画	第1回	Unit 1 Jobs & Careers (現在時制)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第2回	Unit 2 Entertainment (可算名詞/不可算名詞)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第3回	Unit 3 Work Schedule (前置詞)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第4回	Unit 4 Health & Fitness (過去時制)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第5回	Unit 5 Shopping (進行形)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第6回	Unit 6 Business Meeting (代名詞)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第7回	Unit 7 Recruitment (現在完了)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第8回	Unit 8 Customer Needs (接続詞)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第9回	Unit 9 Business Trip (will / be going to)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第10回	Unit 10 Advertising (比較)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第11回	Unit 11 Factory Tour (受動態)	<p>[到達目標] このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。</p> <p>[備考] 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
	第12回	Unit 12 Money Matters (動名詞/不定詞)	<p>[到達目標]</p>

	<p>このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。 〔備考〕 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p> <p>第13回 Unit 13 Leisure (助動詞) 〔到達目標〕 このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。 〔備考〕 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p> <p>第14回 Unit 14 Environment (分詞) 〔到達目標〕 このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。 〔備考〕 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p> <p>第15回 Unit 15 Business Tie-Up (関係詞) 〔到達目標〕 このユニットで扱われている大切な表現を使って英語でコミュニケーションすることができる。 〔備考〕 授業に備えて音声教材をよく聴き問題に解答しておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <p>1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。</p> <p>2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。</p> <p>3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。</p> <p>4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。</p> <p>5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。</p>
教科書	English Switch (ストーリーで学ぶ 大学基礎英語とTOEICテスト頻出語彙) (金星堂) ISBN 978-4-7647-4012-9
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 浅野敏朗 オフィスアワー : 授業後10分間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
渡邊 康晴			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを便利に使い、様々な書類を作成するスキルの獲得を目標とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の習得し、具体的に対処する方法について学びます。</p> <p>4年間の大学生活を送るにあたり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を習得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCとメールの利用法</p> <p>[到達目標]</p> <p>本学のコンピュータとメールを使うことができる 携帯電話（スマホ）で本学メールを使用できる 学生支援システムの役割を知り、利用できる</p> <p>[備考]</p> <p>授業内で大学メールの携帯転送設定を確認する</p>	
	第2講	<p>情報を探す</p> <p>[到達目標]</p> <p>情報メディア教室で印刷が行える 高度なWeb検索が行える</p> <p>[備考]</p> <p>USBメモリー（容量は問わない）とイヤホン（or ヘッドホン）を持参すること</p>	
	第3講	<p>ワープロで文書を作る、タッチタイピングを身につける</p> <p>[到達目標]</p> <p>ワープロが使える、文書のレイアウトを整えることができる タッチタイピングの習得方法がわかる ショートカットキーを使うことができる</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出・小テストあり</p>	
	第4講	<p>表計算1：基本操作と便利な使い方を学ぶ</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトを使って表が作成できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第5講	<p>表計算2：関数とグラフを学ぶ</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトで棒グラフが作成できる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第6講	<p>表計算3：分散と標準偏差を理解する</p> <p>[到達目標]</p> <p>データのバラツキについて説明できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第7講	<p>表計算4：グラフ、表、数値の読み方</p> <p>[到達目標]</p> <p>種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第8講	<p>表計算5：復習と演習</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算で学習した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第9講	<p>表計算を用いたデータ整理と表示法のテスト</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考]</p> <p>表計算のテストを実施する</p>	
	第10講	<p>プレゼンテーション1：プレゼンテーションソフトを使いこなす</p> <p>[到達目標]</p> <p>プレゼンテーションソフトを使うことができる プレゼンスライド上で様々な表現が行える</p> <p>[備考]</p>	
	第11講	<p>プレゼンテーション2：他者と意見を交える</p> <p>[到達目標]</p>	

	<p>他者と円滑にグループワークが行える ディスカッションの内容に従って、プレゼン資料が作成できる [備考] プレゼンテーション3：自分達の意見を発表する [到達目標] グループの一員として自分の考えを提示できる 他者の意見を傾聴できる [備考] プレゼン発表を実施します ビジネスでメールを使う [到達目標] メールのCCやBCC、署名が使える ビジネスメールのマナーが実践できる [備考] 課題提出・小テストあり 第14講 パスワード管理、悪意のあるプログラムを知る1 [到達目標] 適切なパスワードを作り管理することができる マルウェア（コンピュータウイルス）の実態を説明できる [備考] 小テストあり 第15講 悪意のあるプログラムを知る2、ネットの脅威から身を守る [到達目標] マルウェア（コンピュータウイルス）対策を実行できる ネットの脅威から身を守るための対策を実施できる [備考] 課題提出・小テストあり</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	適宜、復習を行い、コンピュータスキル獲得に努めて下さい。
教科書	<p>「情報倫理ハンドブック」 （NOA出版） 学内専用ホームページ http://mmh1.meiji-u.ac.jp/moodle 学外からもアクセスできるホームページ http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture</p>
参考書	「知へのステップ」 学習技術研究会 著（くろしお出版）
成績評価	評価割合は授業内課題17%、小テスト23%、プレゼン発表20%、第9講で実施するテスト40%とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 梅田雅宏 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
佐別当 義博			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、生命倫理学成立の歴史的背景、生命倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療・看護と関係づけて、共に考えることである。		
授業計画	1回目	生命倫理の課題と特殊性 [到達目標] 生命倫理的な思考様式を理解する。	
	2回目	生命倫理の原則 [到達目標] SOLとQOL、自己決定とパターンリズムを理解する。	
	3回目	[備考] 課題レポート：生命倫理の原則について（3回目の講義時に提出） 生殖補助医療の現状① [到達目標] 生殖補助医療の現状について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	4回目	生殖補助医療の現状② [到達目標] 生殖補助医療に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	5回目	[備考] 課題レポート：生殖補助医療について（5回目の講義時に提出） 臓器移植の現状① [到達目標] 臓器移植の現状について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	6回目	臓器移植の現状② [到達目標] 臓器移植に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	7回目	[備考] 課題レポート：臓器移植について（7回目の講義時に提出） 尊厳死と安楽死① [到達目標] 尊厳死・安楽死について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	8回目	尊厳死と安楽死② まとめ [到達目標] 尊厳死・安楽死について自分なりの是非論を展開できるようになる。	
		[備考] 課題レポート：尊厳死・安楽死について（別途指定時に提出）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	①事前に配付される講義資料を読み、問題意識を明確にしておくこと。 ②単元ごとにレポートを実施する。		
教科書	使用しない。講義資料を配付する。		
参考書	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
成績評価	授業計画に記した4回のレポートで評価する。 レポートごとに合否を判定し、基準を満たさない場合は再レポートを課す。		
担当教員の基本情報	担当教員名：佐別当 義博（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：sabetto@kyotogakuen.ac.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
石崎 直人			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身に付けることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTRODUCTIONとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第7回 EBMとCAM EBM（エビデンスに基づく医療）と補完代替医療（CAM）について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>第8回 医療概論のまとめ 第1回～第7回の講義のまとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	初回講義で配布されるテキストを中心に復習してください。
教科書	なし（講義でプリントを配布します）
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	研究室 : 鍼灸センター2F教員室（石崎教授室） メールアドレス : n_ishizaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜～金曜 17:00以降
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
榎原 智美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>人体の構造を熟知することは、医療を行うものにとっては必須のことである。本講義では看護に必要となる人体の正常な形態について各器官系に分けて学習し、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。解剖学 I では、細胞・組織にはじまり、運動器系（骨格と骨格筋）、循環器系、血液および呼吸器系、消化器系の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を、豊富な画像や図譜を駆使して器官系ごとに学習する。各器官の個々の機能は、各々に特徴的な各種細胞とそれらが構成する特徴的な組織構造に裏付けられ、各構造が有機的に連携して全体としての機能を担っている。個々の器官特有の形態学的知識とともに、統合的に器官系の正常構造を学び、人体を俯瞰的に理解することにより、基礎医学、臨床医学の基礎を作る。</p>
授業計画	<p>1回目 人体の構造を学ぶための基礎知識：人体の概要（器官系と器官） [到達目標] 器官系と器官について説明できる [備考] 教科書 pp. 2～11</p> <p>2回目 細胞と組織（1）細胞と上皮組織、支持組織 [到達目標] 細胞と上皮組織、支持組織について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 11～30</p> <p>3回目 細胞と組織（2）筋組織と神経組織 [到達目標] 筋組織と神経組織について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 30～34, 359～371</p> <p>4回目 骨格系（1）骨格と関節 [到達目標] 骨格と関節の構造について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 298～308, 314～318, 324～327, 334, 336</p> <p>5回目 骨格系（2）骨格と関節 [到達目標] 骨格の構成と主要な関節について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 339～344, 348</p> <p>6回目 骨格器系（3）骨格筋 [到達目標] 身体各部の主要な骨格筋について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 309～313, 318～324, 328～339, 344～351, 355～359</p> <p>7回目 循環器系（1）：総論と血管の構造 [到達目標] 循環器系と血管の構造を説明できる。 [備考] 教科書 pp. 158～160, 182～184</p> <p>8回目 循環器系（2）心臓 [到達目標] 心臓について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 160～168, 174～182</p> <p>9回目 循環器系（3）動脈と静脈 [到達目標] 主要な動脈と静脈の走行について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 185～198</p> <p>10回目 循環器系（4）胎生期の循環とリンパ系 [到達目標] 胎生期の循環とリンパ系およびリンパ性器官について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 510～512, 215～218, 467～470</p> <p>11回目 呼吸器系（1）総論、鼻腔、咽頭と喉頭 [到達目標] 呼吸器系の概略、鼻腔、咽頭と喉頭が説明できる [備考] 教科書 pp. 98～102</p> <p>12回目 呼吸器系（2）気管・気管支と肺（ガス交換・呼吸運動） [到達目標] 気管、気管支と肺について説明できる。 [備考]</p>

	<p>13回目 教科書 pp.102～106 消化器系（1）総論、口腔と味覚、咀嚼と咽頭 [到達目標] 消化器系の概要、口腔、咽頭、咀嚼および味覚について説明できる。 [備考]</p> <p>14回目 教科書pp.54-62 消化器系（2）食道、胃と小腸 [到達目標] 食道、胃、小腸および嚥下と蠕動運動について説明できる。 [備考]</p> <p>15回目 教科書pp.63-71 消化器系（3）大腸、膵臓、肝臓と腹膜 [到達目標] 大腸と排便、膵臓と肝臓および腹膜について説明できる。 [備考] 教科書pp.71-85</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書とプリントを使って、予習と復習をおこなうとともに、自分なりのノートを作り知識の整理をする。不明な点あるいは疑問点は、一度自分でよく調べ、それでもわからないことは担当教員に質問して補ってください。
教科書	『系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他（医学書院）
参考書	「解いてわかる解剖生理学」竹内修二（医学教育出版社）
成績評価	中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を行い、総合して評価する。合格基準は平均点数60%以上とする。出席率60%未満の学生さんには受験資格を与えないので注意してください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 榎原 智美 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月、水曜日放課後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
熊本 賢三			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>人体の構造を熟知することは、医療を行うものにとっては必須のことである。本講義では看護に必要となる人体の正常な形態について各器官系に分けて学習し、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。解剖学Ⅱでは、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系および感覚器系の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を、豊富な画像や図譜を駆使して器官系ごとに学習する。各器官の個々の機能は、各々に特徴的な各種細胞とそれらが構成する特徴的な組織構造に裏付けられ、各構造が有機的に連携して全体としての機能を担っている。個々の器官特有の形態学的知識とともに、統合的に器官系の正常構造を学び、人体を俯瞰的に理解することにより、基礎医学、臨床医学の基礎を作る。</p>		
授業計画	1回目	泌尿器系（1）総論、腎臓（1） [到達目標] 泌尿器の概要と腎臓について説明できる。 [備考] 教科書pp. 220-236	
	2回目	泌尿器系（2）腎臓（2） [到達目標] 腎臓と尿生成機構について説明できる。 [備考] 教科書pp. 221-236	
	3回目	泌尿器系（3）膀胱と尿路 [到達目標] 尿路を構成する尿管、膀胱、尿道および排尿について説明できる。 [備考] 教科書pp. 236-241	
	4回目	内分泌系（1）総論、下垂体と松果体 [到達目標] 内分泌系を概説でき、下垂体と松果体について説明できる。 [備考] 教科書pp. 250-271, 286-287	
	5回目	内分泌系（2）甲状腺、上皮小体とランゲルハンス島 [到達目標] 甲状腺、上皮小体とランゲルハンス島について説明できる。 [備考] 教科書pp. 271-278	
	6回目	内分泌系（3）副腎と性腺 [到達目標] 副腎と性腺（精巣と卵巣）について説明できる。 [備考] 教科書pp. 278-288	
	7回目	男性生殖器（1）総論、精巣と精路および外生殖器 [到達目標] 精巣、精路および外生殖器について説明できる。 [備考] 教科書pp. 480-486	
	8回目	女性生殖器（1）総論、卵巣と子宮（性周期） [到達目標] 卵巣と子宮について説明できる。 [備考] 教科書pp. 486-490	
	9回目	女性生殖器（2）卵管と膣、外生殖器およびヒトの発生 [到達目標] 卵管、膣、外生殖器およびヒトの発生について説明できる。 [備考] 教科書pp. 489-510	
	10回目	神経系（1）総論、中枢神経（脊髄） [到達目標] 神経系の概要と脊髄について説明できる。 [備考] 教科書pp. 374-388	
	11回目	神経系（2）中枢神経（脊髄）と末梢神経（脊髄神経） [到達目標] 脊髄と脊髄神経について説明できる。 [備考] 教科書pp. 437-443, 446-450	
	12回目	神経系（3）中枢神経（脳）と末梢神経（脳神経） [到達目標] 脳と脳神経について説明できる。 [備考]	

	<p>13回目 教科書pp. 388-399, 404-408 神経系（4）末梢神経（脳神経）と伝導路 [到達目標] 脳神経と伝導路について説明できる。 [備考]</p> <p>14回目 教科書pp. 400-408, 419-424 感覚器系（1）総論、視覚器と外皮 [到達目標] 感覚器の概要と視覚器と外皮（皮膚）について説明できる。 [備考]</p> <p>15回目 教科書pp. 421-437, 452-458 感覚器系（2）聴覚器, 平衡覚器と疼痛 [到達目標] 聴覚器、平衡覚器と疼痛について説明できる。 [備考] 教科書pp. 437-442, 446-450, 452-458</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	教科書とプリントを使って、予習と復習をおこなうとともに、自分なりのノートを作り知識の整理をする。不明な点あるいは疑問点は、一度自分でよく調べ、それでもわからないことは担当教員に質問して補ってください。
教科書	“『系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他（医学書院）
参考書	「解いてわかる解剖生理学」竹内修二（医学教育出版社）
成績評価	中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を行い、総合して評価する。合格基準は平均点数60%以上とする。出席率60%未満の学生さんには受験資格を与えないので注意してください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○熊本賢三 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : k_kumamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月、水曜日放課後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
安原 正博			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	医療に従事する者は、医療関係法規に関する基本的理解が不可欠である。患者の権利（日本国憲法）、生命倫理（刑法）、医療事故（民法）などの基本法の理解のうえ、厚生行政、医療法、薬事関連法規、医師法、保健師助産師看護師法などの医療関係法規を実務医療現場からみた重点学習項目を講義する。毎回事例を紹介し医療関係法規の法体系を理解する。
授業計画	<p>1 法・法規の概念 日本国憲法、法律の成立施行、衛生法規の沿革意義の理解 日常の事件事例に関する法規法令に興味を持つ。 基本的人権、個人情報 人口動態統計 憲法解釈 13条と25条</p> <p>2 保健師助産師看護師法 業務、免許、禁止されている業務、将来の業務責任と問題点 ナース人材育成、ナースの実数 インフォームドコンセント 介護職との協働</p> <p>3 医師法 医療法 業務、医行為、免許 医療提供施設の相違、診療記録の保管と法規 説明義務</p> <p>4 各種医療従事者に関する諸法規 看護師との連携理解と協働 薬剤師法、診療放射線技師法、臨床検査技師法、理学療法士法等の身分法の理解</p> <p>5 臓器移植に関する法律 医療倫理、患者の自己決定 臓器移植の理解、終末医療、安楽死 医療過誤事例紹介 出生前診断 生殖補助医療</p> <p>6 薬事関連法規 予防衛生法規 感染症予防対策と基本概念、薬物副作用の救済 感染症の種類と疫学 薬毒物の薬理学的作用と機序</p> <p>7 環境衛生福祉法規 公害関係法規 保健医療福祉制度の位置づけ、精神保健福祉施策、 介護保険 健康保険 ノーマライゼーションの意義、 人口構成と社会病理の背景（マスコミ等の事例） 養護教諭の役割、労働衛生 児童虐待防止、生活保護の意味</p> <p>8 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	新聞、マスコミ等に報道される日々の生活事例や医療関係記事に興味を持ち、自分の意見や考えを発言し、周囲の学生との意見交換の機会を持つよう心がける。
教科書	系統 看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障 （4） 医学書院
参考書	厚生指針 増刊国民衛生の動向 2012（厚生協会） 新版 世界憲法集 高橋和之編（岩波文庫） 法と生命倫理 2.0 講 石原 明緒（日本評論社）
成績評価	講義態度やレポートアンケート提出物を加味し、試験採点との総合評価
担当教員の基本情報	担当教員名 : 安原 正博 研究室 : 京丹後市立弥栄病院 名誉院長 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
深田 實江子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の基本となる概念が理解できる 2) 看護の機能と役割が理解できる 3) 看護実践の基盤となる倫理、法律、医療安全について基本的事項が理解できる 4) 看護専門職者の教育とキャリア形成について学び、看護を学ぶ自分と向き合う動機づけができる
授業計画	<p>1回目 看護（学）への導入、看護の本質（概念） <到達目標> ・看護とは何かを考えることができる</p> <p>2回目 看護の変遷（日本の看護・アメリカの看護） <到達目標> ・看護の歴史的発展過程と社会背景との関連がわかる</p> <p>3回目 看護学の4つの概念：人間・健康・環境・看護 <到達目標> ・看護の対象である人間を一般的、個別的に認識できる</p> <p>4回目 人間と健康、人間と環境 <到達目標> ・健康の概念について理解し、健康に生活するために必要な要素を認識できる ・人間と環境が相互に影響を及ぼしあう関係であることを理解できる</p> <p>5回目 看護の機能と役割 <到達目標> ・看護の本質的な機能と役割が理解できる ・保健医療福祉チームにおける看護の役割が理解できる ・看護の活動範囲の広がりについて理解できる</p> <p>6回目 看護と法律 <到達目標> ・保健師助産師看護師法について理解し、看護の果たす役割と背k人を考えることができる ・看護の責任と医療安全について考えることができる</p> <p>7回目 看護における倫理 <到達目標> ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる</p> <p>8回目 看護専門職としての教育、看護学概論のまとめ <到達目標> ・看護教育制度について理解できる ・看護専門職の教育、キャリア形成について学び、自分と向きあうことができる ・看護学概論のまとめができる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読し、配布プリントと合わせて理解に努めること
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護学原論 改訂第2版」南江堂 2) 「対訳 看護覚え書」うぶすな書院 3) 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社
参考書	適時紹介する
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業への出席が3/5以上であること 2) 出席状況、授業への参加度、レポート提出と内容、試験結果などを踏まえ総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田實江子 研究室 : 10号館7階711研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
深田 實江子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 看護理論とは何かを理解できる 2) 看護の概念と理論との関連性を述べるができる 3) 主な看護理論家とその理論の概要がわかる 4) 看護理論の看護実践への活用がわかる
授業計画	<p>1回目 看護理論の基本的理解 <到達目標> ・看護理論とは何かがわかる ・看護の概念と看護理論の関連がわかる</p> <p>2回目 ナイチンゲール <到達目標> ・「看護覚え書」を読んで、基礎看護学実習に対する動機づけができる</p> <p>3回目 ヘンダーソン <到達目標> 「看護の基本となるもの」を読んで、基礎看護学実習に対する動機づけができる</p> <p>4回目 ペプロー、ウィーデンバック、オーランド <到達目標> ・三者の人間関係理論、プロセスレコードについてわかり、実践への活用の動機づけができる</p> <p>5回目 トラベルビー、オレム <到達目標> ・トラベルビー「人間対人間の看護」の視点と実践への活用がわかる ・オレムの「セルフケア理論」の視点と実践への活用がわかる</p> <p>6回目 ロイ、ワトソン <到達目標> ・ロイの「適応看護モデル」の視点と実践への活用がわかる ・ワトソンの「ヒューマンケアリング」の視点と実践への活用がわかる</p> <p>7回目 ベナー、ロジャーズ <到達目標> ・ベナーの看護理論の概要と臨床技能の習得段階がわかる ・ロジャーズ看護理論の概要がわかる</p> <p>8回目 私の考える看護理論 ・グループワークとまとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前・事後学習を課す。教科書を熟読し、配布プリントと併せて理解に努めること
教科書	1) 「看護理論 改訂第2版」 筒井真優美編 南江堂 2) 「対訳 看護覚え書」 ナイチンゲール著 うぶすな書院 3) 「看護の基本となるもの」 ヘンダーソン著 日本看護協会出版会
参考書	適時紹介する
成績評価	筆記試験60%、レポート30%、事前事後学習・その他（授業参加態度・出席状況）10%で総合的に評価
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田實江子 研究室 : 10号館7階711研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
深田 實江子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>1) 看護技術の概念について理解を深めることができる</p> <p>2) 看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる</p> <p>3) 「安全・安楽」の原則を理解し、効率的な姿勢や動作に基づいた技術が習得できる</p> <p>4) 看護の対象となる人々の日常生活における「活動・休息」へのニーズを把握し、生活を支える看護介入の基礎を習得することができる</p>
授業計画	<p>1回目 看護技術の概念 <到達目標> ・看護技術の概念が理解できる ・人間にとっての環境・生活・健康について考えることができる</p> <p>2回目 スタンダードプリコーション（講義・演習） <到達目標> ・感染予防の意義やスタンダードプリコーションの概念が理解できる ・感染を予防するための基本的方法が実施できる</p> <p>3回目 コミュニケーション技術（講義） <到達目標> ・看護におけるコミュニケーションの意義が理解できる ・基礎的知識に基づき、治療的コミュニケーションを図ることができる</p> <p>4回目 生活環境・ベッドメイキング・ボディメカニクス（講義） <到達目標> ・対象者にとっての安全・安楽な病床環境について考えることができる ・ベッドメイキングの基本的方法が理解できる ・ボディメカニクスの原則が理解でき、それに基づいたベッドメイキングの方法が理解できる</p> <p>5回目・6回目 ベッドメイキング・ボディメカニクス（演習） <到達目標> ・対象者と看護者にとって安全・安楽なベッドメイキングの方法が理解できる ・ボディメカニクスを活用しながらベッドメイキングが実施できる</p> <p>7回目 技術試験 <到達目標> ・清潔で安全な寝心地のよいベッドを作成できる ・ボディメカニクスを活用したベッドメイキングができる</p> <p>8回目・9回目 体位変換（講義・演習） <到達目標> ・療養生活を援助するための安全・安楽な体位変換の方法が理解できる ・ボディメカニクスを活用しながら、体位変換ができる ・対象者と看護者の安全・安楽を考えながら体位変換ができる</p> <p>10・11回目 リネン交換（講義・演習） <到達目標> ・生活環境のニードを充足する方法としてのリネン交換の意義が理解できる ・臥床中の患者にとって安全・安楽なリネン交換の方法が理解できる ・ボディメカニクスを活用しながら、リネン交換が実施できる</p> <p>12・13回目 安楽な体位・睡眠（講義・演習） <到達目標> ・安楽な体位・休息の意義について理解し、活動・運動に障害がある人への援助方法を理解し、実施できる ・看護にとっての安楽について考えることができる</p> <p>14・15回目 移乗・移動・移送（講義・演習） <到達目標> ・安全・安楽な車椅子による移乗・移動の方法が理解できる ・安全なストレッチャー移乗・移動・移送の方法が理解できる ・安全・安楽な移乗・移動・移送が実施できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>・基礎看護援助論は履修する項目が多いので、講義までに教科書を読んで、ある程度理解して臨むこと</p> <p>・各技術は、既習の技術が積み上げられて成立していくため、自己学習を行い次の項目に入るまでに既習技術はマスターしておくこと</p> <p>・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9：30～19：00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること</p> <p>・事前学習、事後学習は講義内で指示する。レポート等は必ず期限を守って提出のこと。</p> <p>・提出物はすべて成績評価の対象となる</p>
教科書	<p>1) 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 任和子他著、医学書院</p> <p>2) 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 任和子他著、医学書院</p> <p>3) 「看護技術プラクティス」 竹尾恵子監修 学研</p>
参考書	<p>1) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院</p>

成績評価	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の条件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる 出席・参加状況10%、レポートの提出と内容10%、筆記試験50%、技術試験30%を基準とし、看護師としてふさわしい態度等を総合的に評価する</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 深田 實江子 研究室 : 10号館7階711研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>1. ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技の体験を通して、自己の健康管理と看護を行う上で生かせる知識を学ぶ。</p> <p>2. 生活習慣病予防や患者への教育に役立てるように運動の基礎や楽しさを理解する。</p> <p>3. 地域住民との合同健康ウォーキングを体験からコミュニケーション方法を学ぶ。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技を通して、心肺機能の向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践と、個人の健康づくり及び看護を行う上で生かせる知識を学ぶ。 地域住民との合同健康ウォーキング実践を通してコミュニケーション方法を学ぶ。</p> <p>2回目 健康ウォーキング1 健康ウォーキング理論 屋外ウォーキング1 (コースA) ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを理解する。</p> <p>3回目 健康ウォーキング2 屋外ウォーキング2(コースB) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を目指す。</p> <p>4回目 健康ウォーキング3 屋外ウォーキング3(コースC) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を目指す。</p> <p>5回目 健康ウォーキング4 屋外ウォーキング4(コースD) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を目指す。</p> <p>6回目 陸上競技(競歩) 屋内で100mウォーキングタイム測定1 ウォーキングタイム測定により自己の歩行スピードを理解する。</p> <p>7回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳び測定1 立幅跳び測定により自己の脚筋力・瞬発力を理解する。</p> <p>8回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ測定1 室内メデイションボール砲丸投げ測定により自己の投擲力・筋力を理解する。</p> <p>9回目 陸上競技(ハードル) 屋内でミニ・ハードル走1 巧緻性向上のためのミニ・ハードル走から自己の歩行・ジョギングスピードを理解する。</p> <p>10回目 健康ウォーキング実践 地域住民との合同健康ウォーキング(校内コース) 地域住民との交流を通してコミュニケーション方法を学ぶ。</p> <p>11回目 陸上競技(ハードル) 屋内でミニ・ハードル走2 歩幅・インターバルを意識して自己の歩行・ジョギングスピードを上げる。</p> <p>12回目 陸上競技(競歩) 屋外陸上競技場で100mウォーキングタイムを測定2 歩行スピードの向上が生活習慣病予防・健康づくり運動の指標となることを理解する。</p> <p>13回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳びを測定2 脚筋力・瞬発力向上が生活習慣病予防・健康づくり運動の指標となることを理解する。</p> <p>14回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ測定2 全身筋力・投擲力向上が生活習慣病予防・健康づくりの指標となることを理解する。</p> <p>15回目 まとめ 総括 陸上競技を通して「走る・跳ぶ・投げる」の3要素の重要性と健康運動の必要性を理解する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義前後にストレッチを行うこと。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	成績評価は出席(75%以上)を中心にし、授業態度及び服装などを加味して評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、それを楽しく実践でき、しかも継続させられる手段の一つとして、ネット競技型スポーツ活動は有効である。ネット競技型スポーツの特徴は、ネットを挟んで自分たちの陣地をチームで攻防する。これは、チームの結団が求められ、攻めの技を發揮する時も、単なる技比べだけではなく、同時に相手チームの動きを洞察する能力が求められる。本時では、「バドミントン・バレーボール」をとりあげる。この授業は、先ずルールの把握と基本技術を習得し仲間づくりを兼ねる。その後は、主にゲーム形式を中心として展開し、戦術を練るグループコミュニケーション能力や応用技術を習得する。本時の受講生は、「基礎体力の維持増進を一生涯工夫する能力と、それを実践する運動習慣を身に付けた人」と言われるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解する</p> <p>第2講 バドミントン (1) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 概要とルール説明、基本練習 (グリップと構え、基本ストローク)</p> <p>第3講 バドミントン (2) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習 (サーブとスマッシュ)、簡易ゲーム</p> <p>第4講 バドミントン (3) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習 (プッシュとハイクリア)、簡易ゲーム</p> <p>第5講 バドミントン (4) 簡易ゲーム [到達目標] 簡易ゲーム (試合における戦術を理解する)</p> <p>第6講 バドミントン (5) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールでのゲーム (半面シングルスでゲーム進行のルールを覚える)</p> <p>第7講 バドミントン (6) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールでのゲーム (ダブルスでのゲーム進行のルールを覚える)</p> <p>第8講 バドミントン (7) ゲーム [到達目標] リーグ戦 (正規ルールを理解し、応用技術を習得する)</p> <p>第9講 バレーボール(1) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 概要とルール説明、基本練習 (正確なフォームでのパス)</p> <p>第10講 バレーボール(2) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習 (パス、レシーブ、サーブ) の習得、簡易ゲーム</p> <p>第11講 バレーボール(3) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習 (レシーブ、トス、アタック) の三段攻撃の習得、簡易ゲーム</p> <p>第12講 バレーボール(4) 簡易ゲーム [到達目標] 簡易ゲーム (試合における戦術を理解する)</p> <p>第13講 バレーボール(5) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールでのゲーム (コミュニケーション能力や応用技術を習得する)</p> <p>第14講 バレーボール(6) 応用技術とゲーム [到達目標] リーグ戦 (正規ルールを理解し、応用技術を習得する)</p> <p>第15講 バレーボール(7) ゲーム [到達目標] リーグ戦 (正規ルールを復習する)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	資料を集め、バドミントンとバレーボールの自分のルールブックを作成する。 就こうとする職業の専門的視点から見た、「高齢者向け体力づくりトレーニングメニュー」を作成する。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
成績評価	技術の獲得や戦術の理解 40%、努力・意欲の度合い 40%、授業中の安全管理および他者との協調性 20% で総合評価する。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川 増代 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付けます
備考	服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>授業の前半では、スプリントドリルを中心に器具（ラダー・ミニハードルなどetc）を用いての運動や動的ストレッチを行いウォーミングアップの基本・実践を通して理解を深めさせる。 その後、陸上競技を中心とした三種目（短距離・跳躍・投擲）を行いスポーツと身体の動きづくりに対する認識を深める事を目標とする。</p> <p>授業の後半では、エアロビック運動実習の選択科目でもあるバドミントンを中心に球技種目（バレーボール）を通してスポーツの幅広い知識や考え方を育てると共に、試合形式のゲームを通して技能・体力向上を図る。実習を通じて、スポーツの楽しさを実感してもらうことを目的とする。</p>
授業計画	<p>1 [授業概要] ガイダンス [到達目標] エアロビック運動実習の狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。</p> <p>2 [授業概要] ウォーミングアップ [到達目標] 毎実習行なうウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョッグ・スタティックストレッチを中心に筋温と心温をを上昇させ血流を促し身体の機能を向上させる。 身体的にも精神的にも良い準備である事、目的である事を実践し体験させる。</p> <p>3 [授業概要] 動的ストレッチ [到達目標] 動的ストレッチ（ダイナミック）の重要性・故障やケガ予防・パフォーマンス向上に繋がる利点を体験させ学習させる。 スポーツ特有の動きづくりを実習し利点（関節可動域・ストレッチ・柔軟性・筋肉と神経のパイプ・バランス・協調運転などetc）がある事を理解させ実践させる。</p> <p>4 [授業概要] ラダートレーニング・ミニハードル [到達目標] ラダートレーニング・ミニハードルを使用し、色々な動作を説明し実践・体験させる。 規制させた中での正確な動きや速いパフォーマンスは、アジリティのレベルを上げさせるもの、賢い身体づくりであると説明し実践・体験させる。</p> <p>5 [授業概要] 短距離走（基本・ドリル） [到達目標] 短距離走で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。</p> <p>6 [授業概要] 三種競技（100m走） [到達目標] 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 また計測の記録は10種競技・7種競技の点数として得点算出する。</p> <p>7 [授業概要] 跳躍種目（基本・ドリル） [到達目標] 跳躍競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。</p> <p>8 [授業概要] 三種競技（走り幅跳び） [到達目標] 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 また計測の記録は10種競技・7種競技の点数として得点算出する。</p> <p>9 [授業概要] 投擲種目（基本） [到達目標] 投擲競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。</p> <p>10 [授業概要] 三種競技（ボール投げ） [到達目標] 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 また計測の記録は10種競技・7種競技の点数として得点算出する。 （なお10種競技・7種競技にボール投げ競技は無いため、男女共、槍投げの得点を使用する）</p> <p>11 [授業概要] バドミントン① 基本・基礎・ルール [到達目標] グリップの握り方・ストローク・サーブの基本から戦術的に使われるドロップ・ロブ・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュまでそれぞれ説明・反復練習を行い理解させる。 ゲームの進め方やルールを説明・理解させての反復練習を行い修得させる。</p> <p>12 [授業概要] バドミントン② ゲーム [到達目標] チーム編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってダブルスゲームを行わせる。</p>

	13	[授業概要] バレーボール①基礎応用・ルール・ゲーム [到達目標] サーブ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス・スパイクを中心に説明・反復練習を行い理解させる。 ゲームの進め方やルールの説明・理解させての反復練習を行い修得させる。
	14	[授業概要] バレーボール② 基礎応用・ゲーム [到達目標] チーム編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってゲームを行わせる。
	15	[授業概要] バレーボール③ ゲーム [到達目標] チームを再編成し、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってゲームを行わせる。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
成績評価	授業態度 50% 実技評価 30% 授業の貢献度 20%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	人間にとって身体を動かすことは、生涯を全うするために必要不可欠なことである。身体運動は、発育期の青少年期はもちろん、中高年齢等に対しても、心身ともに充実した人生を送るための基本として、健康・体力の保持増進を心がけることは重要である。この科目は、選択必修科目であり、使用可能施設および受講人数に応じて、ソフトバレーボール、グラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフ、ゴルフ、インディアカなどレクリエーションスポーツの様々な運動・スポーツ、ルールについて学ぶ。
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習のねらいと評価の方法や各種履修にあったっての諸注意を説明し、理解させる。</p> <p>2 ソフトバレーボール（１）基本・基礎技術の練習 オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い修得させる。</p> <p>3 ソフトバレーボール（２）審判法とゲーム 審判方法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスゲームを行わせる。</p> <p>4 ソフトバレーボール（３）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>5 グラウンドゴルフ（１）基礎技術の練習 グリップと構え、基本スイング、パッティングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。</p> <p>6 グラウンドゴルフ（２）ルールとゲーム ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、簡易ゲームを行わせる。</p> <p>7 グラウンドゴルフ（３）応用技術とゲーム チーム編成を行いラウンドゲームを行わせる。</p> <p>8 ターゲットバードゴルフ（１）基礎技術の練習 グリップと構え、基本スイングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。</p> <p>9 ターゲットバードゴルフ（２）ルールとゲーム ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、簡易ゲームを行わせる。</p> <p>10 ターゲットバードゴルフ（３）応用技術とゲーム チーム編成を行いラウンドゲームを行わせる。</p> <p>11 ゴルフ（１）基本・基礎技術の練習 ゴルフ打撃場にて、グリップと構え、基本スイングの動作を説明し、ボールを遠くへ飛ばすことを目的とした反復練習を行い修得させる。（PI）</p> <p>12 ゴルフ（２）基本・基礎技術の練習 ゴルフ打撃場にて、狙った所へボールを飛ばすことを目的としたグリップと構え、基本スイングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。（PI）</p> <p>13 ゴルフ（３）基本・基礎技術の練習（パット・パットゴルフ） テニスコート（人工芝）内で、パットの際におけるグリップと構え、基本スイングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。また、チーム編成を行い、ラウンドゲームを行わせる。</p> <p>14 インディアカ（１）基本・基礎技術の練習とルールと簡易ゲーム オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い修得させる。また、審判方法とゲームの進め方やマナーを理解させ、簡易ゲームを行わせる。</p> <p>15 インディアカ（２）応用技術とゲーム チーム編成を行いラウンドゲームを行わせる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度50%、授業への貢献度20%、実技評価30%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自律的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	西尾庄平 Office Hours 月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メール (s_nishio@meiji-u.ac.jp)でも受け付ける。 教員氏名：中才幸雄 オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
浅野 敏朗			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>今日、世界中で医療情報の多くが英語でやりとりされています。グローバルな視野を持って活躍する医療人にとって、英語によるコミュニケーション能力や情報処理能力の育成は、まさに不可欠かつ緊急の課題であると言っていいでしょう。</p> <p>この科目は、医療・保健・看護にかかわる英語語彙力・読解力・表現力の習得を目指します。医療分野で頻繁に使用される基本的な語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返して発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかり把握しながら読み進むことなどを当面の目標といたしましょう。さらに、医療現場で使用される英語短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。</p>		
授業計画	第1回	<p>この科目のオリエンテーション</p> <p>〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。</p> <p>〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p>	
	第2回	<p>医療分野の読み物（1）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（1） 医療分野の短文表現（1）</p>	
	第3回	<p>医療分野の読み物（2）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（2） 医療分野の短文表現（2）</p>	
	第4回	<p>医療分野の読み物（3）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（3） 医療分野の短文表現（3）</p>	
	第5回	<p>医療分野の読み物（4）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（4） 医療分野の短文表現（4）</p>	
	第6回	<p>医療分野の読み物（5）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（5） 医療分野の短文表現（5）</p>	
	第7回	<p>医療分野の読み物（6）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（6） 医療分野の短文表現（6）</p>	
	第8回	<p>医療分野の読み物（7）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（7） 医療分野の短文表現（7）</p>	
	第9回	<p>医療分野の読み物（8）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（8） 医療分野の短文表現（8）</p>	
	第10回	<p>医療分野の読み物（9）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（9） 医療分野の短文表現（9）</p>	
	第11回	<p>医療分野の読み物（10）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（10） 医療分野の短文表現（10）</p>	

	<p>第12回 医療分野の読み物 (11) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (11) 医療分野の短文表現 (11)</p> <p>第13回 医療分野の読み物 (12) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (12) 医療分野の短文表現 (12)</p> <p>第14回 総復習 (1) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p> <p>第15回 総復習 (2) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <p>1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。</p> <p>2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。</p> <p>3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。</p> <p>4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。</p> <p>5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。</p>
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 浅野敏朗 オフィスアワー: 授業後10分間
備考	スムーズな単位認定を進めるため、習熟度別クラス編成を実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	分子生物学をはじめとする生命科学、ナノテクノロジーやコンピュータ科学の3大技術を利用して社会が激変しようとしている。この講義では、先端科学の1分野である分子生物学について基本的なことから解説し、テレビや新聞で取り上げられる生命科学ニュースを題材に分子生物学（分子遺伝学）をキーワードに生命（life「命」）について考え、理解することを目標とする。 2003年に私たちの設計図であるDNA暗号が解読されて以来、それらを基に医療が変革を遂げている。遺伝現象の解析、遺伝子（DNA）と構造、遺伝子複製のメカニズムと細胞分裂、遺伝子の情報発現とその調節、遺伝子操作など基礎的知識を学び、さらに、遺伝子診断と治療、iPS細胞と再生医療、遺伝子操作や幹細胞移植による寿命の延長、年をとらないヒト（ある年齢の容姿で成長が止まっている）などの科学ニュースを題材に講義し、生命科学により未来がどのように変わるのかを考察できる力を身に付ける。
授業計画	1回目 序論：生命とは、DNAの遺伝情報からつくられたタンパク質等でできた分子機械なのか？ [到達目標] 分子生物学（分子遺伝学）の歩みを説明できる。 [備考] 毎回、講義時間にプリントを渡します。それについて、必ず復習して下さい。疑問点は次回の講義で質問し、問題解決に努めること。 2回目 生命の設計図DNAの構造と機能 [到達目標] DNA、RNA、タンパク質について説明できる。セントラルドグマについて説明できる。 3回目 DNAの遺伝子情報を基にRNAの合成（転写と翻訳）とRNAからタンパク質の合成（翻訳） [到達目標] DNAからRNAを合成する転写制御について説明できる。 コドンとアンチコドン、翻訳について説明できる。遺伝暗号を読み取ることができる。 4回目 DNAの複製とDNAの組換え、損傷、修復 [到達目標] 半保存的複製、細胞周期、体細胞分裂、減数分裂、染色体について説明できる。 DNAの組換え、DNA損傷の修復について説明できる。 5回目 RNAの多様性とその働き [到達目標] RNAの種類と働き、小分子RNAとRNA抑制、RNAワールドについて説明できる。 6回目 分子生物学（分子遺伝学）に基づく生命工学とは [到達目標] 組換えDNA技術、シーケンス、PCR、 遺伝子診断、遺伝子治療、遺伝子組換え製品、GM作物、クローン動物について理解できる。 7回目 分子生物学（分子遺伝学）を用いた先端医療 [演習] [到達目標] 再生医療、幹細胞、iPS細胞、遺伝子操作、生命と寿命、老化について理解できる。 8回目 総括と課題発表 [到達目標] 生命化学分野のトピックスについて調査し考察することができる。 [備考] これまでの講義を総括する。学生は演習課題の発表を行う。課題発表を50点満点として評価する。
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎回、講義時間にプリントを渡します。その日のうちに必ず復習し、理解を深めてください。理解度を小テストで確認します。 講義は出席を重視し、遅刻・欠席厳禁です。受講者は全ての講義に出席すること！
教科書	特になし（講義時間ごとにプリントを配布）
参考書	『コア講義 分子遺伝学』田村隆明著 裳華房（2014） 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学』ブルーバックス [新書] 『遺伝子医療革命』フランシス・S・コリンズ NHK出版（2011）
成績評価	評価割合：出席と小テスト（50%）、講義課題（50%）の合計（100%）で評価を行います。 小テスト：講義内容に関連した知識を講義内の小テストにて把握し、その理解度を評価する。 講義課題：事前に課題を配布します。各学生はその内容について調査し、パワーポイントにまとめて発表する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>【臨床検査】 臨床検査についての意義と必要性、疾病の確定診断の重要な手段であることを理解し、患者の病状・症状の査定をする上での活用方法について説明できる。</p> <p>【臨床放射線医学】 放射線診断が疾病の確定診断の重要な手段であることを理解し、患者の病状・症状の査定をする上での活用方法について説明できる。そして、薬物療法、手術療法と並び三大治療法の一つである放射線治療の種類、適応疾患、効果・副作用について理解する。</p> <p>【外科学】 外科学の基本的知識を学び、外科疾患の対応について理解する。</p> <p>【麻酔学】 麻酔学の基本的知識を学ぶとともに、救急時の対応について理解する。</p>
授業計画	<p>1回目 臨床検査（1）浅沼教授 臨床検査の意義と目的（尿検査・血液検査・輸血）、検体の取り扱いを説明することができる。（時間外学習の指示など）臨床検査の意義と目的（尿検査・血液検査・輸血）、検体の取り扱い、データの読み方の基礎と基準値を教科書「臨床検査」で調べる。※臨床検査（医学書院）を持参。</p> <p>2回目 臨床検査（2）浅沼教授 臨床検査のデータの読み方の基礎と基準値を説明することができる。また、それらの示すデータからどのような病態が推測できるか説明できる。（時間外学習の指示など）臨床検査の意義と目的（尿検査・血液検査・輸血）、検体の取り扱い、データの読み方の基礎と基準値を教科書「臨床検査」で調べる。※臨床検査（医学書院）を持参。</p> <p>3回目 臨床検査（3）浅沼教授 心電図・呼吸機能などの生理学的検査、内視鏡検査の種類と適応を説明することができる。（時間外学習の指示など）心電図・呼吸機能などの生理学的検査、内視鏡検査の種類と適応を教科書で調べる。※臨床検査（医学書院）を持参。</p> <p>4回目 臨床放射線医学（1）北村先生 医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを説明することができる。（時間外学習の指示など）医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを「臨床検査」教科書で調べる。※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>5回目 臨床放射線医学（2）北村先生 放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を説明することができる。（時間外学習の指示など）放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を教科書「臨床放射線医学」で調べる。※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>6回目 外科学総論、外科診断学、基本手技 糸井教授 外科概論と歴史、外科的診断法、損傷と創傷について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（12-13, 54, 205, 235, 63-71, 144-160） 創傷処置を復習する。 ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>7回目 周術期管理と合併症の予防、基本手技 糸井教授 周術期の管理、術前・術中の管理と合併症の予防、特に集中治療における管理、あるいは高齢者術後の管理と合併症の予防について学ぶ。外科的基本手技、基本技術について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（13-21, 202-409） 外科的基本手技を復習すること。 ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>8回目 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌 神山教授 炎症の原因・症状、外科的感染症の治療、消毒法の実際、無菌法、外科的処置について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（21-33, 144-160, 286-305） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>9回目 外科的栄養管理、輸血法、腫瘍の診断と治療 糸井教授 外科領域の栄養管理：輸液・経腸栄養の実際について学ぶ。血液型、輸血について学ぶ。腫瘍の検査法と治療法（手術療法、化学療法、放射線療法）について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（55-63, 109-135, 317-318） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>10回目 内視鏡手術、鏡視下手術の特徴と術後管理 糸井教授 最新の内視鏡手術、鏡視下手術の特徴とその術後管理について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（161-169） 臨床外科看護各論（各臓器の手術を参照） ※臨床外科看護総論・各論（医学書院）を持参</p> <p>11回目 医療者に必要な心肺蘇生法 神山教授 BLSの要点からALSへの発展までを理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（184-199） BLSとALSの内容と手順について学習 ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p>

	<p>12回目 麻酔科学 総論 野村講師 周術期における呼吸・循環器系の危機状況の内容と対処法・モニタリングを理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(76-109) 痛みの感覚の伝達経路について予習しておく。</p> <p>13回目 麻酔科学 総論 野村講師 鎮痛のメカニズムと全身麻酔・硬膜外麻酔・腰椎麻酔など代表的な鎮痛法の内容が理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(76-109) 各種の麻酔方法とメカニズムについて、鎮痛法について復習する。</p> <p>14回目 各種麻酔による生体侵襲 野村講師 麻酔による生体侵襲について理解できる。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(76-109)</p> <p>15回目 まとめ 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめをする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>臨床検査および臨床放射線医学について(第1回～第5回)： 外科学の分野について(第6回～第11回)：外科学の講義は基礎医学(解剖学・生理学・病理学など)と臨床医学(内科学)の知識を前提としています。しかし、他の講義も同時に進むため、未だ学んでいない事項が出てくるかもしれません。このような場合、分からない点を教科書や参考書に戻って再確認することが大切です。講義内容は、授業計画の備考には、臨床外科看護総論・各論の講義に関係する頁を記載してありますから参考にしてください。</p> <p>麻酔科学の分野について(第12回～第14回)：毎回の講義で講義内容の概要をプリントとして渡しますが、講義を聴くための資料であり講義を聴かずにそれだけを勉強することは非効率です。生理学・解剖学や他の臨床医学の基礎に合わせて勉強すべき部分はシラバスや講義中に指摘するので各自で次回の講義までに予復習として準備学習することが大切です。</p>
教科書	<p>(内科系) 『系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 臨床検査』(医学書院)</p> <p>(外科系) 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』(医学書院)</p>
参考書	<p>(外科系) 「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 洪編(金芳堂) 「標準外科学」第14版 小柳 仁編(医学書院) 「標準麻酔科学」第6版 弓削孟文監修(医学書院) 「国民衛星の動向2016/2017」(厚生労働統計協会)</p>
成績評価	出席状況、授業態度、レポート、筆記試験にて総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報 担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院内科部長 教授室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：糸井啓純 研究室：附属病院2階教授室 メールアドレス：hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名：神山 順 研究室：附属病院2階医局 メールアドレス：jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17:00-18:00</p> <p>(麻酔科学) 担当教員名：野村 麻由子 研究室：附属病院2階医局 メールアドレス：m_nomura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日12:00-13:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
糸井 啓純			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	外科学総論の基礎を学び、臓器別に外科（観血）的治療を理解する。そして、幅広い医学的知識を身につけることをこの講義の目標とする。 疾病治療論は外科学全般の臨床医学の講義である。講義では外科（観血）的治療を解説するため、基礎医学や内科の知識を理解していることが前提となります。また、短時間で最新の医療を講義するため難易度が高いので、外科学の看護学を頑張ってお勉強していただきたい。外科学の講義は基礎医学（解剖学・生理学・病理学など）と臨床医学（内科学）の知識を前提としています。しかし、他の講義も同時に進むため、未だ学んでいない事項が出てくるかもしれません。このような場合、分からない点をメモし、教科書や参考書に戻って、再確認することが大切です。
授業計画	<p>1回目 消化器外科① 食道、胃の外科治療 糸井教授 食道癌、胃癌を中心に外科治療を理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(172-183, 184-199) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>2回目 消化器外科② 小腸、大腸の外科治療 糸井教授 大腸癌を中心に外科治療を理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(200-243) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>3回目 消化器外科③ 肝、胆、膵の外科的治療 糸井教授 肝、胆、膵を中心に外科治療を理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(135-141, 245-290) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>4回目 消化器外科④ 急性腹症の外科的治療 糸井教授 腹部外傷を含む腹部外科疾患から急性腹症の診断と治療、とくに腸閉塞、腹膜炎について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(187-192, 204-223, 238-245, 290-297) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>5回目 乳腺・内分泌外科 神山教授 乳腺疾患ならびに甲状腺・副甲状腺・副腎疾患の外科的治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(26-37, 63-80, 427-438, 297-305) ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>6回目 血管疾患の外科治療 神山教授 大動脈瘤・動脈閉塞症・静脈疾患の外科治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(108-134) 系統看護学講座成人看護学2 循環器疾患患者の看護 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>7回目 呼吸器疾患の外科治療 糸井教授 良性・悪性の呼吸器疾患に対する外科的治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(8-62)ならびに系統看護学講座成人看護学2(呼吸器疾患患者の看護) ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>8回目 小児外科の外科治療(予定) 小児で外科的治療を必要とする疾患について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(396-407) 臨床外科看護各論(460-486, 506-515, 521-536) ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参 定期試験 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめとして筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	外科学では学ぶ項目が多岐に及ぶため、まとめの講義を設定しませんが、講義では適時まとめのプリントを配布します。そして、授業内容の理解度を確認するために、講義の重要な事項を試験問題の形式で提示します。これを解くことで、講義への理解を深めてください。臨床外科看護総論・各論のそれぞれの講義に関係する頁を記載してありますから参考にしてください。
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 成人看護学2 呼吸器』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 成人看護学3 循環器』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 成人看護学5 消化器』(医学書院)
参考書	「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 決編(金芳堂) 「標準外科学」第14版 小柳 仁編(医学書院) 「国民衛生の動向2016/2017」(厚生労働統計協会)
成績評価	定期試験、出席状況、授業態度、レポートなどから総合的に評価する。 追・再試験は、試験あるいはレポートとする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00

	担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
苗村 建慈			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	内科疾患を中心とした慢性期疾患の病態、診断、治療法について、理解を深める。		
授業計画	小野准教授	<p>消化器疾患 (1)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 食道、胃、腸疾患の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>小野准教授</p> <p>消化器疾患 (2)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 肝、胆、膵疾患(1)の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>小野准教授</p> <p>消化器疾患 (3)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 肝、胆、膵疾患(2)の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>呼吸器疾患 (1)：気道感染症、胸膜疾患、間質に病変のある肺疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 呼吸器病学総論及び気道感染症である上気道炎、気管支炎、肺炎、肺結核、気胸、胸膜炎、間質性肺炎、塵肺症の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>呼吸器疾患 (2)：アレルギーの関与する肺疾患、閉塞性気道病変のある肺疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 過敏性肺臓炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>呼吸器疾患 (3)：肺癌、肺循環障害を伴う肺疾患、呼吸調節障害のある肺疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 肺癌、肺塞栓症、肺水腫、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する</p> <p>苗村教授</p> <p>代謝・内分泌疾患 (1)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 代謝・内分泌疾患 (1)：糖尿病、高脂血症、肥満、高尿酸血症の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>代謝・内分泌疾患 (2)：下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 代謝・内分泌疾患 (2)：巨人症・先端巨大症、下垂体機能低下を示す疾患、尿崩症、バセドウ病、甲状腺機能低下の原因となる疾患、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、3つの副腎皮質疾患、褐色細胞種概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>血液疾患 (1)：貧血症の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 血液疾患 (1)：鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>血液疾患 (2)：白血球疾患と止血・凝固障害を起こす疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少症、アレルギー性紫斑病、血友病、DICの概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>アレルギー疾患と膠原病：これらの疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 アレルギー疾患と膠原病：アレルギー疾患の分類とその機序、症状、及び膠原病として慢性関節リウマチ、SLE、シェーグレン症候群、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織、ベーチェット病の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>苗村教授</p> <p>感染症：細菌、寄生虫、ウイルスによる感染症の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 一般細菌、抗酸菌、原虫、寄生虫、ウイルスによる臨床的に問題となる感染症について、概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>浅沼教授</p> <p>循環器疾患 (1)：虚血性心疾患、不整脈の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 循環器疾患 (1)：虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞)、主要な不整脈の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>浅沼教授</p> <p>循環器疾患 (2)：心弁膜症・心筋症・心内膜炎の病態、診断、治療法についての基礎的理解を深める。 循環器疾患 (2)：心弁膜症・心筋症・心内膜炎の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p> <p>浅沼教授</p> <p>循環器疾患 (3)：腎疾患：心不全・高血圧症・主要な血管疾患、主要な腎疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 循環器疾患 (3)、腎疾患：うっ血性心不全・高血圧症・深部静脈血栓症、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。</p>	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>教科書を読み、予習しておくこと。 (苗村教授、浅沼教授、小野准教授)教科書を読んでおくこと。授業で配布するプリントを精読すること。理解できないところがあれば、下記の参考書で該当するところを調べる。特に、参考書の1.、2.は、辞典のように使えるため、参考書として使用することが勧められる。3.の参考書はさらに詳しい。それでも、解決できなければ、講義の前後に、担当教員に質問して下さい。</p>		
教科書	系統看護学講座 成人看護学〔2〕～〔6〕、〔8〕、〔11〕(医学書院)。		
参考書	1.わかりやすい内科学第4版(文光堂)：医療系学生を対象にしており、分かりやすく書かれている。2.Step内科学(全6巻、分冊別に購入可能)：医学部専門課程の学生用参考書で、詳しいが、分かりやすく書かれて		

	いる（海馬書房）。3.カラー版 内科学 第9版（西村書店）：医学部専門課程の学生だけでなく、一般臨床家も使える。比較的新しく出版された内科学のテキストである。
成績評価	1) 定期試験により評価する。 2) 出席率が低い場合は、受験資格は認めない。 3) 再・追試験は、実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 苗村 建慈 研究室 : 病院2階教授室 メールアドレス : k_namura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:00
備考	担当教員名 : 浅沼 博司 研究室 : 病院2階医局 メールアドレス : h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜午後
	担当教員名 : 小野 公裕 研究室 : 病院2階医局 メールアドレス : k_ono@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:00

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>(教育目標) 本科目の教育目標は、リハビリテーションの概念とその歴史、障害の概念と各疾患の概要及びそれらの疾患に対するリハビリテーションについて個別に学習し、理解を深めることである。</p> <p>(教育概要) 総論ではリハビリテーションの概念と歴史、障害の概念について教授し、各論では耳鼻咽喉科疾患、運動器疾患、脳神経疾患それぞれの疾患の概要及び摂食・嚥下障害に対するリハビリテーション、骨折・関節疾患・外傷・関節リウマチなどに対するリハビリテーション、脳血管疾患に対するリハビリテーションなどについて教授する。</p>
授業計画	<p>1回 リハビリテーション総論 (担当：木村) [授業概要] リハビリテーションの概念と歴史、障害 (国際障害分類：ICIDH, 国際生活機能分類：ICF) について学習する。 [到達目標] 講義終了後、上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>2回 頭頸部、喉頭の解剖・生理と疾患、音声言語、嚥下運動 (担当：板東) [授業概要] 脳耳鼻咽喉疾患の基礎とリハビリテーションの理解 [到達目標]</p> <p>3回 摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションの基礎、実技演習 (担当：木村) [授業概要] 摂食・嚥下障害の病態及びそのリハビリテーションの方法について学習するとともに、摂食・嚥下障害患者に対するアプローチについて学習する。 [到達目標] 講義終了後、上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>4回 聴覚概論、聴覚解剖・生理、耳疾患と難聴の診断治療、平衡障害 (担当：坂口) [授業概要] 耳鼻咽喉疾患の基礎とリハビリテーションの理解 [到達目標]</p> <p>5回 運動器疾患①：運動器疾患の特徴、骨粗鬆症、関節疾患 (担当：糸井) [授業概要] 運動器疾患の特徴と骨と関節の機能及び形態の障害とリハビリテーションの理解 [到達目標] 運動器の解剖学的特徴や骨・関節の働きについて理解する</p> <p>6回 運動器疾患②：末梢神経と脊椎・脊髄疾患 (担当：糸井) [授業概要] 末梢神経と脊椎・脊髄疾患とリハビリテーションの理解 [到達目標] 脊椎・脊髄神経と末梢神経についての診断学と疾患について理解する (教科書P69-87)</p> <p>7回 運動器疾患③：外傷、感染症、下肢の主な疾患と外傷 (担当：乾) [授業概要] 外傷、感染症、骨・軟部腫瘍、下肢の疾患の病態及び治療とリハビリテーションの理解 [到達目標] 外傷、腫瘍、主な下肢の疾患について理解する [備考] (授業時間外学習の指示等) 教科書 (p88, 92-110) とプリントを復習する</p> <p>8回 運動器疾患④：画像診断、上肢の主な疾患と外傷 (担当：小藤) [授業概要] 上肢の疾患の病態及び治療とリハビリテーションの理解 [到達目標] 主な上肢の疾患について理解する [備考] (授業時間外学習の指示等) 教科書 (p41-44, 54-68, 139-143) とプリントを復習する</p> <p>9回 難病疾患⑤ 関節リウマチほか、運動器疾患の復習 (担当：糸井) [授業概要] 難病の病態及び診断治療、リハビリテーションの理解 [到達目標] 関節リウマチについて理解する [備考] (授業時間外学習の指示等) 教科書p115-120を復習する</p> <p>10回 脳神経疾患①：総論1 (担当：樋口) [授業概要] 脳の生理学、生化学、解剖学的特徴や神経症状について学習する。 [到達目標]</p> <p>11回 脳神経疾患②：総論2 脳血栓、脳梗塞、脳腫瘍 (担当：樋口) [授業概要]</p>

	<p>脳神経疾患の診断のためのレントゲン検査、CT検査、MRI検査などの画像診断法について学習する。 [到達目標] 脳神経疾患③：各論1 脳腫瘍、脳血管障害担当（担当：樋口） [授業概要] 脳腫瘍、脳血管障害の病態及び診断治療、リハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 脳神経疾患④：各論2 頭部外傷、感染症、神経内科系疾患（担当：樋口） [授業概要] 頭部外傷、感染症、神経内科系疾患（パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症、多発性硬化症患者など）の病態及び診断治療、リハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 脳神経疾患（脳血管障害による片麻痺、パーキンソン病）に対するリハビリテーション（担当：木村） [授業概要] 脳血管障害による片麻痺、パーキンソン病による各障害に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 講義終了後、上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p>
12回	
13回	
14回	
15回	まとめ
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>準備学習として、次講義に該当する教科書の内容を熟読すること。また復習として再度教科書の該当項目を確認するとともに、講義内で配布された資料などを熟読すること。不明な点は担当教員にメールにて連絡し、オフィスアワーに質問すること。</p>
教科書	平澤泰介（編著） ナースに役立つ整形外科学とリハビリテーション 金芳堂
参考書	特になし
成績評価	学年末試験の得点により成績を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 木村篤史 研究室 : 附属病院 総合リハビリテーションセンター メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールにて事前連絡の後、随時調整する</p> <p>担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : MRセンター（附属病院1階） メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 糸井恵（小藤和孝、乾堅太郎） 研究室 : 病院2階教授室（病院2階医局） オフィスアワー : 講義終了後</p> <p>担当教員名 : 坂口 博史（耳鼻咽喉科） 研究室 : 非常勤講師室（6号館1階） メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 板東 秀樹（耳鼻咽喉科） 研究室 : 非常勤講師室（6号館1階） メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	1	必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	各種精神疾患ならびに精神保健福祉法についての理解を深める		
授業計画	1回目	総論 1 [到達目標] 脳の構造、精神科用語、症状について把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	2回目	総論 2 [到達目標] 脳の構造、精神科用語、症状について把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	3回目	治療総論 [到達目標] 精神科の治療全体を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	4回目	精神科疾患総論 [到達目標] 精神科疾患全体を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	5回目	精神科疾患各論 1：器質性精神障害 [到達目標] 器質性精神障害の病態・治療を把握する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（器質性精神障害）を把握しておく。	
	6回目	精神科疾患各論 2：統合失調症Ⅰ [到達目標] 統合失調症の病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（統合失調症）を把握しておく。	
	7回目	精神科疾患各論 3：統合失調症Ⅱ [到達目標] 統合失調症の病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（統合失調症）を把握しておく。	
	8回目	精神科疾患各論 4：気分障害 [到達目標] 気分障害の病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（気分障害）を把握しておく。	
	9回目	精神科疾患各論 5：てんかんⅠ [到達目標] てんかんの病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（てんかん）を把握しておく。	
	10回目	精神科疾患各論 6：てんかんⅡ [到達目標] てんかんの病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（てんかん）を把握しておく。	
	11回目	精神科疾患各論 7：神経症 [到達目標] 神経症の病態・治療を把握・理解する。 [備考]	

	<p>12回目 あらかじめ、教科書の内容（神経症）を把握しておく。 精神科疾患各論 8：生理的・身体障害、症候性精神病 [到達目標] 生理的・身体障害、症候性精神病の病態・治療を把握・理解する。</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（生理的・身体障害、症候性精神病）を把握しておく。</p> <p>13回目 精神科疾患各論 8：人格障害 [到達目標] 人格障害の病態・治療を把握・理解する。</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（人格障害）を把握しておく。</p> <p>14回目 精神科疾患各論 10：少年期・青春期の精神障害 [到達目標] 少年期・青春期の精神障害の病態・治療を把握・理解する。</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（少年期・青春期の精神障害）を把握しておく。</p> <p>15回目 精神保健福祉法・司法精神医学 [到達目標] 精神医学に関連する法律を説明できる</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（精神保健福祉法・司法精神医学）を把握しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること。
教科書	STEP Series 「精神科」高橋茂樹著 海馬書房
参考書	現代臨床精神医学 改訂第11版」大熊輝雄著 金原出版 教科書にそって、解説しながらの授業をするので、教科書は必ず持参のこと。
成績評価	評価方法（試験） 評価割合（試験100%）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中邦雄（教授） 研究室 : 統合医療学（明治国際医療大学附属統合医療センター） メールアドレス : ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターにて対応。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
桂 昌司			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業概要は、薬理学総論と各臓器の生理を簡単に復習した後、臨床応用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用および臨床応用について解説します。</p> <p>薬理学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。</p>
授業計画	<p>1回目 薬理学総論 [到達目標] 薬物の作用点という概念について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>2回目 末梢神経作用薬 [到達目標] 自律神経および自律神経節作用薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>3回目 中枢神経作用薬 [到達目標] 中枢神経作用薬および精神疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>4回目 循環器系作用薬・利尿薬 [到達目標] 循環器疾患および高血圧治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>5回目 炎症薬・抗アレルギー薬・血液作用薬 [到達目標] 炎症、アレルギーおよび血液疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>6回目 消化器作用薬・内分泌疾患治療薬 [到達目標] 消化器疾患、糖尿病およびホルモン疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>7回目 化学療法薬・漢方薬 [到達目標] 感染性疾患治療薬および漢方薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>8回目 期末試験 [到達目標] 授業目標が到達出来ているかを確認する。 [備考] 試験終了時にポイントを示し、出題された全問題について解答とその解説を作る。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業の前には予習してきてください。また、講義で用いた資料を用いて、薬物名、作用機序および副作用についてよく理解できるよう必ず復習してください。
教科書	「《系統看護学講座 専門基礎分野》 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 (第13版)」 大鹿英世、吉岡充弘、井関健 著 (医学書院)
参考書	「看護学生のための 薬理学ワークブック」食見忠弘 著 (医学書院) 「イラストで学ぶ薬理学 (第2版)」田中越郎 著 (医学書院) 「ビジュアルノート (第4版)」茨木 保 著 (MEDIC MEDIA)
成績評価	期末試験 (60%)、授業内小テスト (10%)、課題レポート (ノートを含む) 提出 (20%) および授業態度 (10%) により総合的に評価する。 追再試験は期末試験欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 桂 昌司 研究室 : 附属病院 1階薬剤部 メールアドレス : m_katsura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
上仲 久			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	看護を実践する中で、対象に対して温かい援助的な人間関係がとれるようになるためには、専門的な知識と技術が必要となる。人間関係の援助法として、また、対象への心のケアのためにカウンセリングの理論と方法論を学習する。
授業計画	<p>第1回 本講義の概要：コミュニケーションとカウンセリングについて [到達目標] カウンセリングが、どのような行為をさしているのかを説明できる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第2回 コミュニケーション [到達目標] 非言語の世界(DVD) 体験している現実はある人それぞれであることを理解できる。言葉を使い思考し体験する現実を構成するという意味を知る。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第3回 個人心理学の考え方 [到達目標] Encouragement(勇気づけ)の方法について説明できる。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第4回 論理療法 [到達目標] ABC理論について説明できる。他者に対して言葉を上手に編んでプレゼントすることができる。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第5回 認知療法の考え方 [到達目標] 認知の歪みについて説明でき、自らの中の認知の偏りに気づくことができる。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第6回 マイクロカウンセリング① [到達目標] 基本的かかわり技法を用いたコミュニケーションができる。技法を説明できる。 [授業時間外学習の指示等] (レポート課題の提示) 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第7回 マイクロカウンセリング② [到達目標] 基本的かかわり技法を用いたコミュニケーションができる。技法を説明できる。 [授業時間外学習の指示等] (レポート課題の提示) 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第8回 まとめ [到達目標] 講義内容を振り返り自分自身のコミュニケーションスタイルについて内省したことを言葉で表現できる。 カウンセリングの技法を理解し看護に生かす基礎的な知識を習得する。 筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	来談者中心療法・論理療法・認知療法・認知行動療法について調べておくこと。 講義の中で近隣の学生と対話することなどがあるが、真面目に実践すること。
教科書	指定しない
参考書	「マイクロカウンセリング技法—事例場面から学ぶ」 福原 真知子 監修 (風間書房) (2007) 「認知療法・認知行動療法カウンセリング初級ワークショップ—CBTカウンセリング」 伊藤 絵美 著 (星和書店) (2005) 「実践論理療法入門—カウンセリングを学ぶ人のために」 ウインディ ドライデン (著), レイモンド デジサッピ (著), 菅沼 憲治 (翻訳) (岩崎学術出版社) (1997) 「アドラー心理学トーキングセミナー —性格はいつでも変えられる」 野田 俊作 著(星雲社) (1989)
成績評価	授業への参加(21%)や小テスト等の筆記試験(70%)・レポート(9%)による総合評価
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 随時 (事前にメールにて約束をとること)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
田中 眞里子			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	<p>1) 基礎となる治療的看護技術の方法とその根拠が理解でき、安全・安楽に技術が提供できる知識・技術・態度を習得する。</p> <p>2) 医療事故防止の基本を理解し、患者の安全を守るための方法を習得するとともにその責任について考える。</p> <p>3) 検査・治療という直接的に患者の生命に影響を与える場での、看護者として必要な倫理を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 治療的看護技術とは 【学習目標】 ・治療的看護技術の概念が理解できる。 ・検査・治療を受ける人々の看護と看護師の役割・責任・倫理について考えることができる。</p> <p>第2回3回 感染を予防する技術 隔離（講義・演習） 【学習目標】 ・感染予防のための看護技術及び援助方法が理解できる。 ・清潔・汚染区域でのガウンテクニックが実施できる。</p> <p>第4回5回 感染を予防する技術 無菌操作、創傷処置（講義・デモンストレーション） 【学習目標】 ・無菌操作の概念及び滅菌物の取り扱い方法が理解できる。 ・創傷治癒過程に基づいた創傷管理の方法が理解できる。</p> <p>第6回7回 感染を予防する技術 無菌操作、創傷処置、包帯法（演習） 【学習目標】 ・原理原則に基づいた無菌操作が実施できる。 ・創傷処置の介助が実施できる。 ・治療の目的や用途に応じた巻軸包帯・三角巾・絆創膏の方法が理解できる。 ・障害に応じた包帯法が実施できる。</p> <p>第8回9回 症状・生体機能管理技術、診察・検査・処置の介助技術 【学習目標】 ・検体検査、生体情報のモニタリングについて理解する</p> <p>第10回11回 排泄の援助 導尿（講義・デモンストレーション） 【学習目標】 ・排尿困難時の排泄の援助としての導尿の意義と方法が理解できる。 ・無菌操作による導尿の方法（滅菌包みの開け方、滅菌手袋の装着を含む）が述べられる。</p> <p>第12回13回 排泄の援助 導尿（演習） 【学習目標】 ・無菌操作による導尿の方法が安全・安楽に実施できる。</p> <p>第14回15回 吸引・酸素療法（講義・デモンストレーション・演習） 【学習目標】 ・呼吸を整えるための吸引、吸入の基本的な方法が述べられる。 ・モデル人形を用いて安全に吸引・吸入が実施できる。 ・酸素ポンペの取り扱い方法を理解し、安全に酸素療法が実施できる。</p> <p>第16回17回 静脈血採取法（講義・デモンストレーション） 【学習目標】 ・検査・治療時の看護者の役割が理解できる。 ・原理原則に基づいた静脈血採取の基本的な方法が理解できる。</p> <p>第18回19回 静脈血採取法（演習） 【学習目標】 ・安全・安楽に採血モデルに静脈血採血が実施できる。</p> <p>第20回21回 与薬と医療事故（講義） 【学習目標】 ・与薬の概念及び目的、方法が理解できる。 ・薬物の取り扱いと法的根拠について理解できる。 ・与薬方法と薬理作用、留意点が理解できる。 ・医療の場におけるさまざまな危険性と与薬事故について理解し、自己の考えを述べるができる。</p> <p>第22回23回 与薬の技術（講義） 【学習目標】 ・与薬を受ける患者への与薬援助技術に関する知識・技術・態度が理解できる。</p> <p>第24回25回26回 与薬の技術 筋肉内注射の方法（デモンストレーション・演習） 【学習目標】 ・医師の指示に基づいた、筋肉内注射の準備が実施できる。 ・モデル人形に安全かつ正確に筋肉内注射（上腕・臀部）が実施できる。</p> <p>第27回28回 輸液・輸血（講義・演習） 【学習目標】 ・輸液に関する基礎的知識が理解できる。 ・輸液の管理の方法を理解し、安全かつ正確にモデル人形に実施できる。</p>

	<p>(輸液の準備・穿刺・固定・輸液速度の調整)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸液の滴下量の設定及び時間の管理方法が理解できる。 ・血液の管理と輸血の方法を理解し、安全かつ正確な実施方法が理解できる。 ・輸血に関する医療事故について考えることができる。 <p>第29回30回 技術試験 課題はおって提示する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、治療的看護技術の習得となるため、解剖学・生理学・薬理学・免疫学の知識の復習をして講義に臨むこと。 ・各技術は、感染や与薬といった一つ一つの技術が患者の生命を脅かしかねないため、自己学習をしっかりと行い確実な技術をマスターすること。 ・各技術は、事例に基づく援助計画が実施できるような演習を行うため、看護過程論の知識を連動させること。 ・技術の自己学習(練習)のために、実習室は9:30～19:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。 ・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」深井喜代子編集, メジカルフレンド社 2) 「新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」深井喜代子編集, メジカルフレンド社 3) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院
参考書	1) ぜんぶわかる 人体解剖図 成美堂出版
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田中真里子 研究室 : 10号館 7F メールアドレス : m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 14:00-15:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 看護過程の概念が理解できる。 2) 系統的思考プロセスの各段階とその相互関係について理解できる。 3) 演習を通して看護過程の展開方法について具体的に理解し、実施できる。 4) 看護診断について概要が理解できる。
授業計画	1 導入／オリエンテーション 看護過程を学ぶにあたって 2 看護過程 概論 看護過程とは、看護過程と看護理論 看護過程の意義・概要・構造（各段階）を理解する 看護過程と代表的な看護理論の関連を理解する 3 アセスメント 情報収集の理解と方法（S情報／O情報） 4 アセスメント 情報の分析と解釈の理解と方法 ゴードンの機能的健康パターンと看護診断 NANDAの理解 5 アセスメント 関連図の理解と方法 6 診断 看護診断の理解と方法 7 診断 診断名の構成と優先順位の理解と方法 8 計画 看護計画の構成の理解と方法 9 計画 具体的な計画とは 10 実施 計画を実施することについての理解と方法 11 評価 評価とは 評価についての理解と方法 12 事例展開 事例を提示するので看護過程の各段階について展開する 13 事例展開 事例を提示するので看護過程の各段階について展開し、提出する 14 事例展開 発表会 15 筆記試験／まとめ
授業時間外の学習 （準備学習等）について	看護過程は看護師として必要な基本的な思考過程を学ぶ科目である。したがって、看護過程を理解できないと、看護師としてはもとよりそれ以前に基礎看護学実習において看護を展開することができないことになる。各自が積極的に授業に参加し看護過程をしっかりと理解することがとても重要となる。看護過程を十分理解するために事例展開を行うので、適宜レポートの提出を求める。
教科書	1) 「看護学生のための疾患別看護過程（1, 2巻）」メヂカルフレンド社 2) 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2015-2017 原書第10版」医学書院 3) 「すぐに役立つ標準看護計画 第2版」照林社 4) 「系統看護学講座 専門分野 I・基礎看護技術 I（基礎看護学②）」医学書院
参考書	1) 「はじめて学ぶ看護過程」医学書院 2) 「看護過程展開ガイド」任和子 照林社 3) 「看護学生のためのプチナース・ブックス 自分で描ける 病態関連図」山岸節子編集 照林社 4) 「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 5) 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規
成績評価	講義への出席が3/5以上であることを要件とし、出席状況やレポートの提出状況と内容を20%、筆記試験を80%で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館 8階 808研究室 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 火曜 1 限目 (それ以外は2日前までにメールで連絡すること)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 看護過程の全段階の理解を深めることができる 2) 基礎看護学実習Ⅱの受け持ち患者に実施した看護の実際を振り返り、看護過程全体の評価ができる 3) 看護過程全体を振り返り、看護についての考察を深め、レポートにまとめることができる
授業計画	1 導入／オリエンテーション 看護過程論Ⅰでの学びの振り返り（グループワーク） 授業内レポート：看護過程論Ⅱでもう一度学びたい内容とその理由 2 アセスメント 情報収集／情報の分析・解釈 3 アセスメント 関連図 4 診断 看護診断の定義と診断ラベルの理解 5 診断 看護診断の表し方 優先順位 6 計画 （焦点アセスメント） 目標の設定 計画内容 7 実施／評価 看護目標の達成度 看護過程全体の評価 8 まとめ／倫理原則について 基礎看護学実習Ⅱに向けて、全体の学びを深める
授業時間外の学習 （準備学習等）について	・看護過程論Ⅰで学んだ内容を復習して講義にのぞむこと ・講義と演習を行うので、それぞれに毎回課題を課す。提出期限を守って必ずレポートを提出すること。なお提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	1) 「看護学生のための疾患別看護過程（1, 2巻）」メヂカルフレンド社 2) 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2015-2017 原書第10版」医学書院 3) 「すぐに役立つ標準看護計画 第2版」照林社 4) 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②）」医学書院 （前期の看護過程論Ⅰで全て購入済み）
参考書	1) 「はじめて学ぶ看護過程」医学書院 2) 「看護過程展開ガイド」任和子 照林社 3) 「看護学生のためのプチナース・ブックス 自分で描ける 病態関連図」山岸節子編集 照林社 4) 「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 5) 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規
成績評価	出席が全体の3/5以上であることを必須要件とし、筆記試験またはレポート、課題の提出状況と内容等を加味し、総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館 8階 808研究室 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜1限 この時間以外はメールで相談すること
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
田中 眞里子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	1) 健康状態のアセスメントに必要な知識を学習し、看護におけるヘルスアセスメントの視点を養う。 2) 全身のアセスメントを系統立てて実施できる基礎的知識・技術・態度を習得する。
授業計画	<p>第1回 フィジカルアセスメントの概念(講義) 【学習目標】 ・フィジカルアセスメントの概念が理解でき、系統別アセスメントの視点がわかる。 ・フィジカルイグザミネーションの方法が理解できる。</p> <p>第2回 一般状態の観察とアセスメント/身体計測の方法(講義) 【学習目標】 ・栄養状態、排泄、活動、睡眠などの一般状態の観察及びアセスメントの方法が述べられる。 ・身体計測の方法が述べられる。</p> <p>第3回 呼吸系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・肺・胸郭のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第4回 呼吸系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・肺・胸郭のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・肺・胸郭のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第5回 循環器系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・心・血管系のアセスメント方法が理解できる。</p> <p>第6回 循環器系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・心・血管系のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・心・血管系のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第7回 消化器系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・消化器系(栄養・代謝・排泄)のアセスメント方法が理解できる。</p> <p>第8回 消化器系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・消化器系(栄養・代謝・排泄)のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・消化器系(栄養・代謝・排泄)のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第9回 感覚器系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・視覚・聴覚・皮膚知覚のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第10回 感覚器系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・視覚・聴覚・皮膚知覚のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・視覚・聴覚・皮膚知覚のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第11回 脳神経系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・脳神経系のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第12回 脳神経系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・脳神経系のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・脳神経系のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第13回 筋・骨格系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・筋・骨格系(身体計測、関節可動域)のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第14回 筋・骨格系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・筋・骨格系(関節可動域)のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・筋・骨格系(関節可動域)のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第15回 事例に基づきシステムレビュー ・事例に基づき、患者の訴えから全身のアセスメントを系統立てて実施することができる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>・ヘルスアセスメントⅠ、人体の機能と構造・生理学等の基礎知識がないと全身を系統的にアセスメントすることができないので、事前学習として必要な知識を予習して授業に臨むこと。特に人体の部位と名称、その機能が分からないと演習が実施できないため、十分に学習しておくこと。</p> <p>・技術の自己学習(練習)のために、実習室は9:30~18:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。</p> <p>・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。</p>
教科書	<p>1) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ第3版」：深井喜代子編集，メジカルフレンド社</p> <p>2) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院</p>

参考書	1) ぜんぶわかる人体解剖図」 阪井建雄・橋本尚詞（著），成美堂出版，2015.
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中 真里子 研究室 : 10号館7F メールアドレス : m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 14:00 - 15:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>看護の対象を理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指導のもとに受け持ち患者を総合的に理解し、看護過程の展開ができる。 2) 指導のもとに患者の個別性にあわせた看護援助が実施できる。 3) 患者と患者をとりまく人々と良い関係を築き、看護学生としてふさわしい行動をとることができる。 4) 実習経験を通して看護について考え、看護専門職者をめざす自己の課題を明確にできる。
授業計画	<p>1日目 病院・病棟オリエンテーション、受持ち患者把握（アセスメント） 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受持ち患者紹介（自己紹介） 受け持ち患者の把握 ・受け持ち患者の情報収集 ・援助場面の見学・実施</p> <p>2日目 受持ち患者把握（アセスメント） 受け持ち患者の把握 ・受け持ち患者の情報収集 ・援助場面の見学・実施</p> <p>3日目 受持ち患者把握（アセスメント） 受け持ち患者の把握 ・受け持ち患者の情報収集 ・援助場面の見学・実施</p> <p>4日目 学内実習 全体像把握 看護上の問題点の抽出 アセスメント（情報収集・分析／解釈）の関連を全体像にまとめる</p> <p>5日目 受持ち患者把握（アセスメント）／中間カンファレンス 関連図をもとに看護上の問題およびその原因を明確化する 中間評価の提出</p> <p>（実現可能な看護計画の立案に向けての指導を受ける） ・問題点の中から日常生活の援助を視点においた看護計画を立案するための予定を立てる</p> <p>6日目 看護計画の確認と実施 看護計画の確認と修正、実施 ・立案した計画が実現可能かを指導者に確認・助言・指導を受け、計画を修正する ・立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施する</p> <p>7日目 看護計画の実施・評価・修正 看護援助の実施・評価 ・看護過程展開の確認と指導を受ける ・修正した計画に基づいて援助を実施し評価する</p> <p>8日目 看護計画の実施・評価・修正 看護援助の実施・評価 ・看護過程展開の確認と指導を受ける ・修正した計画に基づいて援助を実施し評価する</p> <p>9日目 看護計画の実施・評価・修正 看護援助の実施・評価 ・看護過程展開の確認と指導を受ける ・修正した計画に基づいて援助を実施し評価する</p> <p>10日目 カンファレンス・まとめ 午後：病棟ごとに最終カンファレンスを行う（まとめ）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の全体像の把握、病態生理の理解に努めること。 2) 看護過程論Ⅰでの学びを活かし、受持ち患者の看護過程展開に努めること。 3) 安全・安楽・自立を念頭に置き、その人にあった看護援助方法を考え実践する。
教科書	実習要項を事前に配布する
参考書	「看護学概論」「看護基礎理論」「基礎看護援助論Ⅰ、Ⅱ」「ヘルスアセスメントⅠ、Ⅱ」「看護過程論Ⅰ、Ⅱ」で学習したテキスト・資料、および紹介した文献
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間の5分の4以上の出席がなければ評価の対象とはならない。 2) 実習目標達成度を実習内容、実習姿勢、実習記録、レポート等により総合的に100%で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：仲口路子 研究室：10号館8F 808研究室 メールアドレス：nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：深田實江子 研究室：10号館7F 711研究室 メールアドレス：m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>

	<p>担当教員名 : 田中 真里子 研究室 : 10号館7F 701研究室 メールアドレス : m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 伊賀さくら 研究室 : 10号館6F 782共同研究室 メールアドレス : s_iga@meiji-u.ac.j オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>[実習期間] 1クール目：平成30年1月29日（月）～2月9日（金） 2クール目：平成30年2月12日（月）～2月23日（金） 3クール目：平成30年2月26日（月）～3月9日（金） 但し12月20日（水），1月26日（金），2月9日（金），2月23日（金）実習オリエンテーション 3月9日（金）実習まとめ（学内）</p>
	<p>[実習場所] 明治国際医療大学附属病院 草津総合病院 綾部市立病院 公立南丹病院 京都市立病院 洛西シミズ病院</p>
	<p>[実習方法] 成人期～老年期にある患者を1名受け持ち、看護師・教員の指導のもとに看護過程を展開する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
藤田 智恵子、今井 理香、原 久美子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	成人期にある対象の急性期から回復期までの過程における基本的な看護について学ぶ。特に、周手術期看護を理解する上で必要な基礎的な知識を学ぶ。
授業計画	<p>1回 急性期・周手術期とは [到達目標]急性期（特に周手術期）の看護の特徴と役割が理解できる。 [備考]発達課題（青年期・壮年期）、急性期について自己学習。</p> <p>2回 手術前の看護 [到達目標]手術に向けての準備と援助方法が理解できる。 [備考]各種検査、術前オリエンテーション、術前カレンダーについて自己学習。</p> <p>3回 手術中の看護 [到達目標]手術室及び回復室看護の役割が理解できる [備考]手術室の環境と特徴、ストレス緩和のための補完代替療法について自己学習。</p> <p>4回 手術直後の看護 [到達目標]手術後の受け入れ方法と観察方法が理解できる [備考]術後ベッド、麻酔覚醒後の観察方法について自己学習。</p> <p>5回 手術後の看護 [到達目標]観察方法とアセスメントの視点が理解できる。 [備考]創部・体内留置ドレーンなどの観察方法、ドレーン留置位置、生命危機状態のモニタリングについて自己学習。</p> <p>6回 回復期の看護 [到達目標]術後の継続看護の必要性が理解できる。 [備考]社会資源・社会保障制度について自己学習。</p> <p>7回 生命危機状態にある患者の看護 [到達目標]ICU看護の特徴と役割について理解できる。 [備考]ICUの環境と特徴、ICUに入室する対象、せん妄について自己学習。</p> <p>8回 テスト</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義中に提示。
教科書	<p>1) 臨床外科看護総論 青木照明他 医学書院</p> <p>2) 周手術期看護論 雄西智恵美他 ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>3) 救急看護学 山勢博彰 医学書院</p> <p>4) パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I（急性期・周手術期）（第2版）井上智子 照林社</p>
参考書	1) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 竹内登美子編著 医歯薬出版株式会社
成績評価	出席状況・授業態度5%、レポート15%、筆記試験80%として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日15:00-16:00</p> <p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 原久美子 研究室 : 10号館6階 北研究室 メールアドレス : k_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
藤田 智恵子、今井 理香、原 久美子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	既習の知識をふまえて、麻酔や手術、突然の発症による生体侵襲が心身に及ぼす影響について学ぶ。また、生体侵襲による心身に及ぼす影響を予防するために必要な知識・技術・態度について学ぶ。そして、症状別、疾患別など対象の病態・状態に応じた看護について学ぶ。 1) 周手術期または生命危機にある対象の系統的なアセスメントの視点が理解できる。 2) 術後の機能障害が対象のセルフケア能力に及ぼす影響についてアセスメントすることができる。 3) 看護過程を通して、周手術期または生命危機にある対象の看護を考えることができる。 4) 周手術期に必要な看護技術が習得できる。 5) 対象の病態・状態をふまえ、統合医療の理念を取り入れた看護を考えることができる。 6) 看護過程を通して対象に応じた看護実践について考えることができる。
授業計画	1回 術後合併症と看護① [到達目標]術後合併症の原因と発生機序をふまえた術前アセスメントの視点、予防等を理解できる。 [備考]術後合併症については夏季休暇前に課題提示。 2回 術後合併症と看護② [到達目標]術後合併症の観察の視点と早期離床の目的と方法を理解できる。 [備考]早期離床とその目的について自己学習。術後カレンダーの作成。 3回 周手術期の患者の看護① [到達目標]呼吸器系の手術を受ける患者の特徴を理解できる。 [備考]呼吸器系の解剖・生理、肺がんの原因、症状、診断、治療について自己学習。 4回 周手術期の患者の看護② [到達目標]呼吸器系の手術を受ける患者の看護を理解できる。 [備考]前時間に指示。 5回 周手術期の患者の看護③ [到達目標]消化器系の手術を受ける患者の特徴を理解できる。 [備考]消化器系の解剖・生理、胃がんの原因、症状、診断、治療について自己学習。 6回 周手術期の患者の看護④ [到達目標]消化器系の手術を受ける患者の看護を理解できる。 [備考]前時間に指示。 7回 周手術期の患者の看護⑤ [到達目標]乳腺系の手術を受ける患者の特徴と看護を理解できる。 [備考]乳腺系の解剖・生理、乳がんの原因、症状、診断、治療、リンパマッサージ、リラクゼーションについて自己学習。 8回 看護過程の展開① [到達目標]事例に応じた情報の整理と分析ができる。 [備考]看護過程の課題①（前時間に指示） 9回 看護過程の展開② [到達目標]事例に応じた問題点が抽出できる。 [備考]看護過程の課題②（前時間に指示） 10回 看護過程の展開③ [到達目標]事例に応じた看護計画が立案できる。 [備考]看護過程の課題③（前時間に指示） 11回 急性期看護に必要な看護技術① [到達目標]生命危機状態にある患者の観察・看護技術が習得できる。 [備考]看護技術の課題①（前時間に指示） 12回 急性期看護に必要な看護技術② [到達目標]早期離床に必要な看護技術が習得できる。 [備考]看護技術の課題②早期離床の課題（前時間に指示） 13回 重症患者の看護① [到達目標]循環器系の重症患者の看護が理解できる。 [備考]循環器系の解剖・生理、虚血性心疾患の原因、症状、診断、治療について自己学習。 14回 重症患者の看護② [到達目標]呼吸器系の重症患者の看護が理解できる。 [備考]呼吸器系の解剖・生理、呼吸不全の原因、症状、診断、治療、人工呼吸器について自己学習。 15回 テスト
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義中に提示。
教科書	1) 急性期看護援助論Ⅰに同じ 2) 臨床外科看護各論 北島政樹 医学書院 3) 系統看護学講座 成人看護2・3・5呼吸器、循環器、消化器 浅野浩一郎他 医学書院

参考書	1) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2・3 術中術後の生体反応と急性期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 竹内登美子 医歯薬出版株式会社 2) カラー版 まんがで見る 術前・術後のケアのポイント 下間正隆 照林社
成績評価	出席状況・授業態度5%、レポート15%、筆記試験80%として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日15:00-16:00</p> <p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 原久美子 研究室 : 10号館6階 北研究室 メールアドレス : k_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
小倉 之子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 慢性に経過する健康障害の特徴および健康障害が生活に与える影響について理解する。 2) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者とその家族が、健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について理解する。
授業計画	<p>1回 〔授業概要〕慢性期看護とは 〔到達目標〕慢性疾患をもつ人々における看護の特徴を学ぶ。 〔備考〕・1年次に成人看護学概論で学んだことを復習しておく。</p> <p>2回 〔授業概要〕慢性疾患を有する人とその家族への看護（1） 〔到達目標〕呼吸器系の障害をもつ人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕・教科書の[p200の1. 気管支喘息2. 慢性呼吸不全]の項を読んでおく。</p> <p>3回 〔授業概要〕慢性疾患を有する人とその家族への看護（2） 〔到達目標〕胃・十二指腸の障害を有する人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕・呼吸器系（気道下部と呼吸部）の名称と主な働きについて再度覚えておく。 ・教科書の[p262の1. 胃・十二指腸]の項を読んでおく。</p> <p>4回 〔授業概要〕慢性疾患を有する人とその家族への看護（3） 〔到達目標〕循環器系の障害を有する人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕・消化器系（食道と胃）の名称と主な働きについて再度覚えておく。 ・教科書の[p223の1. 高血圧2. 不整脈]の項を読んでおく。</p> <p>5回 〔授業概要〕慢性疾患を有する人とその家族への看護（4） 〔到達目標〕虚血性心疾患・心不全を有する人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕・血管の名称と主な働きについて再度覚えておく。 ・教科書の[p240の3. 虚血性心疾患4. 慢性心不全]の項を読んでおく。</p> <p>6回 〔授業概要〕慢性疾患を有する人とその家族への看護（5） 〔到達目標〕慢性肝炎・肝硬変を有する人々における看護の役割が理解できる。① 〔備考〕・冠状動脈と心臓の静脈の名称と主な働きについて再度覚えておく。 ・教科書の[p270の2. 慢性肝炎3. 肝硬変]の項を読んでおく。</p> <p>7回 〔授業概要〕とその家族への看護（6） 〔到達目標〕肝硬変・肝臓がんを有する人々における看護の役割が理解できる。② 〔備考〕・肝臓の名称と主な働きについて再度覚えておく。 ・教科書の[p287の肝臓がん]の項を読んでおく。</p> <p>8回 まとめ 〔到達目標〕 〔備考〕終講試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	・毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える改訂第2版』（南江堂）を元に授業を進めます。
参考書	『カラースケッチ解剖学第3版』（廣川書店） 『系統看護学講座 成人看護学②呼吸器、③循環器、⑤消化器』（医学書院） 『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』（メディカ出版）
成績評価	出席状況(10%)、小テスト1-5回(20%)、筆記試験（終講試験）70%で総合的に評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館（看護学部棟）8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日午後</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
小倉 之子、宇城 靖子、鈴木 規子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	1) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者とその家族が、健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について理解する。 2) 慢性病をもつ成人期の患者にふさわしい看護援助法について演習や事例を通して学ぶ。 3) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者の日常生活を維持・支援するための看護活動や継続看護の必要性・方法を理解する。
授業計画	<p>1回 [授業概要] 慢性疾患を有する人とその家族への看護(1) [到達目標] 代謝機能障害(糖尿病)をもつ患者の疾病管理が理解できる。(1) [備考] [教科書p307の1.糖尿病]の項を読んでおくこと。担当：宇城</p> <p>2回 [授業概要] 慢性疾患を有する人とその家族への看護(2) [到達目標] 代謝機能障害(糖尿病)をもつ患者の疾病管理が理解できる。(2) [備考] [教科書p307の1.糖尿病]の項を読んでおくこと。担当：宇城</p> <p>3回 [授業概要] 慢性疾患を有する人とその家族への看護(3) [到達目標] 腎・泌尿器系の障害を有する(慢性腎不全)患者の疾病管理が理解できる。 [備考] [教科書p335の1.慢性腎不全]の項を読んでおく。担当：小倉</p> <p>4回 [授業概要] 慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護(1) [到達目標] 慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の援助(人工透析)が理解できる。 [備考] [教科書p115の2.人工透析を受ける患者の援助]の項を読んでおく。担当：小倉</p> <p>5回 [授業概要] 慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護(2) [到達目標] 化学療法を受ける患者の援助が理解できる。 [備考] [教科書p149の6.化学療法を受ける患者の援助]の項を読んでおく。担当：小倉</p> <p>6回 [授業概要] 慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護(3) [到達目標] 放射線療法を受ける患者の援助が理解できる。 [備考] [教科書p163の放射線療法を受ける患者の援助]の項を読んでおく。担当：宇城</p> <p>7回 [授業概要] 慢性疾患を有する人とその家族への看護(4) [到達目標] 脳・神経系の障害(脳梗塞)を有する患者の疾病管理が理解できる。 [備考] [教科書p398の1.脳梗塞]の項を読んでおく。担当：鈴木</p> <p>8回 [授業概要] まとめ [到達目標] [備考] 終講試験</p> <p>9回 [授業概要] 慢性期看護過程演習(1) [到達目標] 私たちの日常生活体験の一場面をとりあげ客観的に文章化することができる [備考] グループ演習・討議</p> <p>10回 [授業概要] 慢性期看護過程演習(2) [到達目標] 事例を通して情報整理ができる。 [備考] グループ演習・討議</p> <p>11回 [授業概要] 慢性期看護過程演習(3) [到達目標] 事例を通して情報整理・アセスメントができる。 [備考] グループ演習・討議</p> <p>12回 [授業概要] 慢性期看護過程演習(4) [到達目標] ・事例を通して情報統合・分析ができる。 ・問題、関連因子、症状・徴候を見つけ出すことができる。 [備考] グループ演習・討議</p> <p>13回 [授業概要] 慢性期看護過程演習(5) [到達目標] 事例を通して関連図が作成できる。 [備考] グループ演習・討議</p> <p>14回 [授業概要] 慢性期看護過程演習(6) [到達目標] 事例を通して目標・計画立案ができる。 [備考] グループ演習・討議</p> <p>15回 [授業概要] 慢性期看護過程演習(7) [到達目標] ・事例を通して事例を通して退院指導を考えることができる。 ・事例を通して評価、修正ができる。 [備考] グループ演習・討議</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	・毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える』(南江堂)を元に授業を進めるので、必ず授

	業時毎回持参して下さい。
参考書	「疾病治療論」教材：『系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器、⑦脳・神経、⑧腎・泌尿器、別巻 臨床放射線医学』（医学書院） 『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』（メディカ出版） 『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017』（医学書院）
成績評価	出席状況、授業課題レポート、グループ演習の参加態度、筆記試験で総合的に評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館（看護学部棟）8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 午後</p> <p>担当教員名 : 宇城靖子 研究室 : 10号館（看護学部棟）7階706 メールアドレス : s_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 鈴木 規子 研究室 : 10号館（看護学部棟）7階709 メールアドレス : n_suzuki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	精神疾患がもたらす様々な症状や生活上の困難について学び、精神に「障害」を持つ人への援助のあり方について学ぶ。
授業計画	<p>1回目 「精神疾患」という経験 [到達目標] 「精神疾患」を持つ人の経験について学ぶことができる。</p> <p>2回目 精神症状の理解と看護（1） [到達目標] 思考の障害・感情の障害・意欲の障害とその看護について学ぶことができる。</p> <p>3回目 精神症状の理解と看護（2） [到達目標] 知覚の障害・意識の障害・記憶の障害等とその看護について学ぶことができる。</p> <p>4回目 疾患の理解と看護（1） [到達目標] ①統合失調症の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>5回目 疾患の理解と看護（1） [到達目標] ②統合失調症の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>6回目 疾患の理解と看護（2） [到達目標] ①気分障害の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>7回目 疾患の理解と看護（2） [到達目標] ②気分障害の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>8回目 まとめ 講義で学んだ内容について試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。（各講義で提示する）
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学①（医学書院） 「表情看護のすすめ」 平澤久一 監修（メディカ出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、授業への参加によって評価する。 （定期試験70%・レポート20%・出席および受講態度10%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館7階702研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名： 研究室： メールアドレス： オフィスアワー：</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	精神看護において必要なケアとその技術について理解・習得できる。 さらに精神看護における看護過程展開技術について理解できる。
授業計画	<p>1回目 精神科ケアの前提と原則 [到達目標] 精神科ケアの前提・原則を言うことができる。</p> <p>2回目 精神科の治療的環境 [到達目標] 精神科病棟の特徴と治療の関係性について説明することができる。</p> <p>3回目 精神科におけるリハビリテーション [到達目標] 精神科リハビリテーションにはどのような種類と目的があるかを言うことができる。</p> <p>4回目 身体のケア [到達目標] 精神科における身体ケア（薬物の副作用や身体合併などのケア）とは何かを言うことができる。</p> <p>5回目 精神科ケアの方法（1）自分を知る [到達目標] 価値観や自己概念について考えることでコミュニケーションに必要な「自分を知る」ことができる。</p> <p>6回目 精神科ケアの方法（2）コミュニケーション技法 [到達目標] 他者とのコミュニケーション技法にはどのようなものがあるかを言うことができる。</p> <p>7回目 精神科ケアの方法（3）コミュニケーション技法 [到達目標] 患者の思い・心を表情から読み取り表情看護とは何かを知ることができる。</p> <p>8回目 患者－看護師関係のアセスメント（1）プロセスレコードの理解 [到達目標] プロセスレコードを書く目的が説明できる。</p> <p>9回目 患者－看護師関係のアセスメント（2）プロセスレコードの実践 [到達目標] 日常会話を材料に実際にプロセスレコードを書くことができる。</p> <p>10回目 セルフケア理論とは [到達目標] セルフケアの定義が理解でき説明できる。</p> <p>11回目 統合失調症患者の看護展開演習（1） [到達目標] 事例をもとにSOAP形式で書くことができる。</p> <p>12回目 統合失調症患者の看護展開演習（2） [到達目標] 事例をもとに看護展開の流れが理解できる。</p> <p>13回目 統合失調症患者の看護展開演習（3） [到達目標] 事例の患者情報をもとにアセスメントができる。</p> <p>14回目 統合失調症患者の看護展開演習（4） [到達目標] 事例の患者に対する看護が考えられる。</p> <p>15回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義前に、教科書の該当するページを読んてくること。
教科書	「精神看護学Ⅱ」精神臨床看護学 川野雅資 他著（ヌーヴェルヒロカワ） 「表情看護のすすめ」平澤久一 監修（メディカ出版） 「精神看護学」学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、授業への参加によって評価する。 （試験60%・提出課題30%・出席および受講態度10%）
担当教員の基本情報	担当教員名：戸田一男 研究室：10号館7階702研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外） 担当教員名：梶川拓馬

	研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外) 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
デッカー 清美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>1. 周産期女性の身体的・心理的・社会的特徴や胎児・新生児の成長過程を理解し、その女性を取り巻く家族を含めた看護や保健指導について学習する。</p> <p>2. 妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児・家族の健康上の諸課題への理解を深め、看護実践に活用できる知識を習得する。</p>		
授業計画	第1回	妊娠の生理 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性について理解できる	
	第2回	妊婦と家族のアセスメントと援助方法 妊婦と家族のアセスメントとその援助方法について理解できる	
	第3回	ハイリスク妊娠 ハイリスク妊娠について理解できる	小テスト
	第4回	ハイリスク妊娠とその援助方法 ハイリスク妊娠とその援助方法について理解できる	
	第5回	分娩期における看護 分娩の生理と分娩進行に伴う産婦・胎児の変化	木下先生担当
	第6回	産婦への看護 産婦と家族のアセスメントと援助方法	小テスト
	第7回	異常分娩 異常分娩とその援助方法について理解できる	
	第8回	産褥期における看護 (1) 褥婦の身体的・心理的・社会的変化について理解できる	小テスト
	第9回	産褥期における看護 (2) 褥婦と家族のアセスメントと援助方法について理解できる	森先生
	第10回	産褥期における看護 (3) 産褥の異常とその援助方法	小テスト
	第11回	母乳栄養 母乳育児支援	神原先生
	第12回	新生児の看護 (1) 新生児の生理を理解することができる	岡本先生
	第13回	新生児の看護 (2) 新生児のアセスメントと援助方法について理解できる	森先生
	第14回	新生児の看護 (3) 新生児の異常とその援助方法について理解できる	小テスト
	第15回	まとめ (試験等) 妊娠・分娩期の特徴を理解し、必要な看護について理解できる。	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	基本的には、各自、教科書などで予習・復習を行い、授業内容の理解が深められるようにする事。配布プリントを精読し、不明部分は調べ、それでもわからなければ質問等を行い解決すること。		
教科書	<p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美ら著 医学書院</p> <p>2. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (太田操編著、医歯薬出版)</p> <p>3. 写真で分かる母性看護技術 平沢美恵子ら著 インターメディカ</p>		
参考書	<p>「ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本」 横尾京子他 メディカ出版</p> <p>「ナーシンググラフィカ31 母性看護技術」 横尾京子他 メディカ出版</p> <p>病気が見える⑩ 産科メディックメディア</p>		
成績評価	定期試験50%、小テスト50%		
担当教員の基本情報	オフィスアワー 月曜日 17:00～18:00 メールアドレス：k_decker@meiji-u.ac.jp *事前に連絡すること		
備考	正常妊娠、ハイリスク妊娠、分娩期、産褥期、新生児に関する授業の時に小テストを5回 (各10点満点) 実施し、成績評価の50%の評価とする。		

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
森久美子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	1. 母性看護を実践するために必要な知識と技術を修得することができる。 2. 事例をもとに対象者をウェルネスの視点でとらえ、看護過程を展開することができる。
授業計画	<p>第1回 妊娠期における看護 教科書第2章を読んでおく。妊娠期の診断に必要な知識と技術について学ぶ。</p> <p>第2回 分娩期における看護 教科書第3章を読んでおく。分娩期の診断に必要な知識と技術について学ぶ。</p> <p>第3回 新生児期の看護 教科書第4章を読んでおく。新生児期の診断に必要な知識と技術について学ぶ。</p> <p>第4回 産褥期の看護 教科書第5章を読んでおく。産褥期の診断に必要な知識と技術について学ぶ。</p> <p>第5-6回 産褥・新生児期の看護技術演習 新生児①全身観察②身体計測③沐浴・ドライテクニック、褥婦①全身観察②子宮復古観察③乳房観察、など産褥・新生児期の診断に必要な技術が修得できる。</p> <p>第7回 事例展開①新生児 ウェルネスの看護診断に基づき、看護過程を展開する。</p> <p>第8回 母乳育児支援 乳房の構造と機能、乳汁分泌機構と共に、新生児の生理機能、吸着・吸啜機構を学び、母乳育児の特徴を知り支援が理解できる。</p> <p>第9回 事例展開②褥婦 ウェルネスの看護診断に基づき、看護過程を展開する。</p> <p>第10回 妊娠・分娩期の異常 教科書第6章A・Bを読んでおく。妊娠・分娩期の異常と誘発・促進分娩、帝王切開術の看護について学ぶ。</p> <p>第11回 新生児・産褥の異常 教科書第6章C・Dを読んでおく。新生児・産褥期の異常と低出生体重児、高ビリルビン血症児の看護について学ぶ。</p> <p>第12回 産褥早期のまとめ（入院中の母子） DVDを視聴しながら、実習で対象となる分娩後から退院までの母子の理解を深める。</p> <p>第13回 事例展開③産褥・日齢1 実習で使用する記録用紙を使って看護過程を展開する。母子を関連付けて診断し、看護計画を立てる。</p> <p>第14回 事例展開④退院前日 実習で使用する記録用紙を使って看護過程を展開する。母子を関連付けて診断し、看護計画を立てる。</p> <p>第15回 まとめ 筆記試験を含む。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業前に授業計画で示している教科書の章を読んで、重要と思われる箇所を確認しておく。不明な部分は自分で調べ、なお不明な場合は質問項目として準備しておく。
教科書	母性看護援助論Ⅰと同じ教科書 1. 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美他 医学書院 2. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 太田操 医歯薬出版株式会社 3. 写真で分かる母性看護技術 平澤美恵子他 インターメディア
参考書	1. ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本 横尾京子 メディカ出版 2. 病気が見える vol.10 産科 メディックメディア出版 3. 母性看護実習ブレック 村本淳子・町浦美智子 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期筆記試験50%、授業態度(出欠)、課題、小テストなど50%
担当教員の基本情報	担当教員：森久美子 メールアドレス：k_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：原則、授業終了後
備考	演習は5階の母性・成人看護実習室で行う。授業開始10分前に白衣、ナースシューズ、その他病院実習に準じる。原則、演習の欠席は認めない。
	授業のはじめに予習確認テストをすることもあるので、事前学習を必ずしてから授業に出席すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
山下 八重子 他非常勤講師			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	病気や入院による子どもと家族への影響を知り、苦痛やストレス緩和の支援を学ぶ。 成長発達段階での援助を理解し、対象に合わせた衣・食・住への援助を考えることができる。 小児特有の疾患の観察ポイントを理解する。
授業計画	<p>第1回 子どもの病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解する。 1. 子どもの病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解することができる。 2. 入院治療を必要とする小児のストレスを理解する。 3. 子どもの入院環境について知り、子どもの成長発達、安全、安楽の視点からどうあるべきかを考えることができる。</p> <p>第2回 子どもに特有な症状とその看護を理解する。 1. 発熱、脱水、けいれん、呼吸困難 ショック、 2. その原因についても理解する。</p> <p>第3回 子どもの症状とその看護について理解する。 1. 痛み、発疹、嘔吐、下痢、熱傷 2. 特有の疾患についても理解する</p> <p>第4回 外来・在宅における子どもと家族の看護 1. 処置を優先する状況の理解をする。 診察介助、隔離、検査、 2. 在宅での療養の問題点を理解する。 在宅酸素療法、気管切開患児、人工肛門、インスリン自己注射など 3. 看護師の役割について考える。</p> <p>第5回 プレパレーション・デストラクション・遊びについて理解する。 1. 発達段階に応じた遊びの種類や遊ばせ方を学ぶ。 2. 病児にとっての遊びの意義を考えることができる。 3. プレパレーションとデストラクションの理解をする。</p> <p>第6・7回 小児の侵襲を伴う検査や処置について理解する。 1. 吸引・吸入、マルク・ルンバール、採血、抑制 2. 看護師の役割について理解する。</p> <p>第8回 まとめと課題提出 単位修得には課題レポート提出が必須条件 レポート課題は、5回講義終了後に提示する。</p> <p>第8回 試験 筆記試験 100点</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>1) 毎時間の学習内容を予習復習して理解を深める</p> <p>2) 配布した資料について教科書等をもちいて再確認し理解を深める。</p>
教科書	<p>ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 中村友彦 (MCメディカ)</p> <p>系統看護学講座 小児臨床看護各論 奈良間美穂編 (医学書院)</p>
参考書	<p>根拠と事故防止から見た小児看護技術 浅野みどり編 医学書院</p> <p>発達段階から見た小児看護過程 浅野みどり編 医学書院</p>
成績評価	<p>課題レポート</p> <p>最終筆記試験100点</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下八重子</p> <p>研究室 : 10号館8階</p> <p>メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 金曜日 14:00~15:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
山下 八重子 森岡靖子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	健康障害をもつ子どもとその家族の看護を理解する。急性期・慢性期・終末期にある子どもとその家族に必要な援助について理解する。小児の看護に必要な看護技術を学ぶ。事例を用いて関連図を作成しアセスメントし、看護問題の明確化と看護計画の立案について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 小児のフィジカルアセスメントについて理解できる。 1. 小児のフィジカルアセスメントの特徴と重要性について学ぶ。 2. 子どもの全身の評価を行う方法を理解する。 3. 子どもを観察するポイントを理解する。</p> <p>第2回 急性期・手術を受ける子どもと家族への看護 1. 急性期の特徴と家族の心理について考える。 2. 緊急入院・緊急手術をうける子ども家族に必要な看護を学ぶ。 3. 手術を要する疾患と看護を理解する。 4. 生命兆候の危機時の看護について理解し、対象への看護を考えることができる。</p> <p>第3回 慢性期・終末期の子どもと家族の看護 1. 慢性期の子どもとその家族を理解することができる。 2. 在宅・外来における子どもと家族を支える看護師の役割を学ぶ。 3. 継続ケアの必要な子どもを地域で支えるための連携の必要性を学ぶ。 4. 終末期の子どもと家族の苦痛を理解し、対象への看護を考えることができる。</p> <p>第4回 特別な支援を必要とする子どもとその家族への看護 1. 被災児・被虐待児・障害児の理解と看護 2. 子どもに及ぼす心身への影響を理解する。 3. トラウマ、PTSD、発達に及ぼす影響などを理解する。</p> <p>第5・6回 小児看護技術演習 1. 清潔ケア・身体計測・バイタルサイン測定 2. 子どもの救命救急の方法 意識レベルの見方、蘇生の手順を理解する。 3. 演習を行い体験して理解する</p> <p>第7・8回 模擬患者の事例展開① グループワーク 1. 疾患と治療、検査の理解と入院治療を受ける子どもとその家族のアセスメント 2. 成長発達段階に応じた看護計画を立案を学ぶ。 (情報収集・アセスメント・関連図・計画立案)</p> <p>第9・10回 模擬患者の事例展開② グループワーク 1. 提示された模擬患者の情報収集・アセスメント・関連図・計画立案を行い発表する。 2. 模擬事例③の提示翌週講義に持参</p> <p>第11回 模擬事例③ 個人ワーク 1. 提示された模擬患者の情報収集・アセスメント・関連図・計画立案を行い発表する。 2. 講義終了後提出 3. レポート課題の提示</p> <p>第12・13回 子どもに特有な看護技術について学び、基礎的技術を習得することができる。 点滴管理：留置針の挿入介助と固定、輸液ポンプの原理 固定方法：採血介助、ルンパール、 採尿方法：採尿バック 吸入・吸引</p> <p>第14・15回 看護技術テスト (単位修得には合格が必須) 1. 看護技術テスト (バイタルサイン) 2. DVDにて疾患模擬患者の情報の収集し提出。 3. 実習に必要な記録の能力を養うことができる。</p> <p>試験と課題 筆記試験 80点 課題レポート 20点 試験受験資格は、レポート提出済み・技術試験合格者</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	1) 毎時間の学習内容について教科書を読んで予習復習して理解を深める。 2) 教科書を用いて指示された内容を記載された章を何度も熟読し内容を理解する。 3) 提示された課題を文献や教科書を活用し提出締め切りを守り提出する。
教科書	ナーシング・グラフィカ① 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ) ナーシング・グラフィカ② 小児看護技術 中野綾美編 (MCメディカ) ナーシング・グラフィカ③ 小児の疾患と看護 中村友彦編 (MCメディカ) 系統看護学講座① 小児臨床看護総論奈良間美穂編 (医学書院) 系統看護学講座② 小児臨床看護総論各論 奈良間美穂編 (医学書院)
参考書	発達段階から見た小児看護過程 浅野みどり編 医学書院 子どもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳澤正義監修 講談社
成績評価	レポート20点 (単位修得には提出が必須) 実技テスト合格 (単位修得には合格が必須) 筆記試験80点

担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 14:00~16:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
上仲 久			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	老年期にある人々の健康障害とそれに伴う生活上の諸問題を理解し、高齢者とその家族に対する看護の方法について学習する。高齢者の質（QOL）に重点を置きながら、高齢者の様々なニーズを総合的に評価する視点を学ぶ。また、高齢者を全体論的に理解し援助する方法の一つとして「人生を回想すること」についても学ぶ。
授業計画	<p>第1回 高齢者の日常生活を支える基本動作と生活援助。 [到達目標] ・高齢者を生活者としてとらえることができる ・基本的動作のアセスメントと援助について理解ができる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 「老い」について老年看護学概論の復習 基本的動作の観察・アセスメントの視点についての復習しておくこと。</p> <p>第2回 高齢者の食生活とその援助 [到達目標] ・高齢者の食生活に影響を及ぼす要因が理解できる。 ・高齢者が安全かつ快適に食生活を送るためのアセスメントと援助が理解できる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 加齢に伴う消化機能・嚥下機能に変化の復習しておくこと。</p> <p>第3回 高齢者の排泄と生活援助 [到達目標] ・高齢者に生じやすい排泄障害とその看護が理解できる。 ・高齢者はなぜ脱水を起こしやすいのかを説明し、脱水時やその予防の看護について理解ができる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 加齢に伴う、加齢に伴う排泄障害の特徴の復習しておくこと。</p> <p>第4回 高齢者の生活リズムへの援助 [到達目標] ・高齢者の生活行動の変化、睡眠と覚醒の変化、服薬について理解ができる。</p> <p>[授業時間外] 高齢者の生活における活動と休息に影響する要因についてまとめる。学習の指示等]</p> <p>第5回 高齢者の清潔と生活援助 [到達目標] ・高齢者の皮膚の特徴が理解できる。 ・褥瘡を含むスキンケア、フットケアの意義が理解できる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 皮膚の構造・機能の復習しておくこと。</p> <p>第6回 高齢者のコミュニケーションと看護ケア [到達目標] ・高齢者のコミュニケーションの特徴を理解し、かかわり方を考えることができる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 高齢者とのコミュニケーションを行う上で配慮すべき点とその理由を整理しておくこと。</p> <p>第7回 高齢者の生活史を聴く（回想法） [到達目標] ・高齢者の全体理解と援助の方法として、昔語りに関わることの重要性を理解する。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 文献やインターネットにて回想法について調べておくこと。</p> <p>第8回 まとめ [到達目標] 筆記試験を実施する [授業時間外学習の指示等] 講義の内容を振り返り復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に教科書を読んでおくこと。そして、新しいキーワードや十分理解できなかった言葉については、その日のうちに復習し、次の講義に備える事。 （予習と復習の徹底）
教科書	「老年看護学（系統看護学講座専門分野Ⅱ）」（第7版）北川公子ほか著（医学書院）、2016
参考書	老年看護学（改訂版）川島みどり（著）看護の科学社、2015 老年看護学 概論と看護の実践 第4版、奥野 茂代・大西 和子（著）ヌーベルヒロカワ、2014 生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図 第2版 山田 律子（編集）医学書院 2012
成績評価	小テストを含む筆記試験（55%）・提出課題（30%）と日常点（15%）を合計し、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 随時 (事前にメールにて約束をとること) 担当教員名 : 未定 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
栗山 真由美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	老年期にある人々の健康障害とそれに伴う生活上の諸問題を理解し、老年者とその家族に対する看護の方法について学習する。ここでは、老年看護援助論Ⅰをふまえ、看護過程展開を中心に学習する。
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス：「老年看護援助論Ⅱ」の位置づけ・授業の進め方 [到達目標] ・老年病・老年症候群の特徴と看護の視点を理解する。 ・評価の目的、スケールを理解する。 [授業時間外学習の指示等] 老年疾病治療論の復習をしておくこと。 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の医療的援助と看護① [到達目標] ・疾病・治療が高齢者に及ぼす影響について理解する。 ・検査、手術、入院、退院における看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 高齢者・家族にとって病院とはどのような環境かを整理しておくこと。 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の医療的援助と看護② [到達目標] ・薬物療法（有害反応・抗がん剤など）に対する看護師の役割を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護① [到達目標] 高齢者によく見られる循環器系疾患の特徴と看護を理解する。 ・虚血性心疾患、心不全、不整脈、高血圧、動脈硬化症の特徴と看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護② [到達目標] 老年期における認知機能の影響要因、認知症、うつ病、せん妄の看護を理解する。老年期における認知機能の影響要因、認知症の症状について理解する [授業時間外学習の指示等] 視聴覚教材を使用する。文脈を整理するなどの工夫を考えておくこと。 [事後学習課題]認知症高齢者について、自分自身の考えや学びをまとめてレポート提出する。 <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護③ [到達目標] 高齢者によく見られる脳神経系疾患の特徴と看護を理解する。 ・脳血管疾患、パーキンソン病などの特徴と看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護④ [到達目標] 高齢者によく見られる運動器系疾患の特徴と看護を理解する。 ・骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症などの特徴と看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護⑤ [到達目標] 高齢者によく見られる呼吸器系疾患の特徴と看護を理解する。 ・肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺結核等の特徴と看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護⑥ [到達目標] 高齢者によく見られる感染症と看護を理解する。 ・尿路感染症、インフルエンザ、ノロウイルス、疥癬、白癬等の症状と予防、看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者支援の方法と施設生活と看護 [到達目標] ・施設で生活する高齢者への看護と高齢者を介護する家族への支援（家族の物語について興味を持つ）について理解できる。 ・アクティビティーケアについて理解を深める。視聴覚教材を用いる。 [授業時間外学習の指示等] 介護保険施設の各々の役割・違いについて確認しておくこと。 <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者のリスクマネジメント [到達目標]

	<p>・高齢者のスクマネジメントの重要性と看護の役割責務が理解できる。（転倒・誤嚥・栄養障害等） [授業時間外学習の指示等] ハイインリッヒの法則、事故・過誤の概念について復習しておくこと。 高齢者看護における倫理的課題 [到達目標] ・高齢者に起こりやすい倫理的課題の背景と求められる高齢者看護専門職に求められる倫理的能力が理解できる。 [授業時間外学習の指示等] 事前に既習の看護学概論（看護における倫理と価値）について復習をしておくこと。</p> <p>第12回</p> <p>第13回 高齢者の終末期看護 終末期ケアとチーム医療、高齢者の意思決定と家族を支える看護について理解できる。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。</p> <p>第14回 高齢者の看護過程 [到達目標] ・高齢者の特徴を踏まえた看護過程の考え方が理解できる。 [授業時間外学習の指示等] 事前に既習の看護過程論・ヘルスアセスメントを復習しておくこと。 [事後学習課題]提示した事例について自分自身の考えや学びをまとめてレポート提出する。</p> <p>第15回 筆記試験 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。試験範囲・内容などについては事前に説明するので試験対策をすること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること。配布プリントを精読し、不明な部分について調べる。講義後は配布資料や教科書の該当部分を振り返り学びを整理する。
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著（医学書院） 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著（医学書院） 「ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀内ふき他著（メディカ出版） 「ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践」堀内ふき他著（メディカ出版）
参考書	講義に関連する他の教科書を参照することがある（必要時指示）。
成績評価	小テストを含む筆記試験(55%)・提出課題レポート(30%)と日常点：講義やグループワークなどの貢献度(15%)を合計し、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること） 担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること） 担当教員名 : 未定 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること）
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
河原 照子、松岡 みどり			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p><概要> 治療に重点が置かれる段階を終えた病気や外傷の後遺症を持つ人に対して、医療チームのメンバーが連携しつつ、様々な側面から指導や訓練、ケアを提供することによって機能の回復、社会復帰を目指す、というリハビリテーションの意味を理解し、その中で看護が担う役割、機能について学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの概念と障害を持つ人に対する基本理念を理解する。 2. リハビリテーション看護の定義と各健康段階におけるリハビリテーション看護を理解する。 3. 障害を持つ人の生活と心理について理解する。 4. リハビリテーションを必要とする人のADLと援助の基本を理解する。 5. 安静に伴う廃用症候群、誤用・過用症候群の病態について理解する。 6. 廃用症候群を含む二次的障害の予防方法の実際を体験的に理解する。 7. リハビリテーションセラピストの役割と看護チームとの連携について考える。 8. 障害を持つ人の人生の質と支援について考える。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの概念、障害者に関する法律、ICF、ノーマライゼーション等について リハビリテーションの概念と対象、リハビリテーションの基本理念を述べることができる。 ICFの理念について 2 リハビリテーション看護の定義、対象、役割機能、各健康段階(回復過程)とリハビリテーション看護のあり方について リハビリテーション看護について述べるができる。 3 障害を持つ人の日常生活体験(演習) 障害者体験を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べるができる。 クラスを3班に分けて演習する。演習はグループに分かれて障害者体験をする。 事前レポート：演習内容についての手順書の作成 4 障害を持つ人の日常生活体験(演習) 障害者体験を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べるができる。 クラスを3班に分けて演習する。演習はグループに分かれて障害者体験をする。 演習後体験レポート課題 5 コーン、フィンクの障害の受容過程について 障害を持つ人の心理と障害の受容過程を述べるができる 6 障害を持った人の事例(DVD鑑賞) 事例を通して障害を持つ人の心理について述べるができる。 DVD鑑賞後感想レポート提出 7 ADLの概念、分類、評価について リハビリテーションを必要とする人のADLについて基本的内容を述べるができる。 また、その評価方法について述べるができる。 8 ADLの主な評価法と自立に向けての援助の基本 ADLの援助の基本について述べるができる。 9 廃用症候群について 安静に伴う廃用症候群やその他の二次的障害の病態と予防の必要性を述べるができる。 10 廃用症候群予防の基本的看護について 廃用症候群を予防する基本的看護について述べるができる。 11 関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング、座位訓練等の実践について グループ演習。基本的方法について、演習を行い、実施することができる。 事前レポート課題：演習内容についての手順書等作成 12 関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング、座位訓練等の実践について 廃用症候群を予防する基本的援助方法のポイントがわかり実践することができる。 グループ発表 13 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の基本的な内容と看護との連携 リハビリテーション療法とセラピストの役割について理解し、リハビリテーション医療チームの連携について考える。 14 障害を持つ人の生活行為・社会参加への援助と社会資源の整備・活用について 障害を持つ人の人生の質と支援について考える。 15 まとめ
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント、教科書の対応部分を精読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからない場合は質問して解決すること。 ・授業内容によっては事前及び事後レポートを課すことがある。
教科書	成人看護学「リハビリテーション看護論」第2版中西純子他編(ヌーベルヒロカワ)
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤『リハビリテーション看護』 奥宮暁子編(メディカ出版) 2. 系統看護学講座 別巻『リハビリテーション看護』 武田宜子他著(医学書院)

	3. ナーシングセレクション⑩『リハビリテーション看護』奥野暁子監修（学研）
成績評価	筆記試験70%、課題レポート20%、授業内演習に臨む態度10%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河原照子 研究室 : 10号館8階 研究室804 メールアドレス : t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡のこと</p> <p>担当教員名 : 松岡みどり 研究室 : 10号館 6階 共同研究室 メールアドレス : m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡のこと</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
河原 照子、松岡 みどり			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p><概要> 主な症候や症状、また主な疾患に対するリハビリテーション看護の方法について理解するとともに、臨床で多く出会う事例を通して看護過程の展開を学ぶ。</p> <p><目標> 1. 感覚機能に障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 2. 呼吸器に障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 3. 骨折による治療を受けた患者のリハビリテーション看護が理解できる。 4. 運動障害がある人のリハビリテーション看護が理解できる。 5. 神経・筋疾患患者のリハビリテーション看護が理解できる。 6. 脳卒中患者のリハビリテーション看護が理解できる。 7. 高次脳機能障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 8. 失語症がある人のリハビリテーション看護が理解できる。 9. リハビリテーションを必要とする患者事例の看護過程が展開できる。</p>
授業計画	<p>1 感覚障害（視覚障害・聴覚障害）を持つ人のリハビリテーション看護 視覚障害・聴覚障害の原因、分類が理解でき、障害をもつ患者のリハビリテーション看護がわかる。 事前学習課題の発表</p> <p>2 呼吸器に障害をもつ人のリハビリテーション看護 呼吸障害の種類、その特徴について理解できる。 慢性閉塞性肺疾患の病態や患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習の発表</p> <p>3 大腿骨頸部骨折を負った人のリハビリテーション看護 大腿骨頸部骨折の病態・治療がわかり、患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>4 脊椎損傷を負った人のリハビリテーション看護 脊椎損傷での起こりうる障害がわかり、その患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>5 パーキンソン病患者のリハビリテーション看護 パーキンソン病患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>6 意識障害を持つ人のリハビリテーション看護 意識障害が起こる主な疾患である脳卒中についてわかり、意識障害を持つ人の看護について理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>7 高次脳障害をもつ人のリハビリテーション看護 高次脳障害の内容がわかり、それぞれの障害についてのリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>8 失語症をもつ人のリハビリテーション看護 失語症の分類と障害部位、リハビリテーション看護について理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>9 まとめ(中間試験) 中間試験</p> <p>10 事例演習のグループ編成、演習の進め方、事例紹介、事前課題等の連絡含む 事例を通して看護過程展開(演習1) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 課題に応じて個人ワーク グループワーク</p> <p>11 事例を通して看護過程展開(演習2) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 課題に応じて個人ワーク グループワーク</p> <p>12 事例を通して看護過程展開(演習3) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の発表。 看護展開図(関連図)および看護問題についてのグループ発表</p> <p>13 事例を通して看護過程展開(演習4) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 課題に応じて個人ワーク グループワーク</p> <p>14 患者事例を通して看護過程展開(演習5) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 課題に応じて個人ワーク グループワーク</p> <p>15 看護過程発表(演習6) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の発表。</p>

看護計画についてのグループ発表	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布プリント、教科書の対応部分を精読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからない場合は質問して解決すること。講義および演習ではレポートあり。
教科書	成人看護学「リハビリテーション看護論」第2版中西純子他編(ヌーベルヒロカワ)
参考書	1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤『リハビリテーション看護』 奥宮暁子編 (メディカ出版) 2. 系統看護学講座 別巻『リハビリテーション看護』武田宜子他著 (医学書院) 3. ナーシングセレクション⑩『リハビリテーション看護』奥野暁子監修 (学研) 4. 『リハビリテーション ビジュアルブック』落合慈之監修 (学研) 5. 「QOL向上につなげるベッドサイドリハビリテーション実践ガイド」稲川利光編 (学研)
成績評価	筆記試験50%、演習レポート40% 授業・グループワーク態度10% 但し、筆記は中間試験にあたるがこの試験だけで60%以上の点数が単位認定には必要。かつ、授業後半の看護過程(演習レポート)で、60%以上の評価点数が必要。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 河原照子 研究室 : 10号館8階 研究室804 メールアドレス : t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡を入れること 担当教員名 : 松岡みどり 研究室 : 10号館6階 共同研究室 メールアドレス : m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし
備考	

講義科目名称：在宅看護概論

授業コード：2K237

英文科目名称：Introduction to Home Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>概要：在宅で療養生活している人々とその家族を理解し、在宅看護の理念や機能、療養を支援する人や専門チームの役割、社会資源などを学習する。</p> <p>目標：在宅看護の定義・目的・機能・役割が理解できる。在宅看護の対象が理解できる。在宅看護に必要な制度・社会資源活用が理解できる。訪問看護の看護職の役割が理解できる。在宅ケアのマネージメントと関係機関・関係職種間の連携が理解できる。</p>
授業計画	<p>1回 在宅看護の目的と特性 在宅看護がイメージできる 在宅看護の目的や特徴と課題について理解できる 施設内看護との相違が理解できる 看護と介護の相違、相補性が理解できる</p> <p>2回目 日本の在宅看護の変遷と社会背景 日本の在宅看護教育のはじめが理解できる 在宅看護の社会背景が理解できる</p> <p>3回目 在宅看護の対象者 在宅療養の成立条件が理解できる 在宅療養者の権利保障が理解できる 在宅療養を支える家族について、介護負担について理解できる</p> <p>4・5回目 在宅看護に関する制度 医療保険制度、介護保険制度のしくみが理解できる</p> <p>6回目 訪問看護とは 訪問看護と、訪問看護における看護職の役割を理解できる 継続看護の視点から捉えることができる</p> <p>7回目 在宅ケアのマネージメントと関係機関・関係職種間の連携 在宅療養を支える多職種と、その連携・協働が理解できる 居宅介護支援事業所、介護支援専門員について理解できる 地域包括支援センターの機能が理解できる</p> <p>8回目 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>教科書2冊を使用しながら進行するので、教科書を熟読してくること。レジメに書かれている教科書のページ番号を参考にしたり、配布資料も使用しながら復習を行うこと。在宅看護は統合科目であるので、これまでに習った知識(例えば、基礎看護学・老年看護学・社会福祉・家族社会学など)を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は各自で再確認しておくこと。</p>
教科書	<p>「地域療養を支えるケア」櫻井尚子他編集(メディカ出版) 「在宅看護論」秋山正子他著(医学書院)</p>
参考書	<p>随時、提示する</p>
成績評価	<p>試験にて評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>研究室 : 10号館 8階 メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日1240~1330</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
佐藤裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	公衆衛生看護の理念、目標、歴史、倫理を理解し、個人、家族、集団、組織を含むコミュニティ及び地域を構成する人々の集合体（地域全体）の健康増進、改善を目指すアプローチの基本的な考え方を学ぶ。 さらに、計画策定・施策化と予算のしくみ、地域保健管理（組織・人材・社会資源・情報・予算）の実際を学ぶ。
授業計画	<p>1回 公衆衛生看護の理念 公衆衛生看護とは、公衆衛生看護を基盤とした看護活動である。対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指すことを理解する。また、対象者の健康問題を構造的に理解する。</p> <p>2回 公衆衛生看護の基盤となる概念 公衆衛生看護は住民の暮らしと健康を守る公共的な活動である。公衆衛生看護を支える概念として、基本的人権、権利擁護、エンパワメントが重要であることを理解する。</p> <p>3回 公衆衛生看護の対象の特徴 公衆衛生看護の対象は、地域で生活する人々であり、個人・家族・集団・組織・地域である。個人の抱える健康問題と生活を関連づけて捉え、家族を1つの単位として支援することを理解する。</p> <p>4回 公衆衛生看護の場（1） 行政・施設、在宅・医療の場における保健師活動を理解する。</p> <p>5回 公衆衛生看護の場（2） 産業保健における保健師の活動を理解する。</p> <p>6回 公衆衛生看護の場（3） 学校保健における養護教諭の活動を理解する。</p> <p>7回 公衆衛生看護活動の展開における地域診断 地域診断は人々の健康にかかわる情報を分析し、問題とその背景を明らかにするプロセスであり、公衆衛生看護の展開には必要不可欠である。</p> <p>8回 公衆衛生看護活動の展開における計画・実施・評価 地域看護活動の目標設定・計画策定・実践・評価の一連の流れを理解する。</p> <p>9回 社会環境の変化と健康問題 社会環境や生活環境の変化と健康問題との関連について理解する。</p> <p>10回 公衆衛生看護の歴史 公衆衛生看護の変遷をその時代背景とともに学び、公衆衛生看護の歴史を概観する。時代の地域看護・公衆衛生看護の課題を考える。</p> <p>11回 看護法令 公衆衛生看護活動は多くは法的根拠がある。住民にとって法令とは何かを常に考える役割がある。保健師は、関係職種と連携しながら保健活動を行うことが重要である。</p> <p>12回 公衆衛生看護活動の展開（保健師活動） 人々の健康は、生活・社会と密接に関連しており、生活構造、生活実態から総合的に捉えることが重要である。また、保健活動の基本的方向を視点におき、事例をもとに家族及び個人に対するアプローチを駆使して活動することを理解する。</p> <p>13回 公衆衛生看護管理 地域看護管理の理念、組織、人材、資源、予算の管理について理解する。</p> <p>14回 健康危機管理とリスクマネジメント 危機管理はハウツウではなく、枠組みを考える力を持つことが重要である。健康被害を少なくするためには、平時宇治からの準備が重要である。適切な対応のためには公衆衛生の視点が重要である。</p> <p>15回 まとめ 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」標 美奈子 他（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向2015/2016」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）
成績評価	出席状況、授業態度、レポート、ミニテスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>佐藤 裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後 担当教員名 : 坂井茂子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : s_sakai@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー : 月曜日午後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	最近、医療では伝統医学の再評価がなされ、活用されはじめています。心身の状態を包括的に把握できる東洋医学を看護実践に生かすことができるように、基本的な東洋医学の診断・治療学について学習することが目的である。到達目標は、基本的な東洋医学の診察法・病証・治療を理解することである。また東洋医学の基礎知識を理解することである。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、東洋医学の身体観、気の医学 [到達目標] 東洋医学の身体観を学び、心と体の関係を簡単に説明できる。 予習：1年次の東洋医学の基礎理論を読む。 復習：東洋医学の身体観を学び、心と体の関係をまとめる。</p> <p>2回目 気・血・津液、臓腑と経絡について [到達目標] 気・血・津液、臓腑の働きを学び、概略が説明できる。 復習：配布プリントを読んでまとめる。</p> <p>3回目 東洋医学の診察1（望診、舌診） [到達目標] 望診（眼、鼻、口、髪、爪）や舌診の概要が説明できる。 復習：配布プリントを読んで、望診の内容をまとめる。</p> <p>4回目 東洋医学の診察2（問診、聞診） [到達目標] 東洋医学の問診（声診）、問診の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、問診・聞診の内容をまとめる。</p> <p>5回目 東洋医学の診察3（舌診と腹診） [到達目標] 舌診、腹診を体験し、その診察の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、舌診・腹診の内容をまとめる。</p> <p>6回目 東洋医学の診察4（切経、背診） [到達目標] 脈診を体験し、その診察の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、切経・背診の内容をまとめる。</p> <p>7回目 東洋医学の診察5（脈診、小括） [到達目標] 脈診の正常な脈、六祖脈の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、脈診の内容をまとめる。</p> <p>8回目 東洋医学の診断1（八綱の弁証） [到達目標] 基本的な病証を理解でき、その概略を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、八綱の弁証をまとめる。</p> <p>9回目 東洋医学の診断2（気血津液の証） [到達目標] 気・血・津液病証を理解でき、その概略を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、気血津液の証をまとめる。</p> <p>10回目 東洋医学の診断3（臓腑の証） [到達目標] 臓腑の証を理解でき、臓腑の主症状を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、臓腑の証をまとめる。</p> <p>11回目 漢方薬について [到達目標] 生薬や漢方薬の概括を知ることができる。 復習：配布プリントを読んで、漢方薬の種類をまとめる。</p> <p>12回目 鍼灸・按摩について [到達目標] 鍼・灸を理解し、鍼灸治療の応用を知ることができる。 復習：配布プリントを読んで、鍼灸治療の種類をまとめる。</p> <p>13回目 東洋医学の治療学のとらえ [到達目標] 東洋医学の治療学の概括を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、東洋医学の治療の種類をまとめる。</p> <p>14回目 総括1：東洋医学の診断・治療学 [到達目標] 東洋医学の診断・治療学の要点を説明できる。 復習：これまでの配布プリントを読んで、東洋医学診断・治療学の要点を整理し、まとめる。</p> <p>15回目 総括2：東洋医学の診断・治療学 [到達目標] 東洋医学の診断・治療学の要点を記載できる。 予習：東洋医学診断・治療学の要点に関する設問に答え記載する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内に配られたプリントの復習を行う。わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ担当教員に質問したりして解決すること。
教科書	徹底図解 東洋医学のしくみ、兵頭 明監修 新星出版社 授業内の配布プリント
参考書	図解 よくわかる東洋医学のしくみ、関口善太監修 ナツメ社
成績評価	1. 授業回数の5分の3以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価割合は筆記試験80%、小テスト10%、授業態度の評価10%等を総合して行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 斉藤宗則 研究室 : 基礎鍼灸学講座 (6号館2階) メールアドレス : mu_saitoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
松田 哲			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	この授業では、グローバル化が進む現代国際社会において、「子どもがどのような状況におかれているのか」を考えていきたい。具体的には、貧困や戦争が「子どもの安全（生命・健康）」にとってどのような脅威となっているのか、それらの脅威に対処するために何ができるのかを講義していくこととする。それらを理解することを通じて、社会の在り方が子どもの安全にどのような影響を及ぼしているのかを説明できるようになること、安全が脅かされている子どもを医療従事者としてどのように救うことができるのかを考えられるようになることが、この授業の到達目標である。
授業計画	<p>1 子どもの現状 [到達目標] 子どものおかれている現状を理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書のデータ・コラムを読んでくこと。</p> <p>2 貧困と子ども（1） [到達目標] 児童労働の問題点について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の1章を読んでくこと。</p> <p>3 貧困と子ども（2） [到達目標] ストリート・チルドレンの問題点について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の2章を読んでくこと。</p> <p>4 戦争と子ども（1） [到達目標] 戦争がもたらす子どもに対する肉体的・心理的ダメージについて理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の7章を読んでくこと。</p> <p>5 戦争と子ども（2） [到達目標] 子ども兵士の問題点について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の6章を読んでくこと。</p> <p>6 子どもを守る（1） [到達目標] 「子どもを守る国際レジーム」について、「子どもの権利条約」の意義とともに理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の10章、12章1を読んでくこと。</p> <p>7 子どもを守る活動をしている医療NGOが直面する問題について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書のコラム7と8を読んでくこと。</p> <p>8 まとめ [備考]（授業時間外学習の指示等） これまでのレジメを復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書をよく読んでおくこと。コメントカードの提出を4回ほど求めるので、提出が求められた場合には自宅で執筆してくこと。なお、この授業は医学・看護学ではなく社会科学であるので、新聞やニュース等を通じて社会の動きを日頃からフォローしておくことが望ましい。
教科書	「国際関係のなかの子どもたち」 初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編著（晃洋書房）
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	評価方法と評価割合（試験60%、コメントカードの提出40%）。
担当教員の基本情報	担当教員名：松田 哲（非常勤講師） 研究室：非常勤講師 メールアドレス： オフィスアワー：授業後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
小山 晃英			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>疫学とは、医療・保健において、健康な状態から疾病状態までの問題点を把握し、その解決策を模索する一連の流れの中で、問題点を分析する論理的な思考法と、それを裏付ける情報(データ)の処理、解析する手法について学ぶ学問である。具体的には、人間集団を対象にして調査を行い、その対象に存在する医療・保健に関する問題点を数値(指標)で表現し、その表現された数値間の関係を、統計学等の基礎学問の論理により解析、分析を行い、「原因と結果」という形で問題点を明確にし、さらにその問題を解決する方法を模索する。</p> <p>到達目標：本授業では、疫学の基本的な考え方、疫学での基本的かつ重要な指標の意味と算出方法を知り、指標の数値から導かれる状況の把握と、問題点を明確にする論法を理解し、問題解決法を模索することができることを目標にする。</p>
授業計画	<p>第1回 疫学総論 【到達目標】 歴史的な疫学事例を通して、疫学の原理を考える。</p> <p>第2回 人口統計の基礎 【到達目標】 人口統計の意義、主な人口統計指標の分母と分子について理解する。平均余命の計算方法を理解する。</p> <p>第3回 集団の健康状態の把握 【到達目標】 有病率、罹患率、死亡率、致命率、RMR、PMIの理解ができ、計算ができる。</p> <p>第4回 疫学的研究方法 【到達目標】 観察研究・介入研究などの疫学手法を理解する。</p> <p>第5回 因果関係、交絡因子 【到達目標】 妥当性・因果関係の立証と交絡因子について理解する。</p> <p>第6回 疾病の予防とスクリーニング 【到達目標】 疾病予防の3段階、スクリーニング検査の評価について理解する。</p> <p>第7回 生活習慣病の疫学 【到達目標】 喫煙・飲酒・栄養・運動等の生活習慣と疾病発生状況の関連を理解する。</p> <p>第8回 がんの疫学</p> <p>第9回 循環器疾患の疫学</p> <p>第10回 感染症の疫学</p> <p>第11回 栄養の疫学</p> <p>第12回 ライフコース疫学 【到達目標】 妊娠期から小児期、思春期、成人期にわたる人生の流れを通じて、健康や疾病に関する疫学について考える。</p> <p>第13回 統計で利用するグラフ 【到達目標】 ヒストグラムと散布図を作成することができる。</p> <p>第14回 疫学で利用する統計学的手法 【到達目標】 一般的に疫学で利用する統計学について理解する。</p> <p>第15回 まとめ(評価含む)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	教科書及び参考書により予習及び復習をすること。(各30分～1時間程度)
教科書	標準保健師講座・別巻2 疫学・保健統計学 牧本清子 著、医学書院 発行 (ISBN978-4-260-00751-1)
参考書	社会人1年生のための統計学教科書 -データの見方からリスク・リテラシーまで- 浅野晃 著、SBクリエイティブ 発行 (ISBN978-4-7973-7517-6)
成績評価	出席、レポート及び試験による

担当教員の基本情報	担当教員名 : 小山 晃英 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : tkoyama@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
小山 晃英			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	公衆衛生学は、環境衛生、伝染病予防、衛生教育、疾病の早期診断と治療、地域社会における健康の維持に必要なかつ十分な社会機構の開発などにより、疾病予防、生命延長、身体的および精神健康を図る科学と技術である。基礎医学と臨床医学を両端として、医学の真ん中に位置している公衆衛生学を体系的に学習する。
授業計画	<p>1回目 公衆衛生の概念 【到達目標】 公衆衛生の発展の歴史を踏まえ、公衆衛生の特性、プライマリー・ヘルスケアを理解する。</p> <p>2回目 健康と環境の視点 【到達目標】 環境全般や生活環境の保全について理解する。</p> <p>3回目 健康の指標 【到達目標】 公衆衛生における疫学指標について理解する。</p> <p>4回目 感染症とその予防 【到達目標】 公衆衛生における感染症の予防の基本を理解する。</p> <p>5回目 公衆衛生活動の実際 【到達目標】 母子・精神・難病対策等について理解する。</p> <p>6回目 生活習慣病の予防 【到達目標】 生活習慣病対策～健康日本21（2次）から～について理解する。</p> <p>7回目 これからの公衆衛生 【到達目標】 各自がこれからの公衆衛生における課題について考え、ディスカッションを通して学びを深める。 *公衆衛生の課題を1つ選び、自分の考えをまとめレポートする。</p> <p>8回目 まとめ（評価含む）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>(1) 教科書のその日にやったところを読み返しておくこと。</p> <p>(2) その日に指示されたキーワードを文章でまとめておくこと。</p>
教科書	「公衆衛生学」 清水忠彦 佐藤拓代著（ヌーヴェルヒロカワ）
参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）
成績評価	出席状況・参加態度・レポート20%、小テスト・筆記試験80%により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小山 晃英</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス : tkoyama@koto.kpu-m.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
小倉 之子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1. 終末期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的・霊的苦痛について理解する。 2. 終末期にある患者の家族および遺族のニーズについて考察する。 3. 終末期にある患者に対する看護援助の特徴を理解する。
授業計画	<p>1回 [授業概要] I 緩和・ターミナルケア看護学序説(1) [到達目標] 終末期ケア、緩和ケアの考え方や死にまつわる文化について理解する。 [備考] 教科書p4～p23を読んでおく。</p> <p>2回 [授業概要] I 緩和・ターミナルケア看護学序説(2) [到達目標] ターミナル期にある人の療養の場、死をめぐる倫理的課題、ターミナルケアにおけるチーム医療について理解する。 [備考] 教科書p25～p60</p> <p>3回 [授業概要] V 実践編 疼痛コントロール [到達目標] 終末期における薬剤の活用およびその副作用について理解できる。 [備考] ・教科書p245～p277を読んでおく。</p> <p>4回 [授業概要] 現代における終末期ケアの課題①(グループワーク) [到達目標] これまでの学習や生活体験から終末期ケアに関連した疑問を表出し終末期ケアの課題を考えることができる。 [備考] ・意志決定権 ・全人的苦痛 ・悲嘆 ・予期悲嘆 ・QOL ・インフォームドコンセント ・その他 より学びたいテーマを選びグループ分けをする</p> <p>5回 [授業概要] 現代における終末期ケアの課題②(グループワーク) [到達目標] これまでの学習や生活体験から終末期ケアに関連した疑問を表出し終末期ケアの課題を考えたものをまとめることができる。 [備考] 各グループでテーマに対する現状、ケアの課題をまとめる。</p> <p>6回 [授業概要] 現代における終末期ケアの課題③(グループワーク) [到達目標] これまでの学習や生活体験から終末期ケアに関連した疑問を表出し終末期ケアの課題を考えたものをまとめることができる。 [備考] 各グループでテーマに対する現状、ケアの課題をまとめる。</p> <p>7回 [授業概要] 現代における終末期ケアの課題④(グループ発表) [到達目標] これまでの学習や生活体験から終末期ケアの課題を考えることができる。 [備考] 各グループでテーマに対する現状、ケアの課題を発表する。パワーポイントで発表する場合、OSはWindowsで作成すること</p> <p>8回 [授業概要]まとめ [到達目標] [備考] 終講試験</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	『緩和・ターミナルケア看護論 第2版』(ヌーヴェルヒロカワ)教科書を元に授業を進めるので、必ず授業時毎回持参して下さい。
参考書	『系統看護学講座 別巻 緩和ケア』(医学書院) 『ナースンググラフィカ 緩和ケア』(メデイカ出版)
成績評価	出席状況、レポート、筆記試験により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館(看護学部棟)8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 午後</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

講義科目名称：急性期看護学実習

授業コード：2K307

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	3	必修
担当教員			
藤田 智恵子、今井 理香、原 久美子			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	授業形態：実習	

授業目標	1. 手術を受ける対象の特徴および手術前・中・後の3つの医療環境を理解した上で、対象のニーズに応じた援助ができる。 2. 治療に伴う機能障害や形態の変化を受容し、適応に向けての援助ができる。 3. 対象の退院後の生活背景を把握、回復状態に応じた日常生活の自立への援助ができる。 4. 危機的な状況にある対象および家族または重要他者への援助方法について考えることができる。 5. 保健医療チームメンバー間の連携および社会資源の活用方法について理解できる。
授業計画	詳細は急性期看護学実習要項を参照。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前学習は実習オリエンテーションで提示する。
教科書	実習要項を事前に配布する。
参考書	成人看護学概論、急性期看護援助論Ⅰ・Ⅱで紹介したものを使用する。
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢、実習記録により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習中に指示</p> <p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習中に指示</p> <p>担当教員名 : 原久美子 研究室 : 10号館6階 北研究室 メールアドレス : k_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習中に指示</p>
備考	

講義科目名称：慢性期看護学実習

授業コード：2K308

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	3	必修
担当教員			
小倉 之子、宇城 靖子、鈴木 規子			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>実習目的： 慢性的な健康課題を有するあるいは終末期にある人とその家族を対象とし、その対象者への看護実践をとおして、慢性期看護学の本質と看護方法について理解を深める。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の健康生活を理解し、看護過程を活用して看護を実践するために必要な基本的知識・技術・態度を養う。 2. 対象者の健康生活を支援する保健医療福祉体制の実際と、その中での看護の役割・機能について理解を深める。 3. 慢性期看護学実習をとおして、看護者としての倫理観・看護観を養い、自己の課題を明らかにする。
授業計画	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。
教科書	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』
参考書	適宜紹介します。
成績評価	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日午後</p> <p>担当教員名 : 宇城靖子 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 7階706 メールアドレス : s_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します</p> <p>担当教員名 : 鈴木 規子 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 7階709 メールアドレス : n_suzuki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	精神（こころ）の健康問題を多面的に理解するための幅広い知識を学ぶ。
授業計画	<p>1 回目 精神保健の歴史 [到達目標] 精神保健の歴史上の事件や法律をいうことができる。</p> <p>2 回目 看護師のメンタルヘルス（1）共感と感情労働 [到達目標] 共感とはどのようなものか、感情労働とは何かを説明できる</p> <p>3 回目 看護師のメンタルヘルス（2）と燃え尽き症候群 [到達目標] ワーカホリックや燃え尽き症候群について、その説明することができる。</p> <p>4 回目 アディクション（1）摂食障害その他アディクション [到達目標] 摂食障害とは何かや、その他アディクションとよばれるものにどのようなものがあるか言うことができる。</p> <p>5 回目 アディクション（2）アルコール依存症 [到達目標] 耐性、離脱症状とは何かや、アルコール依存の治療について説明することができる。</p> <p>6 回目 精神保健関連法規 [到達目標] 精神保健関連の法律、特に精神保健福祉法の主な項目を言うことができる。</p> <p>7 回目 地域精神保健 [到達目標] 地域で精神障害者を支える社会資源・制度には何かがあるかを言うことができる。</p> <p>8 回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義前に、教科書の該当するページを読んでくること。
教科書	「精神看護学Ⅰ」 精神保健学 川野雅資 他 著（ヌーヴェルヒロカワ）
参考書	特に指定しない
成績評価	定期試験および授業への参加態度によって評価する。 (試験70%、出席および受講態度30%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

講義科目名称：精神看護学実習

授業コード：2K310

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>「精神障害」とは何かを理解し、それを持つ人への援助に必要な基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者様を生活する人として理解する。 2. 信頼関係を築く。 3. 看護家庭の知識を用いて、個別的な援助を考えることができる。 4. 精神領域における看護者の役割を理解する。
授業計画	詳しくは実習要項を参照してください。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだことをしっかりと復習しておく。 ・実習中に分からなかったこと、疑問に思ったことは、必ず担当教員に質問し、また文献等で確認して解決すること。
教科書	<p>系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院) 精神看護学Ⅰ 精神保健学 川野雅資 他著 (ヌーヴェルヒロカワ) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 川野雅資 他著 (ヌーヴェルヒロカワ) 「表情看護のすすめ」 平澤久一 監修 (メディカ出版) 「精神看護学」 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著 (医歯薬出版)</p>
参考書	特に指定しない。
成績評価	実習記録・カンファレンス参加状況・出席・実習に取り組む姿勢などを総合的にみて、実習終了後に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。 担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
森久美子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>《教育概要》 女性のライフサイクル全体における、健康及び健康障害に関する看護について考える。また、新しい生命が誕生する場において、妊産褥婦と新生児に対する理解を深め、家族も含めた発達段階や健康問題についてアセスメントできる能力を養い、周産期の看護を展開する。</p> <p>《教育目標》 1. 女性のライフサイクルの各時期（胎児期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期、更年期、老年期）における健康及び健康障害について理解し、女性の一生を通じての健康及び健康障害に関する看護の必要性と具体的援助法方法について考えることができる。</p> <p>2. 周産期における看護過程の展開ができる。 1) 母子を身体的・心理社会的側面から理解し、家族を含めた全体像をとらえる事ができる。 2) 母子や家族の発達課題や、健康問題が生活に及ぼす影響について理解できる。 3) 母子への看護援助方法の実際が理解できる。 4) 母子およびその家族への看護過程の展開ができる</p>
授業計画	<p>実習期間：1クール 2週間（学生配置と期間・時間等の詳細は後日公表） 実習場所：市立福知山市民病院 近江八幡市立総合医療センター 三菱京都病院 吹田徳洲会病院 京都助産師会 実習内容：周産期に焦点を当てた病院実習、また地域における母子支援の実習を行う。 その他、詳細は実習要項に記載する。</p> <p>1 周産期実習 1) 学生数名でグループ編成し、病棟で実習を行う。 2) 1人またはペアで1組の母子を受持ち、看護過程を展開する。 3) 今まで修得した知識・技術を基本に、受け持った母子の生理的な変化や適応過程を理解して、正常からの逸脱時には必要な援助を考え実施する。 4) 行動目標と具体的な計画を立て、実習開始前に教員より助言を得る。 5) 看護ケアを行う際は、行動目標を実習指導者に報告し、相談・助言を得た上で行う。 6) 随時カンファレンスを行うことにより実習体験を共有する。</p> <p>2 地域における母子支援 1) 学生数名でグループ編成し、母子支援の場で実習を行う。 2) 地域で生活する母子はどのような課題を抱えているのか、それに対してどのような支援がされているのかを学ぶ。 3) 乳幼児についての知識を基本に、発達段階の特徴を理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習オリエンテーション時に課題提示する。 女性のライフサイクルと健康、および周産期の看護（妊娠期・分娩期・産褥・新生児）について知識と技術を復習しておくこと。
教科書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書
参考書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」授業で紹介された文献および資料 「イラストで学ぶ妊娠・分娩・産褥の生理」メディカ出版 「ウイメンズヘルスナーシング概論」ヌーベル ヒロカワ出版
成績評価	出席状況 実習への積極的姿勢、実習記録・レポート等を総合的に評価する。実習記録・レポート等の評価には提出期限を含んでいるので、必ず期限までに提出すること。 (原則として実習内容・記録類80%、出席状況・実習態度20%とする)
担当教員の基本情報	未定
備考	

講義科目名称：基礎助産学

授業コード：2K312

英文科目名称：Basic Midwifery

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
森久美子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義、演習	

授業目標	1. 助産学の基本概念を理解し、助産師の役割と責務を遂行するための知識を修得する。 2. 助産師として基盤となる女性生殖器の解剖、および疾患についての知識を修得する。 3. 各ライフサイクルの特徴を理解し、リプロダクティブヘルス・ライツの視点に立った健康教育の実際を修得する。
授業計画	1 助産の概念、助産の歴史 2 助産師の職制と業務、助産学を支える理論、助産師と倫理 3 母子保健の動向、助産師教育の変遷 4 リプロダクションに関する解剖・生理 5 性行動と機能、遺伝と遺伝性疾患、生殖補助医療 6 母子と免疫、母子と感染 7 性感染症と健康教育 8 女性のライフサイクル各期における主な疾患、リプロダクションに関する検査 9 母子と栄養 課題；妊娠期と授乳期の栄養指導案 10 「栄養指導」演習 11 家族計画 課題；家族計画 12 「家族計画」演習 13 女性のライフサイクルと女性のメンタルヘルス、親子関係 14 リプロダクティブライツの課題 ビデオ「母たちの村」、「GIRLS DECIDE」鑑賞 15 まとめ
授業時間外の学習 (準備学習等)について	母性看護学、および関連課目の復習と講義内容の範囲の教科書を読んで予習をして臨む。また、十分に理解できていない内容の質問項目を準備して臨む。
教科書	1. 助産学講座1 基礎助産学[1]助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 2. 助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 3. 助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院
参考書	1. 家族計画指導の実際 第2版 木村好秀・齋藤益子 医学書院 2. 病気が見えるvol.9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア 3. 病気が見えるvol.10 産科 メディックメディア
成績評価	筆記試験70%、課題20%(各10%)、レポート10%
担当教員の基本情報	森久美子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則火曜日17:00~18:00 事前連絡すること
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	5	選択必修
担当教員			
森久美子			
配当学科：看護学科	時間数：75時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルの助産実践に必要な知識と技術が修得できる。 2. 正常経過をたどる対象に対する助産過程が展開できる。 3. 周産期のハイリスク状態にある対象の診断と援助が理解できる。 4. 対象の主体性を尊重し、継続に支援する助産師としての基本姿勢が修得できる。 		
授業計画	1	援助技術とは、助産活動を支える理論・技術の基本	
	2	相談教育活動、健康教育、女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助	
	3	助産診断・技術学の概要、妊娠期の生理、妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント	
	4-6	妊娠期の助産診断 妊娠期のフィジカルアセスメントを含む 母子健康手帳	
	7	妊婦への支援	
	8	妊娠期における検査・薬剤・手術	
	9	ハイリスク・異常妊娠のアセスメントと支援 課題；事例による助産診断	
	10	事例による助産診断、妊娠期まとめテスト 試験；筆記60分、技術30分	
	11	分娩の生理、分娩期の心理社会的変化	
	12-13	分娩期の助産診断 分娩期のフィジカルアセスメントを含む	
	14-16	分娩介助法 人口破膜、フリースタイル分娩介助を含む	
	17	産婦の支援 産痛緩和法の演習を含む	
	18	分娩期の異常・偶発疾患	
	19-20	ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援	
	21	産科手術および産科的医療処置 課題；事例による助産診断	
	22	事例による助産診断	
	23	分娩期のまとめ 試験；筆記90分、技術90分	
	24	産褥期の生理、産褥期の心理社会的変化	
	25-26	産褥期の助産診断 産褥期のフィジカルアセスメントを含む	
	27-28	乳房管理	
	29	産褥期の異常・偶発疾患	
	30	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	
	31	分娩期・産褥期の検査、使用する薬剤	

	32	新生児のケア
	33	ハイリスク新生児のケア
	34	新生児蘇生法 課題；事例による助産診断
	35	事例による助産診断 課題；産後3日の保健指導案、退院指導案(家族計画を含む)
	36	保健指導、退院指導
	37	産褥・新生児期まとめ 試験；筆記90分、技術90分
	38	まとめ 全範囲の試験 分娩介助技術試験は実習前に実施
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義内容の範囲を予習して臨む。既に学習した内容で知識や技術が不十分なところは自己学習で修得して臨む。	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 堀内成子編 医学書院 2. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 3. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 横尾京子編 5. マタニティ診断ガイドブック 第5版 日本助産診断・実践研究会編 6. 写真で分かる助産技術 平澤美恵子・村上睦子編 インターメディカ 7. 新生児蘇生法テキスト 第3版 細野茂春監修 メディカルビュー社 	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第3版 北川真理子・内山和美編集 南江堂 2. 図解 CTGテキスト 中井章人 メディカルビュー社 3. 母乳育児支援スタンダード 第2版 ラクテーションコンサルタント協会編集 医学書院 	
成績評価	筆記試験、実技試験を実習前に実施	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 森久美子 研究室 : 10号7階 メールアドレス : k_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則火曜日17:00~18:00 事前に連絡する	
備考		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	10	選択必修
担当教員			
森久美子			
配当学科：看護学科	時間数：450時間	授業形態：実習	

授業目標	正常分娩経過における助産診断・助産技術の基礎を身につける。併せて、妊娠・分娩・産褥・育児期の母親と胎児・新生児、およびその家族への、個別性を考慮した継続的な助産過程の展開についても学ぶ。また、助産管理の実際についても学ぶ。
授業計画	<p>1. 妊娠期実習</p> <p>1) 産婦人科外来、助産師外来で実習を行う。</p> <p>2) 対象者を決定し、助産診断を行う。</p> <p>3) 外来での助産援助について理解する。</p> <p>2. 分娩期実習</p> <p>1) 病棟で実習を行う。</p> <p>2) 原則として正常分娩経過をたどる母児を受け持ち、分娩第Ⅰ期～第Ⅳ期において助産過程を展開する。</p> <p>10例介助終了時に少しの支援でできることを目標とする。</p> <p>3 産褥・新生児期実習</p> <p>1) 原則として分娩期から退院までを継続して受け持つ。</p> <p>2) 助産過程を展開する。</p> <p>3) 助産診断から個別性のある保健指導を立案、実施する。</p> <p>4) 実習期間であれば1か月健診に立ち会う。</p> <p>4 その他</p> <p>1) 間接介助・出生直後ケア</p> <p>2) 帝王切開後のケア</p> <p>3) 母乳育児ケア</p> <p>4) 集団教育（退院指導、母親学級・両親学級など）</p> <p>5) 助産管理</p> <p>実習施設 市立弥栄病院 公立南丹病院 ※実習に関する詳しい内容は要項を参照</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要な知識の学習はもとより、時間外を有効に使うことによって十分に技術練習を積み重ねておくこと。必要に応じ、課題学習・補修を行う。実習時間が不規則になるため、実習中は十分に健康管理をし、配慮が必要なことは関係しては必ず教員に報告すること。参考文献・参考資料は、自分たちでも積極的に集めて（または作成して）おくこと。
教科書	教科書、配布資料、自己学習ノート等を活用する。
参考書	実習経過に応じて、適宜提示する。
成績評価	実習内容、実習記録・レポート、ならびに実習態度・出席状況などを総合的に評価する。実習終了後に実習評価表に基づき面接を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：森久美子 研究室：10号館7階 メールアドレス：k_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：原則火曜日17：00～18：00 事前連絡すること
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
山下 八重子 森岡靖子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの成長発達及び発達課題を理解し、日常生活の援助ができる。 2) 子どもにおきている健康上の問題をアセスメントし看護問題を明確にできる。 3) 子どもとその家族の状況に応じて具体的な援助を計画することができる。 4) 子どもとその家族に応じた援助の実施・評価ができる。 5) 子どもとその家族を取り巻く保健医療チームの役割や連携について理解できる。 6) 子どもの権利や小児看護師の役割について考察できる。
授業計画	<p>実習</p> <p>1 週目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患児の情報を取ることが出来る。 2. 受け持ち患児の疾患と治療、成長発達と家族の状況をアセスメントする。 3. 関連図を作成し看護上の問題点を明らかにする。 4. バイタルサインを測ることができ、患児の症状の観察ができる。報告ができる。 <p>2週目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護計画を実践し、自分の行った看護を評価する。 2. 子どもと家族を含めた看護について考えることができる。 3. カンファレンスを通してメンバーの学びを共有する。 4. 遊びを実施する。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの成長発達・小児発達理論についてまとめる 2) 子どもの成長発達への援助についてまとめる 3) 代表的な疾患の病態・治療・検査についてまとめる 4) 小児看護技術を自己学習による演習を実施し確認する 5) 小児看護の実際が分かる参考書等を読んでおく
教科書	<p>ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 中村友彦 (MCメディカ)</p> <p>系統看護学講座 小児看護学2 奈良間美穂編 (医学書院)</p>
参考書	<p>系統看護学講座 小児看護学1 奈良間美穂編 (医学書院)</p> <p>写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ)</p> <p>その他、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、疾病治療論の教科書</p>
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習への姿勢、記録物にて理解度を評価する。 2. 実習終了後の口頭試問にて受け持ち患児の健康問題の理解状況を評価し、記録と合わせて総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下八重子 10号館8階研究室</p> <p>研究室 : 10号館8階</p> <p>メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 火曜日 14:00~16:00</p> <p>担当教員名 : 森岡靖子 研究室 (共同研究室)</p> <p>研究室 : 10号館6階</p> <p>メールアドレス : y_morioka@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 金曜日 15:00~16:00</p>
備考	

講義科目名称：老年看護学実習

授業コード：2K316

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	3	必修
担当教員			
上仲 久			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	授業形態：実習	

授業目標	介護老人保健施設・介護老人福祉施設等を利用する高齢者との関わりを通じて、要介護状態にある高齢者の理解を深めるとともに、望ましい日常生活への援助を実践する。
授業計画	詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	積極的に取り組む姿勢で実習に臨むこと。 現場で学んだ内容を復習して理解を深めること。 事前学習などを指示する。
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著 (医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著 (医学書院) 「ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀内ふき他著 (メディカ出版) 「ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践」堀内ふき他著 (メディカ出版)
参考書	適時紹介する。
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢 レポート (看護記録含む) の提出を総合的に評価する。詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること) 担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること) 担当教員名 : 未定 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
河原 照子、松岡 みどり			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の機能障害・構造障害が理解できる。 2. 対象のリハビリテーションプログラムが理解できる。 3. 対象のADLを評価し、自立を目指した日常生活の援助ができる。 4. 対象及び家族の気持ちを受け止め、尊重した態度で接することができる。 5. 生活の再構築とQOL向上を目指し、対象及び家族と共に考えることができる。 6. リハビリテーション医療における看護の役割が理解できる。 7. リハビリテーションチームの連携の必要性が理解できる。 8. 対象に応じた看護過程の展開ができる。
授業計画	<p>既習の知識、技術を基盤に、リハビリテーションを必要とする対象を総合的に理解し、その人らしい生活の再自立あるいは再構築に向けた援助について学ぶ。</p> <p>対象の疾患の機能障害・構造障害について理解できる。 対象の障害の状態にあわせたリハビリテーションプログラムが理解できる。 障害を負った対象及び家族との信頼関係が構築できる。 退院生活後の再自立あるいは再構築の獲得を目指し、対象及び家族と共に考えることができる。 リハビリテーション医療における看護の役割について理解できる。</p> <p>リハビリテーションチーム連携・協働の必要性について理解できる。対象に応じた看護過程の展開ができる。 学生としての節度を守り、看護者としてふさわしい態度で、積極的に学習課題に取り組むことができる。 (詳細は実習要項参照)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>事前に配布した実習要項参照 事前課題あり：事前課題は、基準点に達しないと実習への参加は認めることはできない。</p>
教科書	実習要項参照（実習オリエンテーションでも提示する）
参考書	リハビリテーション看護学概論，リハビリテーション看護援助論で紹介したものを参考にする。
成績評価	事前課題、実習評価表の内容、実習記録、実習への取り組み姿勢などを総合的に評価する。 特に、実際の実習での患者への援助、それに関する学習内容の理解などを重要視する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：河原照子 研究室：10号館8階 研究室804 メールアドレス：t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：特に指定なし 事前にメールで連絡のこと</p> <p>担当教員名：松岡みどり 研究室：10号館6階 共同研究室 メールアドレス：m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：実習中に指示</p>
備考	

講義科目名称：在宅看護援助論 I

授業コード：2K318

英文科目名称：Methodology of Home Care Nursing I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>概要：訪問看護ステーションと在宅看護活動に必要な知識、マナー、基本的な生活援助の支援を学ぶ。</p> <p>目標：訪問看護ステーションの活動について理解できる。訪問看護師としてのマナーを知る。在宅における感染症対策が理解できる。緊急時・災害時の対応を学ぶ。在宅における生活援助の方法と技術を理解する。</p>
授業計画	<p>1回目 訪問看護ステーション 設置、管理、運営、従業者、対象者、サービス内容、利用までの流れが理解できる</p> <p>2回目 在宅でのコミュニケーション・面接技術 家庭訪問の技術について理解できる。</p> <p>3回目 感染症対策とリスクマネジメント 在宅看護における感染症への対応の原則と看護のポイントを理解できる 在宅看護における緊急時・災害時の対応が理解できる。 在宅看護で多くみられるインシデントについて理解し、家族への予防指導・対策について理解できる</p> <p>4～7回目 日常生活の援助技術 在宅における食事援助の技術／排泄援助の技術／清潔援助の技術／移動援助の技術について理解できる。</p> <p>8回目 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>教科書2冊を使用しながら進行するので、教科書を熟読してくること。レジメに書かれている教科書のページ番号を参考にしたり、配布資料も使用しながら復習を行うこと。</p> <p>在宅看護は統合科目であるので、これまでに習った知識（例えば、病院での感染症対策、基礎看護学での看護技術・病態生理・高齢者とのコミュニケーションの仕方など）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は各自で再確認しておくこと。</p>
教科書	<p>「在宅看護論」秋山 正子他著（医学書院）</p> <p>「地域療養を支えるケア」櫻井尚子他編集（メディカ出版）</p>
参考書	随時、提示する
成績評価	試験にて評価する
担当教員の基本情報	<p>研究室 : 10号館 8階</p> <p>メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 水曜日1240～1330</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	概要：療養者と家族のニーズを捉える在宅看護の展開，在宅医療と対象別の看護活動に必要な知識，技術について学ぶ。 目標：在宅において医療管理を必要とする人とその家族への看護を理解できる．さまざまな事例から状態に応じた在宅看護を学習する．収集した情報から療養者と家族のニーズを捉え，看護展開ができる．
授業計画	1～5回目 医学的管理が必要な技術 在宅における服薬管理の技術／経管栄養／中心静脈栄養／褥瘡・ストマ管理／人工呼吸器／疼痛緩和を必要とする患者の看護について理解できる。 6・7回目 在宅酸素療法 在宅酸素療法を必要とする患者の看護、医療機器について理解できる。 8～11回目 対象別の在宅看護 在宅における障害者／精神疾患／難病／認知症／小児／終末期にある人の在宅看護が理解できる。 12～14回目 在宅看護過程 在宅看護過程の特徴を学び，在宅看護を展開する一連の過程である情報収集，アセスメント，実践，評価を学ぶ。 事例をとおして具体的な在宅看護過程の展開方法が理解できる。 事例を用いて在宅での看護展開ができる 15回目 まとめ
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書2冊を使用しながら進行する。予習・復習の際は、レジメに書かれている教科書のページ番号を参考にしながら行うこと。配布資料も使用しながら復習を行うこと。 在宅看護は統合科目であるので、これまでに習った知識（例えば、解剖生理、基礎看護学の看護技術、看護展開・老年看護学の認知症の看護についてなど）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は各自で再確認しておくこと。
教科書	「在宅看護論」秋山 正子他著（医学書院） 「地域療養を支えるケア」櫻井尚子他編集（メディカ出版）
参考書	随時、提示する
成績評価	試験にて評価する。
担当教員の基本情報	研究室 : 10号館 8階 メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日1240～1330
備考	

講義科目名称：在宅看護実習

授業コード：2K320

英文科目名称：Clinical Practice in Home Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
田中小百合、佐藤裕見子、田中富美子、坂井茂子、村上久恵			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>【実習目的】 在宅療養者とその家族の健康上の問題を理解し、生活の場に応じた看護の役割について学ぶ。また、地域看護における訪問看護ステーションの役割を理解する。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族を対象に健康状態や生活状況を理解し、両者に対する援助の実際を学ぶ（看護過程の展開ができる）。 2. 在宅療養者とその家族を「生活者」としてとらえ、価値観や自己決定を尊重した看護の実際を学ぶ。 3. 継続看護における訪問看護ステーションの役割を理解する。 4. 対象者の健康問題の解決のために必要な社会資源の活用方法と連携・調整を理解する。
授業計画	<p>1日目 学内実習 オリエンテーション、計画立案、物品貸出等</p> <p>2日目 施設実習 訪問看護</p> <p>3日目 学内実習 記録整理、援助技術の実施準備等</p> <p>4・5日目 施設実習 訪問看護</p> <p>6日目 学内実習 記録整理、中間カンファレンス</p> <p>7・8日目 施設実習 訪問看護、最終カンファレンス</p> <p>9日目 施設実習 重症心身障害児（者）施設見学・体験</p> <p>10日目 学内実習 実習報告会、個人面談、記録提出</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	準備学習については、3年次夏に別途配布する。
教科書	特に指定しない
参考書	在宅看護の教科書、配布資料は勿論のこと、他、必要時応じて図書の利用も必ず行うこと
成績評価	出席状況、実習態度（服装も含む）、実習記録（まとめレポートも含む）の内容、実習の到達状況、カンファレンスの発言内容等で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>田中小百合研究室：10号館8階 メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日</p> <p>佐藤裕見子研究室：10号館8階 メールアドレス : y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日</p> <p>田中富美子研究室：10号館7階 メールアドレス : fm_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日</p> <p>坂井茂子研究室：10号館7階 メールアドレス : s_sakai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日</p> <p>村上久恵研究室：10号館7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日</p>
備考	詳細は実習要項に記載する。必ず実習要綱を熟読の上、取り組むこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	公衆衛生看護の対象（個人・家族・集団・組織）の健康生活力量を向上させる活動方法及び活動展開方法の基本的考えを理解し、地域アセスメント、活動方針と目標設定の実際を学習する。
授業計画	<p>第1回 地域診断（概念・プロセス） ①地域アセスメント、地域診断、計画、実践、評価の一連の地域保健活動過程は、根本的に個々の看護過程と同じであることを理解する。 ②健康課題の優先順位を決定するための視点を考える。</p> <p>第2回 地域診断（理論） 地域診断の理論として、「プリシード・プロシードモデル」「コミュニティー・アズ・パートモデル」について理解する。</p> <p>第3回 地域診断（情報収集の具体的方法） ①地域診断における地域の情報収集の具体的方法を理解する。 ②地域の情報についてアセスメントができる。</p> <p>第4回 地域看護活動の計画・実施・評価 ①計画策定は多くの人と一緒にやり、策定プロセスを大切にしていることについて考えることができる。 ②計画策定は評価計画についても備えるようにして、目標設定を明確にする必要があることを理解する。 ③計画に基づいた評価を行うことは、地域看護活動の発展に欠かせないことを理解する。</p> <p>第5～7回 地域診断（演習） 各市町の概況・健康指標・生活状況・社会資源・ネットワーク・生活環境について、情報収集とアセスメントを行い、関連図を作成し、地域の健康課題を抽出し提出する。（グループワーク）</p> <p>第8回 まとめ 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	標準保健師講座1 「公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表（医学書院） 標準保健師講座2 「地域看護技術」 中村裕美子 編（医学書院） 「国民衛生の動向2015/2016」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）
参考書	「衛生学」 近藤雄二 編（化学同人）
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート、毎回の豆テスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_sato@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名村上久恵 メールアドレス : m_hisae@meiji-u.ac.jp 研究室 : 10号館7階</p> <p>オフィスアワー : 金曜日午前</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	地域看護の対象（個人・家族・集団・地域）の健康生活力量を向上させる活動方法及び活動展開方法の基本的技術を理解する。 1) 地域看護活動の目標を達成するために必要な計画立案、実施、評価の一連の過程とその実際について学ぶ。 2) 地域の健康問題について、地域住民、既存組織、関係機関、他職種との連携や調整を図り、組織的に解決する方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1～2回 保健指導の基本と地域の健康問題の構造 ①保健師が行う保健指導の目的・対象・特徴を理解する。 ②個人の健康問題の所在を、生活や環境状況も含めて考える視点を身につける。</p> <p>第3～4回 保健指導の技術と展開 カウンセリング・ケースワーク・グループワーク・ICTを用いた保健指導の方法を理解する。</p> <p>第5～6回 健康相談（目的・対象・プロセス・技術・企画・実施・評価） ①地域保健活動のコア、またツールとして、健康相談の技術を学ぶ。 ②健康相談は相談者の健康問題解決、生活改善、不安緩和を目指す援助活動であることを理解する。 ③相談者と信頼関係を築き、相談者の主体性を尊重した援助関係が大切であることを理解する。</p> <p>第7～8回 家庭訪問（目的・対象・技術・プロセス・演習・記録）について（講義と演習）（村上） ①地域保健活動のコア、ツールとして、対象者の生活の場に出向く家庭訪問の支援技術を学ぶ。 ②家庭訪問等の公衆衛生看護活動が地域の中でどう位置づけられ、互いに関わり展開されているかを学ぶ。 ③家庭訪問等の支援技術における地域診断・計画策定・実践・モニタリング・評価のプロセスを学ぶ。 ④乳児の身体計測ができる。</p> <p>第9～10回 健康診査（目的・対象・技術・プロセス） ①健康診査は、その評価を次年度の地域保健活動に反映させる必要があることを理解する。 ②ライフサイクル別健康診査の種類・目的を理解する。 ③健康診査における事後フォローアップには集団指導と個別指導があり、生活習慣の改善や健康管理の動機づけとして活用することが重要である。受けっぱなし健診に終わらせてはいけないことを理解する。</p> <p>第11～12回 学校保健活動（養護教諭の業務内容・学校保健の健康課題・地域保健との連携） ①学校保健の概念（定義・目的・場と対象）をとらえる。 ②養護教諭の基本的な業務内容を理解する。 ③学校保健のおもな課題を考え、地域保健・産業保健との連携にもつなげる。</p> <p>第13～14回 事例検討（グループワーク） 各事例についてジェノグラムとエコマップで表現することができ、保健師としての支援の方法を検討し、発表することができる。</p> <p>第15回 まとめ 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	標準保健師講座2 「地域看護技術」中村裕美子 編（医学書院） 標準保健師講座3 「対象別公衆衛生看護活動」松田正巳 著者代表（医学書院） 「国民衛生の動向2015/2016」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）
参考書	「衛生学」近藤雄二 編（化学同人）
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート、毎回の豆テスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : h_hisae@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
田中 富美子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	ライフサイクルの発達段階別や健康障害別の地域看護活動を理解し、個人および家族やグループそして集団に対する支援の方法を考える。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、母子保健福祉活動について（1） 子育て支援および虐待予防を理解する。 復習：虐待関連の新聞記事を読む。</p> <p>2回目 母子保健福祉活動について（2） 乳幼児健診やその他の事業内容を理解する。</p> <p>3回目 母子保健福祉活動について（3） 施策と地域の支援体制づくりを理解する。 すくすくやぎっこの活動紹介</p> <p>4回目 成人・高齢者保健福祉活動について 成人・高齢者の特徴を理解し、こころの健康づくりを考えることができる。 「国民衛生の動向」を見て、健康状態と受療状況を確認する。</p> <p>5回目 成人保健福祉活動について 特定健診とその保健指導を理解する。 復習：「食事バランスガイド」にそって、自分の食事摂取を書き出す。</p> <p>6回目 高齢者保健福祉活動について 高齢者の保健福祉に関する施策や事業を理解する。</p> <p>7回目 高齢者保健福祉活動について 介護予防や包括ケアに関する施策や事業を理解する。</p> <p>8回目 障害者（児）保健福祉活動について 障害者（児）に対する施策や事業を理解する。</p> <p>9回目 精神保健福祉活動について 地域で生活する精神障害者への支援を理解する。</p> <p>10回目 難病保健福祉活動について 地域で生活する難病患者への支援を理解する。</p> <p>11回目 感染症保健福祉活動について（1） 感染症予防と保健福祉活動を理解する。</p> <p>12回目 感染症保健福祉活動について（2） HIV、エイズや結核対策等を理解する。</p> <p>13回目 グループ支援と組織化について 地域組織活動の展開のために理論を学び、実際を理解する。</p> <p>14回目 まとめ 在宅の認知症独居高齢者の事例から保健師活動を考える。</p> <p>15回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料は、必ず読んでおくこと。
教科書	「最新公衆衛生看護学 各論1」：宮崎美砂子 他、（日本看護協会出版会） 「標準保健師講座 地域看護技術」：中村裕美子 他、（医学書院） 「標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動」：中谷芳美 他、（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向」、（厚生労働統計協会）
成績評価	出席状況・授業への参加態度20%、筆記試験50%、レポート15%、小テスト15%により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中 富美子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : f_m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 13:00～16:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
田中 富美子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	健康教育の基本的な考え方を理解し、その実践方法について学び、住民の健康づくりについて考えることができる。 ・健康のレベルに応じた健康教育と方法を理解する。 ・保健行動の変容に関する理論を学ぶ。 ・健康教育の具体的な展開方法を学ぶ。
授業計画	1回目 ガイダンス、健康教育の理念について 健康教育の定義・理念、保健指導の考え方を理解する。 2回目 保健医療と健康教育 保健医療の5段階、健康日本21とヘルスプロモーションを理解する。 3回目 健康教育と保健行動について（1） 保健行動とその変容を理解する。 4回目 健康教育と保健行動について（2） 保健行動変容のための理論を活用できる。 5回目 健康教育の方法と媒体 健康教育の方法を選択し、媒体を作成する。 準備：ポスターを作成して、発表できるようにしておく。 6回目 健康教育の実際について 健康教育のための企画書・指導案・評価を理解する。 7回目 健康教育の実施と評価 グループで健康教育のデモンストレーションを行い、評価する。 8回目 試験
授業時間外の学習 (準備学習等)について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	「最新保健学講座別巻1健康教育論」：宮坂忠夫、川田智恵子他、（メヂカルフレンド社）
参考書	「効果をあげる健康教育、成果のあがる健康づくり」：日野原重明 他、（ライフ・サイエンス・センター）
成績評価	出席状況および授業態度30%（グループ学習の参加状況を含む）、レポート20%、筆記試験50%により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中 富美子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : fm_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後（13:00～16:00）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	事業所における保健師の役割機能と活動内容を理解し、対象者の価値観、意思を尊重し、ライフサイクルに合わせた看護を習得する。また、職場環境要因へのアプローチや集団へのアプローチについても学ぶ。		
授業計画	第1回	労働衛生の3管理 公衆衛生の視点から、健康管理・作業環境管理・作業管理をとらえる。	
	第2回	産業保健の動向 ①産業保健の理念と目的を理解する。 ②わが国の産業保健の歴史から、これからの産業看護職の役割を理解する。 ③産業構造と職業構造の変遷について理解し、今後の事業所における健康マネジメントを考える。	
	第3回	産業保健の制度とシステム 産業保健に関する法的根拠と関係機関・組織を理解し、労働安全衛生マネジメントシステムを考える。	
	第4回	産業保健の展開 産業保健活動の実際を学び、多様化する労働者への支援、多様化するおよび雇用形態に対応した健康管理について考える。	
	第5回	産業保健の場における健康課題・保健指導の実際（工場） 工場の産業保健の実際を通して、労働衛生の現状や産業保健における健康課題を理解し、主に身体的側面へのアプローチを考える。	
	第6回	産業保健の場における健康課題・保健指導の実際（銀行） 銀行の産業保健の実際を通して、労働衛生の現状や産業保健における健康課題を理解し、主に職場におけるメンタルヘルス対策を学ぶ。	
	第7回	快適な職場環境の形成の促進 快適職場づくりの法的根拠を理解し、今後の課題について考える。	
	第8回	まとめ 筆記試験	
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。		
教科書	標準保健師講座 1	「公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表（医学書院）	
	標準保健師講座 2	「地域看護技術」 中村裕美子 編（医学書院）	
	標準保健師講座 3	「対象別公衆衛生看護活動」 松田正巳 著者代表（医学書院）	
参考書	「国民衛生の動向2014/2015」（財団法人 厚生統計協会編集・発行） 「衛生学」 近藤雄二 編（化学同人）		
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート、毎回の豆テスト、筆記試験等により総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：佐藤 裕見子	
	研究室	：10号館8階	
	メールアドレス	：y_sato@meiji-u.ac.jp	
	オフィスアワー	：金曜日午前	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
坂井 茂子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	地域住民の生活に関わる保健・医療・福祉行政・制度の変遷を学ぶことにより、現代社会の課題と今後の展望について理解する。 保健・医療・福祉のケアシステムの計画・実施・評価に関する概要及び生活の場で活かされる行政活動の実際を理解する。 母子保健・老人保健・精神保健などの保健行政の変遷と今後の動向を考え、地域住民の生活に関わる総合ケア活動について理解できる。		
授業計画	1回	保健医療福祉行政がめざすもの 保健医療福祉行政を学ぶ上で根拠や公衆衛生の定義を理解する。	
	2回	保健医療福祉行政の理念としくみⅠ 国・都道府県・市区町村の行政のしくみと概要を学び保健医療福祉行政の体系と役割を理解する。	
	3回	保健医療福祉行政の理念としくみⅡ 各保健行政のそれぞれの施策と中心となる法規・根拠・財政や予算の機能と原則等の概要を理解する。	
	4回	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷Ⅰ 近代公衆衛生施策の歴史と変遷・基盤形成過程や新たな課題と政策の発展を学び政策の流れをつかむ。	
	5回	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷Ⅱ 政策の充実と転換を法規・行政主導の政策ヘルスプロモーションに基づく住民主体の健康づくり施策を理解する。	
	6回	保健医療福祉行政に関する制度～社会保障制度～ 社会保障制度と公衆衛生行政の制度・体系・現状について学び理解する。	
	7回	保健医療福祉行政に関する制度～医療供給体制～ 医療供給体制・制度・医療機能・適正化対策・医療安全等について学び理解する。	
	8回	保健医療福祉行政に関する制度～介護保険制度～ 介護保険制度は高齢者の自立支援を目指す、ケアマネジメント、制度のシステムを学び理解する。	
	9回	保健医療福祉行政に関する制度～社会福祉制度～ 社会福祉の理念・体系・法規・年金・保険・公的扶助等各施策を学び理解する。	
	10回	保健医療福祉行政に関する制度～地域保健制度～ 保健所の機能強化及び都道府県保健所と政令市保健所、市町村保健センター業務と、保健所や関係機関との連携による活動、健康危機管理について学ぶ。	
	11回	地方公共団体の保健医療福祉計画 地方自治法に基づく総合計画を柱とした、さまざまな分野の計画策定について学ぶ。	
	12回	保健計画策定のプロセス 保健計画策定の必要性やプロセスを理解し住民参画の意味、計画策定におけるエンパワメントを学ぶ。	
	13回	各種計画に基づいた保健活動（事業）の評価 保健計画推進のポイント、管理評価の方法を理解する。	
	14回	保健医療福祉行政における保健師の役割と活動 地域保健活動における保健師の役割と活動を理解する。	
	15回	まとめ 筆記試験	
授業時間外の学習（準備学習等）について	（1）保健医療福祉行政論は、保健師活動の基本となる学問のため、授業には関心を持ち積極的に参加する （2）社会で起きている健康・医療・福祉問題に関心を持ち、情報収集する		
教科書	保健医療福祉行政論 医学書院		
参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）		
成績評価	出席状況、参加態度、レポート、筆記試験等により総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名：坂井 茂子 研究室：10号館 7F メールアドレス：s_sakai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日午後 担当教員名：村上 久恵 研究室：10号館 7F メールアドレス：h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日午後		

備考	

講義科目名称：研究的方法論

授業コード：2K327

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
デッカー 清美、森久美子、岡本留美、神原佑美、木下			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	卒業研究に向けて、看護研究とは何かおよび看護研究の基礎について学ぶ		
授業計画	1	看護研究とは 看護研究とは何か、看護研究の意義について考える。 リサーチクエッションを立てる	
	2	看護研究における文献検討 情報の検索の方法 文献レビューとその目的 文献の読み方（1文献を選択しクリティークな視点で文献を読み、文献の概要を説明する）	
	3	研究における倫理的配慮 文献の概要の発表・提出 研究における倫理的配慮の原則	
	4	研究デザイン 質的研究デザインと量的研究デザイン	
	5	研究計画書の作成（1） データの収集の方法 データ分析の方法	
	6	研究計画書の作成（2） 研究計画書の書式と書き方	
	7	研究計画書の作成（3） 興味のあるテーマで研究計画書を作成する	
	8	文献の概要レポート20%、研究計画書80%	
授業時間外の学習 （準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味ある分野・テーマについての資料を随時集めておくこと。 ・2年次前期必修科目「医療情報学」の復習をしておくこと。 ・指定された教科書を事前に読んでおくこと。 		
教科書	系統看護学講座 別巻看護研究 坂下玲子他 医学書院		
参考書	黒田裕子の看護研究 step by step 黒田裕子著 学研 質的研究の挑戦 舟島なをみ著 医学書院 パソコンで進めるやさしい看護研究 富田真佐子著 Ohmsha		
成績評価	研究計画書80%、文献の概要のレポート20%		
担当教員の基本情報	オフィスアワー：原則として月曜日 17:00～18:00（その他随時メールで連絡すること） メールアドレス：k_decker@meiji-u.ac.jp		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
デッカー 清美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	家族を形成する家族形態は時代とともに変化していることを理解し、家族の発達・疾患や障害の状況に応じた援助および家族看護に関する諸理論を学び、事例を通して看護過程を展開できる能力を養う。		
授業計画	1	家族とは 家族とは何か、家族看護の目的について考える	
	2	発達する家族、家族の生活と健康 発達する家族、家族の生活と健康について理解する。2重ABC-Xモデル、円環モデル	
	3	家族の機能と機能不全 家族の機能とは、機能不全とは何かについて理解する。	
	4	家族を理解するための諸理論 家族システム理論、危機理論	レポート提出（20%）
	5	家族を取り巻く社会的・文化的背景 現代日本の家族	森先生
	6	家族看護課程の展開 家族に関する情報収集とアセスメント	
	7	家族看護の実際 事例を通して家族看護過程を理解する。	
	8	まとめ	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前に教科書を読んで授業に臨むこと。		
教科書	家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える 改訂第2班 山崎あけみ、原礼子 編集（南江堂）		
参考書	「家族看護学」山崎あけみ、原礼子 編（南江堂）、「グループワークで学ぶ 家族看護論 カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ」小林奈美 著（医歯薬出版）		
成績評価	試験80%・レポート20%		
担当教員の基本情報	担当教員名 : デッカー清美 メールアドレス : k_decker@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として月曜日17:00~18:00 *事前に駆らなず連絡の上入室すること。 (但し実習指導等による変更あり)		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
小板橋 喜久代			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	補完代替療法から統合医療についての医療体系の変化のなかで、看護学の果たす役割と、新たに必要とされる専門的な知識・技術・態度について考察する。より統合的なケアの在り方を検討する中から、社会のニーズの変化と新たな看護技法の開発の可能性について探索する。
授業計画	<p>1 補完代替療法から統合医療への流れ（現代医学から伝統医療を見直す） 主流医学・補完代替療法・統合医療についての概念を調べる</p> <p>2 看護と補完代替療法について 看護の役割と補完代替療法との関連についての自分の意見を書き出す</p> <p>3 セルフケアを支援する（リラクゼーション法・気功法） 健康を自分でコントロールするということ、その自己責任について、考えをまとめる</p> <p>4 手の技を活用する（タッチ・マッサージ） タッチなどの皮膚への接触刺激が人間に与える影響について考えをまとめる</p> <p>5 植物療法を取り入れる（アロマセラピー） 精油とは、精油を用いることによる癒しの効果について考えをまとめる</p> <p>6 豊かな関係性を広げる（音楽・アニマル・園芸・ナラティブケアetc） 人と人をつなぐ場、健康的で豊かな環境を創り出すために、なにができるか</p> <p>7 臨床におけるコンプリメンタリーセラピー 看護の臨床で使われている主な技術には、どのようなものがあるか、どのように適用されているか、調べてまとめる</p> <p>8 看護介入としての可能性を探求する 自分の望む将来のコンプリメンタリーセラピー</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各自がマスコミなどで目に付いたもののなかから、社会の人々が補完代替療法について期待していること、どのような療法が利用されているか、どんなところに問題があるか、考えをレポートしておく。
教科書	「ケアの中の癒し」看護の科学社
参考書	看護のための最新医学講座（第33巻）alternative medicine 中山書店 自分を守る患者学 渥美和彦 PHP出版 補完代替医療入門 上野圭一 岩波アクティブライブラリー
成績評価	事前学習への取り組み度 出席と発言・討論への参加度 最終の課題レポート（授業終了時に指示する）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小板橋喜久代 研究室 : メールアドレス : koitabashi@tachibana-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

講義科目名称：看護教育学

授業コード：2K330

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
宇城 靖子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義、演習	

授業目標	1) 看護教育について学び、看護者の教育的役割について理解する。 2) 臨床事例等を用いて、看護教育方法論を体験して学ぶ。 3) 看護師としての学習、キャリア開発について考える。
授業計画	1 教育とは、看護者の教育的役割 人間形成における教育の意義が認識できる。 生涯学習・教育と看護者の教育的役割について考えることができる。 2 看護教育とは、看護教育学の概要 看護教育の歴史、看護教育制度が理解できる。 看護専門職としての看護基礎教育・看護継教育の概要とキャリア形成の概要が理解できる。 3 看護学教育方法論 人の発達を理解する。 学習理論を理解する。 指導者の役割と姿勢、指導設計の方法を学ぶ。 4 看護教育評価論 教育評価の意義と特質について理解できる。 5 演習：看護教育のテーマ別学習① ディスカッション技法を理解する。 看護教育に関する自分の興味・関心、学びたいテーマ（シナリオ）について主体的なグループ学習ができる。 6 演習：看護教育のテーマ別学習② グループワーク・PBL 7 演習：看護教育のテーマ別学習③ グループワーク・PBL 8 まとめ。看護教育のテーマ別学習④ グループワーク・PBL 発表会
授業時間外の学習 （準備学習等）について	1) 事前に教科書を熟読しておくこと。 2) 事前課題はその都度指示します。 3) 看護専門職者をめざす自分にとって、看護教育学を選択して良かったと思えるように学習すること。
教科書	「看護のための教育学」中井俊樹、小林忠資 編著（医学書院）
参考書	「看護教育学」第5版、杉森みど里、舟島なおみ著（医学書院）
成績評価	出席、提出物、参加姿勢、課題レポート、プレゼンテーション等、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 宇城 靖子 研究室 : 10号館（看護学部棟）7階706 メールアドレス : s_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
上仲 久			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	健康寿命・元気老人づくりに焦点を当て、高齢者にとっての健康生活とは何か、高齢者の健康を支えるための支援の原則や方法について学習する。		
授業計画	第1回	健康な高齢者とは	
		[到達目標] 高齢者自身が健康ととらえていることは何かを述べることも出来る。 [授業時間外学習の指示等] 新聞や雑誌などでの実態に注目して調べておく。 ②～⑧各回担当者を決めてゼミ形式で展開する。課題についてのアナウンスがあるため必ず出席してください。	
	第2回	① 身体的変化と老いの心理	
		[到達目標] 身体的変化に対する高齢者の思いや生き方から精神活動を高める要因を考える [授業時間外学習の指示等] 身体的変化について事前に復習しておくこと。グループ発表に対して、その内容を積極的に深めるよう行動しましょう。	
	第3回	② 身体的変化と加齢現象との協調	
		[到達目標] 高齢者の健康を支える、食事、運動、環境など生活習慣の改善で健康を維持する具体的方法について考え、健康的な生活習慣を考える [授業時間外学習の指示等] 健康的な生活習慣についてのグループ発表に対して、積極的に意見を出してその内容を深めるようにすること。	
	第4回	③ 身体的変化と老いの受け入れ	
		[到達目標] 身体的特徴が捉えられる [授業時間外学習の指示等] グループの発表に対して、積極的に意見を出してその内容を深めるようにすること。	
	第5回	④ 高齢者の自殺	
		[到達目標] 高齢者の自殺の実態と環境要因やそこに至る心理過程を考察することができる [授業時間外学習の指示等] 高齢者の自殺について、文献やインターネットを使って事前に情報を得てくこと。	
	第6回	⑤ 高齢者のターミナルケア	
		[到達目標] 病死、老衰死にまつわる高齢者の終末期の思いと家族・重要他者の思いを理解し、その支援について考察することができる。 [授業時間外学習の指示等] ターミナルケアについて文献を差がして読んでおきましょう。積極的に意見を出して自分自身の意見を述べましょう。	
	第7回	⑥ 高齢者の性と生	
		[到達目標] 高齢者の立場、子供の立場、孫の立場、友人の立場から性と生を考察することができる。 [授業時間外学習の指示等] Geniiの検索サイトでテーマに関する論文を探してみましょう。積極的に意見を出して議論に参加すること。	
	第8回	⑦ 安心して老いるために	
		[到達目標] 様々な国の例や高齢者自身の考えを通して高齢者のケアシステムを説明することができる。 [授業時間外学習の指示等] グループの発表に対して、積極的に意見を出してその内容を深めるようにすること。	
授業時間外の学習(準備学習等)について	第一回目の講義には、高齢者の健康の問題に関する新聞や雑誌の切り抜きなどを持って授業に参加すること。 ゼミ形式で展開するため、この単元での学びについて、自分なりの目標を立て各講義に参加すること。 その日のうちに復習し、新しいキーワードや十分理解できなかった言葉の意味を調べ理解して、次の授業に備えること。 グループの発表に向けて、学生間で協力し教員の指導を受けて発表できるようにすること。(他人任せの行動		

	は厳禁)
教科書	指定しない
参考書	講義時紹介する
成績評価	授業への参加度(50%)、課題レポートの提出(50%)にて判断する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p> <p>担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	医療面接では、実際の診療における問診や看護場面における適切な効果的な面接技法を習得する。医療に携わるものとして、医療人としての倫理問題を念頭に入れながら、現代医学を理解する。
授業計画	<p>1回目 コミュニケーションとは [到達目標] ワークショップを通じて ・アイスブレイキング。 ・良いコミュニケーションがもたらす効果が説明できる。</p> <p>2回目 医療面接について [到達目標] ワークショップを通じて ・医療面接とは何かが理解できる。 ・医療面接の目的が理解できる。</p> <p>3回目 医療面接の基本 [到達目標] ワークショップを通じて ・カルテの記載方法と初診患者に必要な情報が理解でき説明できる。 (主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症)</p> <p>4回目 面接技法 [到達目標] ・ロールプレイを通じて面接技法が習得できる。 (質問法、傾聴、共感、態度) ・看護師に必要な臨床能力が理解・説明できる。</p> <p>5回目 医療面接に求められる態度・姿勢 [到達目標] ワークショップを通じて ・医療面接を行う時の態度、姿勢、位置を理解する。 ・問診と医療面接の違いを理解する。</p> <p>6回目 医療面接の実践 [到達目標] ロールプレイを通じて医療面接ができる。 (模擬症例：風邪(咳、微熱)、腰痛(慢性)、頭痛(片頭痛))</p> <p>7回目 まとめ [到達目標] ・各自が学んだことを記述し理解を深める。 ・試験に関する説明。</p> <p>8回目 試験</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義内容の理解を深める為、自己学習による課題を適宜課す。
教科書	特に指定しない。授業の時に配布する資料。
参考書	特に指定しない。
成績評価	筆記試験50%・提出課題・出席・受講態度50%とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館7階702研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名： 研究室： メールアドレス： オフィスアワー：</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>補完・代替医療の一つであり、医療分野で広く取り入れられてきているメディカル・アロマセラピーの基礎を理解する。アロマセラピーの概念、歴史、現状と課題、エッセンシャルオイルの性質、禁忌、作用機序などについて学習し、実践に必要とされるメディカル・アロマセラピーの基礎を身に着ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディカル・アロマセラピーの概念を理解すること ・メディカル・アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの基本、注意事項、薬理作用などを理解すること ・メディカル・アロマセラピーの実践方法について学習すること ・メディカル・アロマセラピーの役割について考えること。 		
授業計画	1回目	<p>メディカル・アロマセラピー概論 [到達目標] アロマセラピーの定義、歴史、芳香植物の分類と性状を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.1-8を事前に読んでおくこと</p>	
	2回目	<p>エッセンシャルオイル1 [到達目標] アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの抽出法、薬理成分を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.9-13を事前に読んでおくこと</p>	
	3回目	<p>エッセンシャルオイル2 [到達目標] アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの薬理成分を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.13-21を事前に読んでおくこと</p>	
	4回目	<p>エッセンシャルオイル3 [到達目標] エッセンシャルオイルの分析、品質管理、相互作用、注意事項を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.22-27 アロマセラピー入門（参考書1）p.52-57を事前に読んでおくこと</p>	
	5回目	<p>エッセンシャルオイル4 [到達目標] エッセンシャルオイル使用上の禁忌、保管、取り扱い方を理解する。各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.28-31 アロマセラピー入門（参考書1）p.52-57を事前に読んでおくこと</p>	
	6回目	<p>エッセンシャルオイル5 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.32-35を事前に読んでおくこと</p>	
	7回目	<p>エッセンシャルオイル6 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.36-39を事前に読んでおくこと</p>	
	8回目	<p>エッセンシャルオイル7 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.40-43を事前に読んでおくこと</p>	
	9回目	<p>エッセンシャルオイル7 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.44-47を事前に読んでおくこと</p>	
	10回目	<p>キャリアオイル1</p>	

	<p>[到達目標] キャリアオイルの性質、種類を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p. 48-50を事前に読んでおくこと キャリアオイル2</p> <p>[到達目標] キャリアオイルの性質、種類を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p. 51-54を事前に読んでおくこと エッセンシャルオイルの薬理作用</p> <p>[到達目標] エッセンシャルオイルの薬理作用機序を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p. 55-58 アロマセラピー入門（参考書1）p. 57-59を事前に読んでおくこと アロマセラピーの方法1</p> <p>[到達目標] アロマセラピーの実践方法を学習し、実際に行える知識を身に着ける。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p. 59-65を事前に読んでおくこと アロマセラピーの方法2</p> <p>[到達目標] アロマセラピーの実践方法を学習し、実際に行える知識を身に着ける。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p. 66-72 アロマセラピー入門（参考書1）p. 28-33を事前に読んでおくこと まとめ</p> <p>[到達目標] 基本的なアロマセラピーの知識が習得できたことを確認する</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	あらかじめシラバスに沿って、教科書を読んでおくこと。
教科書	「統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版」 今西二郎、岸田聡子 著
参考書	1. 「アロマセラピー入門第2版」今西二郎、荒川唱子編（日本看護協会出版会）
成績評価	レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>メディカル・アロマセラピーの看護学への応用として、さまざまな疾患の治療・予防や、看護場面における実践例について知ること。 また、簡単な実技を通してオイルの扱いや香りに慣れ親しむことにより、本格的なマッサージ実技を行う前段階の技術を身に着けること。 メディカル・アロマセラピーについての研究法を理解し、代表的なメディカル・アロマセラピーに関する研究事例を取り上げ、評価する能力を身につける。</p>
授業計画	<p>1回目 メディカル・アロマセラピー実践にあたっての注意事項 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関連する法規や注意事項を理解する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 71-73 アロマセラピー入門（参考書1） p. 28-33を事前に読んでおくこと</p> <p>2回目 メディカル・アロマセラピーの実際1 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、芳香浴、吸入の実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 1、2、6 アロマセラピー入門（参考書1） p. 77-79を事前に読んでおくこと</p> <p>3回目 メディカル・アロマセラピー各論1 [到達目標] 産婦人科、精神科、消化器、皮膚科領域などで用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 10-32, 43-59を事前に読んでおくこと</p> <p>4回目 メディカル・アロマセラピーの実際2 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、湿布、沐浴の実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 3、4 アロマセラピー入門（参考書1） p. 80-82を事前に読んでおくこと</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー各論2 [到達目標] 痛みに対して用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 33-42を事前に読んでおくこと</p> <p>6回目 メディカル・アロマセラピーの実際3 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、ローションや軟膏作成などの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 7、8を事前に読んでおくこと</p> <p>7回目 メディカル・アロマセラピー各論3 [到達目標] 高齢者やがん患者に対して用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 60-66を事前に読んでおくこと</p> <p>8回目 メディカル・アロマセラピーの実際4 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、ローションや軟膏作成などの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 7、8を事前に読んでおくこと</p> <p>9回目 メディカル・アロマセラピーの実際5 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、セルフマッサージの実技を通して実際の正しい使用法を</p>

	<p>身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピーの実際 6 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、セルフマッサージの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピーの実際 [到達目標] 症例を提示し、それに対するオイルの選択と使用方法について考案、検討する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー研究方法 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関する研究の方法論、評価法、研究デザインについて理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー研究事例の評価 1 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関する研究報告（論文）を読み、適切な評価法を身につける。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー研究事例の評価 2 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関する研究報告（論文）を読み、適切な評価法を身につける。</p> <p>[備考] まとめ [到達目標] アロマセラピーの実際について、知識の習得の確認</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	あらかじめシラバスに沿って、教科書を読んでおくこと。
教科書	「統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版」 今西二郎、岸田聡子 著
参考書	1. 「アロマセラピー入門第2版」今西二郎、荒川唱子編（日本看護協会出版会）
成績評価	レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

講義科目名称：助産管理

授業コード：2K401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
デッカー 清美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	助産業務管理について学ぶ。 助産師の開業権と連動して、助産所における業務管理の実際についても学ぶ。 その他、幅広く助産師業務の実際について学ぶ。		
授業計画	1	助産管理の基本 管理の基本的概念とプロセス 助産管理の概念	
	2	関係法規 助産に係る関係法規について学ぶ 前回学習した内容のレポート提出	岡本先生
	3	助産師の業務・責任 助産師の業務と責任について討論する 前回学習した内容のレポート提出	
	4	周産期管理システム NICU、母性搬送システム、オープンシステム 前回学習した内容のレポート提出	
	5	リスクマネジメント 助産業務におけるリスクマネジメント 前回学習した内容のレポート提出	森先生
	6	助産師業務の実際1 病産院における助産業務管理 前回学習した内容のレポート提出	
	7	助産師業務の実際2 助産所における助産業務管理 前回学習した内容のレポート提出	神原先生
	8	まとめ (授業で学習した内容のレポート提出) 助産業務管理およびリスクマネジメントについて考える	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	助産業務管理について事前に教科書を読んでおくこと		
教科書	「助産学講座全10巻」助産管理 我部山キヨ子・竹谷雄二編 (医学書院)		
参考書	看護者の基本的責務 手島恵監修 日本看護協会出版会 看護法令要覧 最新版 日本看護協会出版会		
成績評価	授業後、毎回学習した内容をレポートにまとめ提出 100%		
担当教員の基本情報	メールアドレス : k_decker@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として月曜日17:00~18:00		
備考			

講義科目名称：助産学実習Ⅱ

授業コード：2K402

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
森久美子			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	授業形態：実習	

授業目標	実習Ⅰで学んだ知識・技術・態度を統合し、関連職種の医療チームの一員として実践力を高め、専門職としての役割を理解する。
授業計画	援助の優先順位を考えながら、チームリーダーおよびチームメンバーの役割を理解し他の関連職種と連携しながら実践ができる。チームメンバーの一員としてマネジメントや役割を理解する。専門職として、自己の課題とその対策について考え、主体的に学習することができる。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	助産学実習Ⅰでの課題を明確にし、十分な準備をしておく。さらに助産師の基本的責務、医療安全や管理について学習を深めておく。
教科書	授業で使用した教科書、および配布資料。
参考書	実習経過に応じて、適宜提示する。
成績評価	実習内容、実習記録・レポート、ならびに実習態度・出席状況などを総合的に評価する。実習終了後に実習評価表に基づき面接を行う。
担当教員の基本情報	メールアドレス : k_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として火曜日 17:00~18:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>産業保健における保健活動の実際を見学し、従業員の健康を守り、向上させるための産業保健における保健師の役割を学ぶ。また、地域包括支援センターでは、地域で生活する高齢者に対してどのような支援を展開しているのかを学ぶ。【実習目標：産業保健実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健活動を支える安全衛生管理体制の実際を理解できる。 2. 就労者の健康課題を労働と職場環境などの特性と関連づけて理解できる。 3. 就労者の健康を増進し、働きやすくする快適職場づくりについて理解できる。 4. 産業保健師の専門的役割・他職種との連携について理解する。 <p>【実習目標：介護支援活動実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援センターにおける業務概要を理解する。 2. 他職種との連携協働について理解する。 3. 保健福祉分野における看護職の活動を理解する。
授業計画	実習要領に記載
授業時間外の学習 (準備学習等)について	別途指示する
教科書	特に指示しない
参考書	授業で使用した教科書、参考書及びプリント
成績評価	実習要項に記載
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 佐藤 裕見子 研究室 : 10号館 8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 田中富美代 研究室 : 10号館 7階、 メールアドレス : tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 坂井茂子 研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : s_sakai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日午後</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>【実習目的】 個人・家族・地域全体の潜在的・顕在的な健康課題や問題を把握し、その原因・背景を明らかにしながら地域での保健活動との関係を明らかにする。そして、保健活動を展開する一連の過程を学ぶ。また、保健所と市町の役割や機能そしてその組織体系の違いがわかる。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断に必要な情報を収集し健康と地域の関わりについて理解する。 2. 地域保健医療福祉系における保健所および市町村の役割・機能およびその組織体系を理解する。 3. 健康危機管理に対して、組織的な管理体制やシステムの構築の必要性について理解する。
授業計画	実習要領に記載
授業時間外の学習 (準備学習等)について	別途指示する グループワークが中心なので、メンバーの意見や考えを尊重した上で建設的に話し合い、学びの促進に貢献すること
教科書	特に指示しない
参考書	授業で使用した教科書、参考書及びプリント
成績評価	実習要領に記載
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 佐藤 裕見子 研究室 : 10号館 8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 田中富美子 メールアドレス : fm-tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 坂井茂子 研究室 : 10号館 7階 担当教員名 : 坂井茂子 研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : s_sakai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日午後</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日午後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>保健所や市町村で行われる公衆衛生看護活動の体験を通じて、地域で生活している人々（個人・家族・集団）の健康の保持増進やQOLの向上のための公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。保健活動の基礎的な実践能力を身につけ、行政機関で働く保健師の役割について学ぶ。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断を行い地域の健康課題を明らかにすることができる。 2. 健康課題を解決するために、効果的な保健事業を企画・立案、実施、評価する過程を学ぶ。（PDCAサイクル） 3. 地域診断を通して把握して把握した健康課題を基にした施策化に必要な根拠とプロセスを説明できる。 4. 公衆衛生看護における家庭訪問の目的ならびに方法を学ぶ。 5. 公衆衛生看護における健康教育を実践できる。 6. 公衆衛生看護における健康相談（こどもクリニック・HIV検診・発達相談など）の目的ならびに方法を学ぶ。 7. 公衆衛生看護におけるセルフヘルプグループの育成の目的ならびに方法を理解する。 8. グループでなければ解決できないグループダイナミクスを理解し、地区組織活動への理解を深める。 9. 社会資源の開発や地域ケアシステムをつくる（システム化）ための方法
授業計画	実習要領に記載
授業時間外の学習（準備学習等）について	別途指示する グループワークが中心なので、メンバーの意見や考えを尊重した上で建設的に話し合い、学びの促進に貢献すること。
教科書	特に指示しない
参考書	授業で使用した教科書、参考書及びプリント
成績評価	実習要領に記載
担当教員の基本情報	<p>研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 三浦康代 研究室 : 10号館7階、 メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 小石真子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_koishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	対象に質の高い看護を提供するために看護管理の重要性を理解し、チームメンバー及び多職種との協働の中で看護をマネジメントできる基礎的知識を修得する。		
授業計画	第1回	何のために看護管理を学ぶのかを理解する [到達目標] 1) 社会の中での看護師の役割を理解する 2) 看護管理学の概要について理解する 3) 組織とは何かを理解する	
	第2回	看護業務とは何かを理解する 1) 日常業務として実践されている記録を理解する 2) 情報管理 3) 問題解決の思考過程を理解する 5) 看護師の法的責任	
	第3回	安心・安全の医療の提供 1) 患者の権利と看護の質の保障、倫理について知る 2) インフォームドコンセント 3) 安全教育と訓練 KYT危険予知訓練 4) 患者参加	
	第4回	医療事故防止対策と医療事故への対応 1) 医療事故と看護師の責任 2) 医療機器管理と機器の選択・導入 3) 医療事故を起こした時の初期対応を知る 4) インシデント報告の仕組みと対応	
	第5回	看護提供方式の特徴 1) 看護サービスの特性と患者満足 2) ナーシングシステムの特徴について知る	
	第6回	労働環境マネジメントについて理解する 1) 人材育成・労働環境・物品管理・リスク管理 2) 感染管理	
	第7回	看護管理スキルと看護をとりまく諸制度と経営 1) 組織に対するマネジメントと個人に対するマネジメント理論を学ぶ 2) 看護職の教育制度と生涯学習 3) 医療保険制度 入院基本料	
	第8回	まとめと評価 筆記試験 70点 レポート課題：30点	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や親戚で通院や入院している方がおれば、その病院と一緒に行ってどのような職業の人がどのような動きをしているか観察してみる。 ・自分が病院を受診した時に感じた事を書きだしてみる。 ・実習中に感じた疑問について書きだしてみる。 ・有名病院のホームページをいくつか開いて見てみよう。 ・授業前に教科書はしっかり読んでおく。 ・医療事故に関する報道等を調べておく 		
教科書	系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院		
参考書	ナーシング・グラフィカ 看護管理 看護の統合と実践① MCメディカ		
成績評価	試験70点 レポート30点		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日15:00~16:00 担当教員: 栗山真由美 研究室: 10号館7階 メールアドレス: m_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 金曜日14:00~16:00		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
山下八重子、佐藤裕見子、戸田一男、宇城靖子、ゲスト1			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	災害及び災害看護に関する基礎的知識を学ぶ。 看護の専門知識を統合して実践につなげる方法を学ぶ。 大規模災害時における看護師の役割を考えることができる。
授業計画	<p>第1回 災害看護の歴史と定義・災害の種類を理解する(山下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の歴史 ・災害看護の定義 ・災害時要支援者 <p>第2回 災害サイクルと災害時に必要な技術を知る(ゲスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害サイクルにおける看護活動 ・トリアージ・搬送 ・災害医療の考え方 <p>第3回 病院における災害看護のあり方を考える(ゲスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類と被災の特徴 ・災害への備え ・初動体制 ・訓練 <p>第4回 災害現場の実際と医療チームの活動 (戸田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救助活動の実際 ・避難所での感染拡大防止 ・避難所での健康問題とこころのケア <p>第5回 実際の災害時の看護の役割と活動を知る(佐藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師の役割と活動 ・看護職と多職種連携 <p>第6回 災害時の対象別看護を理解する (山下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦 ・小児 ・高齢者 ・慢性疾患患者 ・障害のある人 ・外国人 ・精神障害者 <p>第7回 災害と放射能の人体への影響 (宇城)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射能についての理解 ・看護師ができる放射能被害を防ぐ教育 <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ と 試験 レポート課題 30点 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で発生した健康問題 ・災害がもたらす心への影響とケア ・筆記試験70点
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の復興に関する番組等を見ておく ・看護学テキスト「災害看護 改定第2版」南江堂を読んでおく
教科書	看護学テキスト 「災害看護 改定第2版」 南江堂
参考書	適宜紹介
成績評価	レポート30点 筆記試験 70点
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日14:00~16:00 佐藤裕見子 : y_sato@meiji-u.ac.jp 戸田一男 : k_toda@meiji-u.ac.jp 宇城靖子 : s_usiro@meiji-u.ac.jp</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
渡邊勝之、佐藤裕見子、仲口路子、小板橋喜久代			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>【1～8回】看護場面に適応できる看護介入技法として、ツボ療法、お灸療法などの補完代替療法の実践を学習し、実際に体験する。</p> <p>【9～14回】看護の臨床場面を想定しながら活用の方法を考えてみる。 主な内容は、リラクゼーション法・簡単な医療気功・ヒーリングケア・音楽療法・その他を取り上げる。演習を通して学生相互にモデル学習して心地よさと安全性、指導上のポイントについて検討する。</p>
授業計画	<p>渡邊担当1 コンプリメンタリーとは何かの概要を説明できる コンプリメンタリーセラピー方法についての概要とシラバスの説明および演習の全体像を理解する。</p> <p>渡邊担当2 主として看護に応用するCAMについての概要を説明できる。 補完代替医療と統合医療：看護師ができる介入方法について理解する。</p> <p>渡邊担当3 代表的なツボを取穴し、刺激方法の概要を説明できる。 鍼灸医学の経絡・経穴を応用したツボ療法(1)：代表的なツボを理解し取穴できる。</p> <p>渡邊担当4 代表的なツボを取穴し、刺激方法の概要を実施できる。 鍼灸医学の経絡・経穴を応用したツボ療法(2)：ツボに適した刺激を指で行うことができる。</p> <p>渡邊担当5 舌診、腹診、脈診などの診察法を関連づけて概要を説明できる 東洋医学の基本的な診察法を理解する：看護師ができる全身状態の把握方法を関連づけて理解する。</p> <p>渡邊担当6 各々の所見を総合して、全身状態の概要を説明できる 東洋医学の基本的な診察法を実践する1：看護ケアに応用できるように理解する。</p> <p>渡邊担当7 各々の所見を総合して、全身状態の概要を説明できる 東洋医学の基本的な診察法を実践する2：看護ケアに応用できるように体得する。</p> <p>渡邊担当8 看護師として医療現場で活用できる具体的な方法を説明できる 診察法を踏まえ、東洋医学的観点から、看護師として医療現場で活用できる具体的な方法を理解する。</p> <p>佐藤担当1 統合医療についての臨床ナースの関心とケアの可能性について検討し、説明できる。 臨床で、実際にどのようなケアが適用できるのか、資料を検索して考察し、その可能性を探る 事前学習課題① 臨床ではどのようなニーズがあり、活用されているか、文献検索しレポートする</p> <p>佐藤担当2 いのちに向き合う看護者の姿勢とケアについて検討し、説明できる。 いのちに向き合うという看護師の姿勢について検討し、「タッチ」「ナラティブケア」のロールプレイを行う</p> <p>小板橋担当1 看護師の資質を高めることの必要性とセルフマネジメントについて検討し、説明できる 自分を養う・看護師の資質を高めるためのセルフケアの大切さとリラクゼーション法の活用について文献検討し、説明できる。事前学習課題②リラクゼーション法について文献検索しレポートする</p> <p>小板橋担当2 セルフケアとして、リラクゼーション法を体験し、その活用について、説明できる。 看護の場面でストレスへの対処力を高めるために「呼吸法」「筋弛法」を体験し、その生理的反応を確認するとともに、体験を内省し考察できる。</p> <p>小板橋担当3 看護場面に導入が期待されるコンプリメンタリー方法とその効果について文献検討し、説明できる。 どのような技法が期待され活用されているのか、適用されている領域と成果について文献検討する。 どのような技法が期待され活用されているのか、適用されている領域と成果について文献検討する。事前学習課題③ 自分の関心の高い技法の一つ取り上げて、ケアの活用に関する文献を検索しレポートする。(例として、芳香療法・音楽療法・動物療法・園芸(植物)療法・運動療法(気功法、その他)・ヒーリングセラピーなど、各自の関心領域について取り上げる)</p> <p>小板橋担当4 これからの統合医療における看護師の役割と課題を検討し、説明できる。 看護場面に活用する指圧マッサージ、ヒーリングタッチの実践について検討する 統合医療サービスのモデルを考えると同時に、臨床においてどのような役割を果たすべきか、そのときの課題・方略を検討し、まとめる まとめ 実習を通して、課題レポートを作成する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>【1～8回】 1～8回目の課題をレポートする。A4判で5枚程度。テーマは、8回終了時に提示します。教科書および配布プリントを事前に一読して講義を受講して下さい。また、実技を行いますので、実習ができる服装で受講して下さい。</p> <p>【9～14回】 ①9～14回目の事前学習課題①②③をレポートし参加する。A4判1枚ですが枚数制限なし。</p>

	②最終回（14回目）の提出レポートは、「臨床でコンプリメンタリーセラピーが有効に使われるための課題について」A4判のレポートを提出する（枚数制限なし）。レポートの視点は、看護師の役割・質の保証・患者指導・安全性・人権と倫理と自己防衛・評価、その他です。いずれの課題も、マスコミ・雑誌・学術誌などの情報を活用してみましょう。
教科書	医学・医療原論 いのち学&セルフケア 渡邊勝之 編集 錦房株式会社 「ケアの中の癒し」ルース・リンクイスト編著 尾崎・伊藤監訳 看護の科学社 「リラクゼーション法入門-ホリスティックアプローチ-」 小坂橋・荒川編 日本看護協会出版会
参考書	「医療従事者のための補完・代替医療」 今西二郎 金芳堂 「いのちに触れるコミュニケーション」 菅原 努 監修（オフィスエム出版） そのほか、授業開始時に随時紹介する
成績評価	渡邊・日野担当分（1～8）：50点、小坂橋担当分（9～14）：50点、合計100点。 課題レポート（授業終了時に指示する）のオムニバス形式で評価する。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。 両者の評価を総合して、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 出席および平常評価（出席カード：20%）、レポート評価（80%）とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 渡邊勝之 研究室 : メールアドレス : k_watanabe@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義実施日 担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 10号館8階 806号室 メールアドレス : y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 小坂橋喜久代（非常勤講師） 研究室 : 非常勤講師 メールアドレス : koitabashi@tachibana-u.ac.jp オフィスアワー : 演習実施日
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 臨床で用いられる看護技術の意味を問い直し、科学的裏付けを明らかにするためのプロセスを学ぶ 2) これまでに学んだ看護技術を再度「ナースの技」として定位し、考究することができる 3) これからの看護技術とその課題について現代的課題を考察することができる
授業計画	<p>1 導入／オリエンテーション [授業概要] オリエンテーション（授業概要とねらいの説明） 看護技術について [到達目標] 看護技術についての理解を深める 現代的リベラルアーツ（文理にとらわれず広く知識を身につけながら、創造的な発想を訓練する教育システム）という視点からの看護技術への接近/再考を試みる 1) 基礎/領域実習での自らの看護実践を振り返って講義に臨むこと 2) 各自が学内と臨床で（考え方、実施方法等で）「かけ離れている」と感じたことについて発表する</p> <p>2 日常生活援助技術 再考 日常生活を支える技術の変遷と今後の課題、展望、可能性について考察することができる</p> <p>3 生命活動を支える技術 再考 診療にかかわる看護援助技術の現代的位置づけと課題について考察することができる</p> <p>4 安楽 再考 安楽とはなにか、安楽を阻害する要因やより安楽を促進することについて考察することができる 安楽/安寧と社会との関連を考究することができる</p> <p>5 自立/自律 再考 看護技術における自立/自律とはなにかを考察することができる</p> <p>6 ナースの技 再考 [エキスパート/ビギナー、専門看護師/ジェネラリスト] 看護師の役割を看護技術の視点からその深まりについて考察することができる</p> <p>7 まとめ・レポート課題発表</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で課題を提示するので、期限を守って必ずレポートを提出すること なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	適宜提示する
参考書	<p>1) 「看護の力」川嶋みどり著 岩波新書</p> <p>2) 「ナースの心」心にも効く言葉」F. ナイチンゲール著 ハーパー保子訳 サンマーク出版</p> <p>3) 「看護の挑戦 フロントランナーの仕事に学ぶ」北川隆吉監修 桐書院</p> <p>4) 「看護師の臨床の『知』 看護職生涯発達学の視点から」佐藤紀子著 医学書院</p> <p>5) 「その先の看護を変える気づき 学び続けるナースたち」柳田邦男、陣田泰子、佐藤紀子編集 医学書院</p> <p>6) 「チーム医療と看護 専門性と主体性への問い」川嶋みどり著 看護の科学社</p>
成績評価	<p>1) 授業への出席が全体の3/5以上であること</p> <p>2) 出席状況、授業への参加度、レポートの提出と内容をふまえ、総合的に評価する</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 仲口 路子</p> <p>研究室 : 10号館 8階 808研究室</p> <p>メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 木曜1限 この時間以外はメールで相談すること</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
小倉 之子、杉山 敏宏、深田 實江子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 緩和ケアの理念・歴史の変遷を理解する。 2) 日本における緩和ケアの現状と課題および看護実践について学ぶ。 3) 緩和ケアにおけるチーム医療および看護職の役割について学ぶ。
授業計画	1回 〔授業概要〕 緩和ケアとは、緩和ケアの理念・歴史とわが国における緩和ケアの現状 〔到達目標〕 緩和ケアの対象とその特徴、チーム医療の在り方が理解できる。 緩和ケアの歴史が理解できる。 日本における緩和ケアの現状について理解できる。 担当：小倉 2回 〔授業概要〕 緩和ケアの看護展開 補完代替療法の活用① 〔到達目標〕 緩和ケアにおける看護職の役割が理解できる。 〔備考〕 音楽療法の効用とケアについて 担当：小倉 3回 〔授業概要〕 緩和ケアの看護展開 補完代替療法の活用② 〔到達目標〕 緩和ケアにおける看護職の役割が理解できる。 〔備考〕 アロマセラピーの効用とそのケアについて 担当：深田 4回 〔授業概要〕 緩和ケアの看護展開 心理的支援の方法 〔到達目標〕 緩和ケアにおける看護職の役割が理解できる。 〔備考〕 心理的援助に用いるアプローチについて 担当：杉山 5回 〔授業概要〕 緩和ケア看護の実際（導入） 〔到達目標〕 ターミナル期にある人の療養の場としてのホスピスについて理解できる 〔備考〕 ホスピス、緩和ケア病棟について（役割と機能、種類、特徴など）学習する。 担当：小倉 6回-8回 〔授業概要〕 緩和ケア看護の実際・ホスピス病棟・見学 〔到達目標〕 緩和ケアチームおよびホスピス病棟の見学により緩和ケアの理解を深める。 〔備考〕 ヴォーリズ記念病院「ホスピス病棟」見学（見学に関する詳細は別途指示します） 担当：小倉
授業時間外の学習（準備学習等）について	1) 事前に教科書を熟読しておくこと。 2) 事前課題はその都度指示します。
教科書	『緩和・ターミナルケア看護論』（ヌーベルヒロカワ）
参考書	適宜紹介します。
成績評価	出席状況、レポートにて総合的に評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館8階 研究室801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 午後 担当教員名 : 杉山 敏宏 研究室 : 10号館8階 研究室807 メールアドレス : t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示 担当教員名 : 深田 實江子 研究室 : 10号館7階 研究室711 メールアドレス : t_fukada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
藤田 智恵子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	クリティカルケア看護に必要な基本的知識を修得し、三次救急の対象となる患者や侵襲の大きい手術を受けた患者など、生命危機状態にある患者に対する具体的な看護について学ぶ。
授業計画	<p>1回 クリティカルケア看護とチーム医療 [到達目標]①クリティカルケアの対象とその特徴について理解できる。②クリティカルケアに必要な看護倫理について理解できる。</p> <p>2回 生命危機状態にある患者・家族への看護 [到達目標]ICUにおける患者の反応と家族の体験について理解できる。 [備考]ICUの治療環境と看護の特徴について復習しておくこと。</p> <p>3回 クリティカルケアに必要な看護技術① [到達目標]観察とアセスメント、過大侵襲を受けた患者の生体反応、体液・循環管理、栄養・代謝管理、体温管理、感染予防策、スキンケア、体位変換・関節可動域訓練について理解できる。 [備考]前時間に指示。</p> <p>4回 クリティカルケアに必要な看護技術② [到達目標]呼吸管理、人工呼吸管理、鎮静・疼痛・せん妄時の看護技術について理解できる。 [備考]前時間に指示</p> <p>5回 クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア① [到達目標]多臓器障害および重症感染症の看護について理解できる（多発外傷、熱傷）。 [備考]多発外傷、熱傷の原因、症状、診断、治療についてレポートしておくこと。</p> <p>6回 クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア② [到達目標]過大侵襲を受けた患者の生体反応に対する看護について理解できる（冠状動脈バイパス術）。 [備考]循環器の解剖・生理、急性心筋梗塞の原因、症状、診断、治療についてレポートしておくこと。</p> <p>7回 クリティカルケアの場にかす補完代替療法 [到達目標]補完代替療法を取り入れたクリティカルケア看護を考えることができる（マッサージ、音楽療法など）。 [備考]臨床で活用されている補完代替療法について調べておくこと。</p> <p>8回 まとめ [到達目標]クリティカルケア看護についてグループ内で討議し、学びを共有することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義中に指示。
教科書	1) クリティカルケア看護学 道又元裕他 医学書院 2) 救急看護学 山勢博彰他 医学書院
参考書	講義中に紹介する。
成績評価	出席状況10%、グループワークへの参加状況10%、レポート80%にて総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火15:00-16:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	これまでの講義や実習を通して学び、考え、体験してきた自らの経験をふまえて看護における癒しとは何かを探究する。看護に生かす代替療法を体験し、その種類と方法が理解できる。
授業計画	<p>1回目 癒しとは [到達目標] 癒しについて考え意見交換し、感じたことをまとめる。</p> <p>2回目 いきがい [到達目標] いきがいについて意見交換し、どのような状況でも意味のある人生だと考えることができるひとつの方法を学ぶ。</p> <p>3回目 コラージュ [到達目標] 作品作りを通して自分の性格や考えの方向性を考える。</p> <p>4回目 精神障害者をテーマとした映画を鑑賞する。 [到達目標] 精神障害をテーマとした映画を批評的に鑑賞する。</p> <p>5回目 映画鑑賞後に各自の意見交換を行う。 [到達目標] 映画から得られた精神障害のとらえ方についてディスカッションし、自分の考えを述べる。</p> <p>6回目 代替療法とは [到達目標] 事前に調べたものを発表しどのような場面で活かされているかについて学ぶ。</p> <p>7回目 リラクゼーションとは [到達目標] 癒しに関するパンフレット作りを通して身体的・精神的効果について学ぶ。</p> <p>8回目 まとめ 学んだことを振り返り、看護と癒しの関係について考え、レポートにまとめる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	実習経験を振り返り、特に患者様との人間関係において「癒し」を感じた場面について簡単にまとめておく。どのような内容のものでも良いので、「癒し」に関して書かれた書物を一冊は読んでおく。
教科書	なし 資料を配布する。
参考書	特に指定しない。
成績評価	論述形式の筆記試験および授業への参加状況によって総合的に評価する。 (筆記試験(論述形式)70%・出席状況及び講義に臨む姿勢30%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>子どもの発達を理解するとともに危険を多面的に予測し事故防止への援助を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の発達と遊びの特徴を理解する。 2) 危険防止について考え事故防止について考える。 3) 発達障害のある子どもの事故を考える。 4) 入院中の子どもの事故の発生の実際を学ぶ。 5) 発達を促す支援を考えることができる。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の発達について再度確認する。 2) 小児の死因について統計より知る。 <p>第2回 遊びについて学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) DVD 2) 文献を読み調べる <p>第3回 小児の事故の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期の遊びと事故の特徴を知る。 2) 小児の発達と事故の関係を考える。 <p>第4回 発達生涯のある子どもの事故防止</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 家庭での事故・施設での事故 2) 事故の種類別の事例の特徴 3) 虐待 <p>第5回 入院患児の事故事例に学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院での事故 患者誤認・誤薬事故・転倒転落・誤飲・窒息 2) 死亡事故でない事例 <p>第6回 看護師の管理と観察が重要な事故</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査時の事故 2) 火傷・チューブトラブル（点滴ルート・気管内チューブ・各種廃液チューブ） <p>第7回 発達を促す看護師の関わりを考える</p> <p>小児各期毎のGWの発表</p> <p>第8回 レポート提出（評価）</p> <p>レポート課題： 講義とGWをもとに各自が①「子どもの遊びと事故の防止」②「障がい児と発達」 ①または②のレポート課題のどちらかを選んで自分の意見を含めて1600字以上3200字以内にまとめてレポートする。 提出期限は講義終了後1週間</p> <p>評価 出席とレポート 出席は、5回以上に出席でレポート提出の権利を得る。期限内にレポートを提出する事で基礎点60点とし、レポートの内容により点数の加点をする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの発達段階に応じ遊びについて調べる。 2) 実際どのような事故が報告されているか検索する。 3) 初めて聞く用語、意味不明な用語について調べる。 4) 興味を持った事項についてさらに詳細を調べる。
教科書	適宜紹介する
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子保健事業のための事故防止マニュアル(田中哲郎：国立保健医療科学院) http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/public/pdf/manual-all.pdf 2. 小児看護学教科書
成績評価	<p>レポートと授業参加度で評価</p> <p>レポート 60%</p> <p>授業参加度（出席点・GW参加度）40%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下八重子</p> <p>研究室 : 10号館8階</p> <p>メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 火曜日 15:00~16:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
田中 富美子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	個々のネットワーク、コーディネート、ケアマネージメントなどに対して、組織的、系統的な支援を行い、全体として地域保健の向上をめざす地域保健システムの発展過程を考える。
授業計画	<p>1回目 家族の支援ネットワークと支援システム（1） ソーシャルサポート理論を活用して、事例を分析する。 宿題：地域包括支援センター、社会福祉協議会、シルバー人材センターを調べておく。</p> <p>2回目 家族の支援ネットワークと支援システム（2） 独居高齢者の事例から地域保健の課題を考える。 宿題：高齢者虐待防止法、成年後見制度と地域福祉権利擁護事業を調べておく。</p> <p>3回目 家族の支援ネットワークと支援システム（3） 虐待のおそれのある事例から地域保健の課題を考える。 宿題：難病に関する施策と社会資源について調べておく。</p> <p>4回目 地域ケアシステムの構築について（1） 地域ケアシステムの概念、目的、発展過程について理解し、難病（ALS）の事例を検討する。 宿題：すこやか親子21（第2次）、母子保健に関する施策・社会資源を調べておく。</p> <p>5回目 地域ケアシステムの構築について（2） 母子関連の保健対策を検討する。</p> <p>6回目 ネットワーク化と調整活動 地域ケアシステムにおけるネットワークの形成と調整活動について理解し、認知症高齢者の例を検討する。</p> <p>7回目 地域保健活動システムのまとめ コミュニティ・ソーシャルワーカーの事例からネットワークづくりとシステムづくりを考える。</p> <p>8回目 レポート 最終レポート課題の提出</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	毎週、プリントを配布
参考書	「地域保健学.jp」荒賀直子、後閑容子編（インターメディカル） 標準保健師講座2 「地域看護技術」中村裕美子 編（医学書院）
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート等により総合的に評価する。 最終レポート課題 テーマ1. あなたの住んでいる町で住民が安心して生活するためには、どのような保健医療福祉の仕組みが必要かを述べて記述してください。 レポート用紙2枚（2400字程度）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中 富美子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : f_m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 13:00~16:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	ヘルスプロモーションの概念、変遷、ならびに公衆衛生看護における意義と展開方法について学習する。住民主体のヘルスプロモーション事例から、行政と関係機関、住民との協働による健康な地域づくりを目指すヘルスプロモーションの展開方法を理解する。
授業計画	<p>1回 健康政策とヘルスプロモーション ヘルスプロモーションの概念、変遷、国際的動向、健康日本21（目的・理念など総論を中心に）を学ぶ。</p> <p>2回 ヘルスプロモーションの実際 ライフスタイル（たばこ、身体活動、食生活）の健康影響について、健康日本21の各論を例にとり、目標設定、目標達成度、今後の課題を中心に理解する。</p> <p>3回 健康政策の評価と具体例への応用 科学的な評価の流れ、各種健康指標の意義、具体例への応用（新型インフルエンザなど、いくつかを取り上げる）を理解する。</p> <p>4回 生活習慣病のリスクファクターと対策 循環器疾患のリスクファクター、メタボリックシンドローム、特定健康診査・特定保健指導の問題点などを中心に学ぶ。</p> <p>5回 住民主体のヘルスプロモーションの展開① 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションの展開方法を事例を通して理解する。</p> <p>6回 住民主体のヘルスプロモーションの展開② 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションにおける住民、関係機関、行政の協働による展開方法を事例を通して理解する。</p> <p>7回 住民主体のヘルスプロモーションの展開：演習 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションの展開方法を演習を通して深める。</p> <p>8回 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、インフォメーションする。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
成績評価	出席状況、レポート等により総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名：佐藤裕見子 研究室：10号館8階 メールアドレス：y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
デッカー 清美、 森久美子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルヘルスの現状と課題について述べるができる。 2. 国際看護の必要性を理解し、看護や医療の質の向上および、自分が経験したことの文化について考察することができる。 3. プライマリ・ヘルスケアにおける看護職の役割について説明できる。 4. 在日外国人に対する看護活動の必要性について理解することができる。 		
授業計画	1回目	国際看護 国際看護とは何か 国際看護学の概念について理解する グローバル化と国際保健	
	2回目	グローバルヘルスの現状と課題 ミレニアム開発目標の概要と達成状況	
	3回目	在日外国人の現状 日本における「多文化共生社会」と看護 在日外国人の保健医療の現状と課題	
	4回目	グローバルな視点をもった看護師・保健師・助産師 海外で活躍する看護師・保健師・助産師の現状	
	5回目	国際的支援活動とその実際 例：国際協力機構（ODA、発展途上国）・国境なき医師団	森先生
	6回目	社会制度と看護 日本と他の国の医療事情を比較しながら世界の看護や保健制度の違いを知る。	
	7回目	国際的な視野をもつ看護師になるための挑戦 国際的に活動するとき求められる資質について考える。	
	8回目	まとめ 「国際保健・国祭看護」とは何か、自分の考えを述べるができる。（小論文）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に教科書・参考書を読んで授業に臨むこと。		
教科書	これからの国際看護学 国境を越えた看護実践のために 守本とも子 監著 PILAR PRESS		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・国際保健医療学会編：国際保健医療学、杏林書院（2014） ・田村やよい他：新体系看護学全書 看護の総合と実践3 国際看護学、メヂカルフレンド社（2014） ・ユニセフ：世界子ども白書、世界人口白書（2014）Webよりダウンロード可 ・南裕子他：国際看護学 グローバル・ナーシングに向けての展開、中山書店 		
成績評価	小論文（80%）、出席状況・授業参加状況（20%）		
担当教員の基本情報	オフィスアワー 月曜日（17：00～18：00） メールアドレス：k_decker@meiji-u.ac.jp ※事前に必ず連絡の上来室すること。		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。さらに、看護における統合医療の必要性についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補完・代替医療および統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること
授業計画	<p>1回目 統合医療総論 [到達目標] 統合医療の定義、現状、がんと統合医療を理解し、そのあり方を考える。</p> <p>[備考] 統合医療（テキスト）p. 1、p.103-133</p> <p>2回目 補完・代替医療1 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>3回目 補完・代替医療2 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>4回目 補完・代替医療3 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー1 [到達目標] メディカル・アロマセラピーの定義、エッセンシャルオイル、方法、対象疾患・症状とそのレシピなどを理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（参考書3）</p> <p>6回目 日本伝統医学としての漢方1 [到達目標] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。</p> <p>[備考] 入門漢方医学（参考書1）</p> <p>7回目 日本伝統医学としての漢方2 [到達目標] 生薬と漢方方剤を理解する。</p> <p>[備考] 入門漢方医学（参考書1）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書、参考書をあらかじめ読んでおくこと
教科書	今西二郎著：統合医療改訂2版、金芳堂、2015.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入門漢方医学、日本東洋医学会学術教育委員会編集、南江堂、2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編、日本統合医療学会、2007. 3. 今西二郎著：メディカル・アロマセラピー改訂3版、金芳堂、2015. 4. 今西二郎著：医療従事者のための補完代替医療第2版、金芳堂、2009.
成績評価	評価方法と評価割合：レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com

	オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
岸田 聡子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	メディカル・アロマセラピーの看護学への応用として、概論、演習を通して習得した知識を基に、実際に臨床で実践できるマッサージ技術を習得する。		
授業計画	1回目	アロママッサージの実際 1 [到達目標] マッサージを行う前の準備、環境の整え方を、実際に行い習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	2回目	アロママッサージの実際 2 [到達目標] 下枝後面マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	3回目	アロママッサージの実際 3 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	4回目	アロママッサージの実際 4 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	5回目	アロママッサージの実際 5 [到達目標] 下枝後面、背部マッサージの手技の確認、習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	6回目	アロママッサージの実際 6 [到達目標] 下肢前面マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	7回目	アロママッサージの実際 7 [到達目標] 腹部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	8回目	アロママッサージの実際 8 [到達目標] 手のマッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	9回目	アロママッサージの実際 9 [到達目標] 前胸部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	10回目	アロママッサージの実際 10 [到達目標] 下肢前面、腹部、手、前胸部マッサージの手技確認、習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	11回目	アロママッサージの実際 11 [到達目標] フェイシャルマッサージの習得	

	<p>12回目</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロママッサージの実際1 2 [到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>13回目</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロママッサージの実際1 2 [到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>14回目</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロママッサージの実際1 2 [到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>15回目</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 実技試験 [到達目標] 実技習得の確認</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	練習を行い、実技の習得を目指すこと。
教科書	統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版
参考書	1. 今西二郎、荒川唱子編：アロマセラピー入門第2版、日本看護協会出版会、2010.
成績評価	全身マッサージの実技試験により評価する
担当教員の基本情 報	担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。 漢方医学の全体の概念を把握する。		
授業計画	1回目	近代医学と漢方医学 [到達目標] 西洋医学と東洋医学の違いを把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	2回目	伝統医学の歴史 [到達目標] 日本・中国各々の伝統医学の歴史を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	3回目	漢方医学と中医学 [到達目標] 日本伝統医学である漢方医学と中国で実践されている中医学の違いを把握・理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	4回目	漢方の疾病概念：三陽三陰 [到達目標] 三陽三陰の「三陽」の概念を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	5回目	漢方の疾病概念：気・血・水 [到達目標] 気・血・水を使つての病態把握を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	6回目	疾病概念としての五行説 [到達目標] 五行説を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	7回目	漢方方剤の解説① [到達目標] 漢方方剤を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	8回目	漢方方剤の解説② [到達目標] 漢方方剤を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	9回目	漢方方剤の解説③ [到達目標] 漢方方剤を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	10回目	漢方方剤の解説④ [到達目標] 漢方方剤を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	11回目	日本の伝統民間薬 [到達目標] 日本の伝統民間薬	

	<p>12回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 武田薬草園見学 [到達目標] 薬草園で実際の生薬を確認する。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 武田薬草園見学 [到達目標] 薬草園で実際の生薬を確認する。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 武田薬草園見学 [到達目標] 薬草園で実際の生薬を確認する。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 まとめ。今後の、日本における西漢医結合 [到達目標] 西洋医学と漢方医学yをいかに投合して適切な医療を実践するかを理解する。</p> <p>[備考] 日本における西漢医結合について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導
教科書	「専門医のための漢方医学テキスト」(日本東洋医学会学術教育委員会) ※購入は自由
参考書	「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラ ※受講生に配布
成績評価	レポートによる総合的な判定とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中邦雄(教授) 研究室 : 統合医療学(明治国際医療大学附属統合医療センター) メールアドレス : ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターにて対応。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	【看護師・保健師が学ぶ運動療法】 医療現場で生かせる運動療法を体験することにより、集団運動指導ができることを目的とします。また、医療人としてのコミュニケーション能力の向上を目指します。
授業計画	<p>1回目 医療現場で生かせる運動療法を体験することで、楽しい運動指導ができることを目指す。医療人としてのコミュニケーション能力の向上と、楽しい運動実践と集団運動指導法を実践体得する。 ボール運動、シートウォーキングを体験する。</p> <p>2回目 健康ウォーキング1 健康ウォーキング理論 屋外健康ウォーキングの実際(校内コースA) ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを理解する。</p> <p>3回目 健康ウォーキング2 屋外健康ウォーキングの実際(校内コースB) 心肺持久力機能の向上と、生活習慣病予防・健康づくり運動を理解する。</p> <p>4回目 運動療法1 ボール運動1 布ボール、軽量ボール、1～3kgメディシンボール他 筋力と巧緻性向上のボール運動を理解する。</p> <p>5回目 運動療法2 ボール運動2 キック、バッティング系種目 筋力・巧緻性・骨粗鬆症予防運動を理解する。</p> <p>6回目 運動療法3 手作り仕様 シート・ウォーキング、スクエアシート他 持久力向上・転倒予防・認知症予防運動を理解する。</p> <p>7回目 運動療法4 対人型運動 風船バドミントン、ミニ・テニス、卓球 継続させたい楽しい健康づくり運動を理解する。</p> <p>8回目 運動療法5 レクリエーション系 パターゴルフ、輪投げ、ボウリング他 継続実践できる楽しい健康づくり運動を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義前後にストレッチを行うこと。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	成績評価は出席（75%以上）を中心にし、授業態度及び参加度を加味して、評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
渡邊 勝之			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本授業科目は、セルフケアとしての温灸療法について学習する。 看護師は身体的にも、精神的にもストレスが多く、心身の変調をきたしやすい職種と云われている。そうしたストレスを緩和し、心身良好な状態で日々を過ごせるように支援すること、また職場での円滑な職務遂行とともに様々なアクシデントを防ぐことをサポートすることが大切である。 そのために家庭でできるツボ療法の一環として温灸を用いたセルフケアの理論と実際を学習し、看護師および女性によくみられる症状を取り上げた実践的な温灸療法とセルフケアの方法を修得する。</p>
授業計画	<p>講義1 養生（セルフケア）と健康生成論（サルトジェネシス） 東洋医学における養生（セルフケア）と現代医療における健康生成論（サルトジェネシス）の総論について理解し、要点を説明することができる。</p> <p>講義2 養生（セルフケア）と健康生成論（サルトジェネシス） 東洋医学における養生（セルフケア）と現代医療における健康生成論（サルトジェネシス）の総論について理解し、要点を説明することができる。</p> <p>演習1 養生法（セルフケア）の実際 セルフケアおよび看護師として実践できる、養生法の基本（呼吸法・手当）を理解し、実践することができる。</p> <p>演習2 適した温灸を実践するための診察法 お灸は古来より、健康法の一つとして、民間療法的に実践されてきた。お灸をして良い場所、より効果を出すための取穴方法を理解し、実践することができる。</p> <p>講義3 灸療法の種類と特徴について 灸療法の種類とその特徴の概要を理解し、症状に応じて使い分けることができる。</p> <p>演習3 灸実技の基本 灸療法の実際を学習し、施灸することができる。</p> <p>演習4 症状に対する温灸療法の実際 冷え症・生理痛・便秘・腰痛・肩こり・疲労・肌荒れ・その他の温灸の実際を学習する。</p> <p>まとめ レポート作成 講義および演習で学んだことを、セルフケアおよび看護でどのように生かすことができるかを考える。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	特に必要なし
教科書	医学・医療原論 いのち学&セルフケア 渡邊勝之 錦房株式会社。
参考書	特に必要なし
成績評価	<p>評価：平常評価（受講態度、出席カード：50%）とレポート評価（50%）による。 試験：受験資格は出席日数3/5以上とする。 成績：60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 渡邊勝之 研究室 : メールアドレス : k_watanabe@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義実施日</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司、中務 直美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>(中務担当分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットケアに関する基礎的知識を得る。 ・フットケアに関する専門知識を統合して実践方法を知る。 ・フットケアにおける看護師の役割を考えることができる。 <p>(松元担当分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットケアにおける効用は全身に繋がっているという理解と、改善のための手技を習得する。 		
授業計画	1回目	フットケアとは何かを理解する [授業概要] ・フットケアの意義 ・看護におけるフットケア ・足の構造と足病変	
	2回目	フットケアのためのスキンケアを知る [授業概要] ・皮膚の構造 ・高齢者の皮膚 ・スキンケアの方法	
	3回目	フットケアの実際を理解する [授業概要] ・足のアセスメント ・爪のケア ・胼胝・鶏眼	
	4回目	足病変について知る [授業概要] ・足潰瘍の評価と実際 ・糖尿病性潰瘍の治療とケア ・静脈性潰瘍の治療とケア	
	5回目	虚血肢について理解する [授業概要] ・血流の重要性 ・治療とケア	
	6回目	足の褥瘡について理解する [授業概要] ・足潰瘍と足の褥瘡の違い ・拘縮とポジショニング	
	7回目	フットケアにおけるリスクマネジメントとチーム医療を理解する [授業概要] ・看護における爪切りとは ・院内連携と地域連携	
	8回目	触れることの意義を考える [授業概要] ・身体のとらえ方 ・タッチについて考える ・スキンシップの意味	
	9回目	足の構造を知る [授業概要] ・正常なアライメント ・足の機能 ・アーチは何のためにあるのか	
	10回目	足の構造の異常 [授業概要] ・崩れたアライメント ・崩れるとどんな影響があるのか	
	11回目	皮膚への触れ方を身に付ける [授業概要] ・皮膚の触り方 ・指の使い方 ・力の加え方	
	12回目	足に対してのアプローチ [授業概要] ・足の触り方 ・ポイントと注意点	
	13回目	フットケアから全身を考える (1) [授業概要] ・木を見て森を見ず (病を見て人を見ず) にならないために	

	<p>14回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足は全身に繋がっているという視点 フットケアから全身を考える (2) <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝や股関節への影響 ・肩甲骨や上肢への影響 <p>15回目</p> <p>まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	臨床に必要な知識として機能解剖があり、習得するために反復して行うことが必要であり小テスト等により理解する。また実技においては期を通して実技を継続して行うことが必要である。(松元担当分)
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	筆記試験
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 松元 隆司</p> <p>研究室 : トレーナーズルーム</p> <p>メールアドレス : pochimatamoto@yahoo.co.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 中務 直美</p> <p>研究室 : 非常勤講師室</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

講義科目名称：卒業研究

授業コード：2K428

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	3	必修
担当教員			
山下 八重子 他			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：演習	

授業目標	各担当教員
授業計画	ゼミ 各領域のゼミで担当学生を決定し研究を進める。 各担当教員
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各担当教員
教科書	各担当教員
参考書	各担当教員
成績評価	各担当教員
担当教員の基本情報	山下八重子 10号館809号室 ゼミ担当教員
備考	